

- 二按齋(にあんさい・土肥) → 徳経(のりつね・土肥どひ、国学/歌人) J 3 5 2 8  
 二位(にい;字) → 日昌(にっしょう;法諱、日蓮僧) E 3 3 2 0
- G3394 新桜(にいざくら;組連) ? - ? 江中期江戸麻布の雑俳の組連、  
 取次;1746「雲鼓評万句合」入、取次例;[三度目は彼かの張良も寝ずに行き](雲鼓;万句合)、  
 (万句合/前漢功臣張子房は黄石公から軍学書を受領)、  
 (江蘇下邳がひの圮橋いさきょうで老人の杵を拾得し後日約束場所で遅いと叱られ3度目に達成)  
 元文二1737頃麻布に[さくら](組連)がある;[新桜]はその改組or別組織か?  
 → さくら(;組連/雑俳) E 2 0 3 5
- 3300 新田部皇子(にいたべのみこ、天武天皇第7皇子)681-73555 母:藤原鎌足女の五百重娘(藤原夫人)、  
 一品/畿内第惣管、万葉集には歌なし;人麻呂の献上歌あり;万葉261-2
- 3308 二一(にいち・吉田よしだ) ? - ? 江中期浄瑠璃作者:すべて補助、  
 玉泉堂/吉田冠子2世/福内鬼外(源内)などの補助作、  
 1769「蝦夷錦振袖雛形」「時代世話女節用」/-70「神靈矢口渡」著
- 仁市郎(いちろう・坂野) → 敏知(としとも・坂野さかの、商家/歌人) V 3 1 3 3  
 二位阿闍梨(にいのあじり) → 日出(にっしつ;法諱・一乗院、日蓮僧) E 3 3 1 0  
 二位尼(にいのあま) → 時子(ときこ・平、時信女、清盛室) J 3 1 1 4  
 二位僧都(にいのそうず) → 全真(ぜんしん;法諱、清盛の猶子、歌人) G 2 4 0 5  
 新家皇女(にいのみひめみこ) → 元正天皇(げんしょうてんのう、万葉歌人) 1 9 1 9
- 3309 贊法師(にえほうし) ? - ? 1545「新撰之消息」写(「異制庭訓往来」現存最古写本)
- 3310 仁右衛門(にえもん・鷺さぎ/初姓;長命、三郎四郎男)1560-1650or51?長寿91-92? 狂言方能楽師:  
 鷺流10世;事実上鷺流の祖、宝生座付のち幕命で観世座付、1605頃長命氏を鷺氏に改名、  
 「謡狂言名寄」著、奇抜で將軍から咎を受けた、  
 [仁右衛門の別名/通称/号] 別名:伊[猪]右衛門/正次、通称:大鷺、号:宗玄
- 3311 仁右衛門(にえもん;通称・古賀こが、名;重定)?-? 筑前上座郡入地の太田屋/河川井堰工事、  
 荒地開墾事業、1703「朝倉紀聞」著
- H3309 仁右衛門(にえもん・太田おた、旧姓;片岡)1710-188778 但馬城崎の生、  
 朝来郡生野銀山町の太田家の養子/生野代官所に出入;郷宿経営/歌人;香川景樹門/能書、  
 勤王の志厚く農兵組織に尽力/1863(文久3)10月生野義挙に参加;兵糧方として斡旋、  
 義挙破れ11月出石藩兵に捕縛投獄/のち町預け;1868赦免
- 二右衛門(にえもん・糠塚屋) → 梢隆(すえたか・森野もりの、農業/国学/歌) J 2 3 3 1  
 仁右衛門(にえもん・田原) → 嘉明(よしあき・田原たわら/坂、和算家/歌) B 4 7 8 7  
 仁右衛門(にえもん・滝田/安藤) → 東野(とうや・安藤、修姓;藤、儒者) 3 1 2 4  
 仁右衛門(にえもん・鷺) → 馬菟(ばけん・鷺さぎ、狂言師/俳人) E 3 6 2 2  
 仁右衛門(にえもん・平岡) → 資模(すけのり・平岡ひらおか、幕臣) G 2 3 9 3  
 仁右衛門(にえもん・高瀬) → 梅盛(ばいせい・高瀬、俳人/狂歌) 3 6 0 6  
 仁右衛門(にえもん・銭屋) → 辰宣(ときふ・北尾、絵師) J 3 1 7 2  
 仁右衛門(にえもん・鞍屋) → 蘭溪(らんけい・内海うつみ、本草学者) B 4 8 8 5  
 仁右衛門(にえもん・児玉) → 則忠(のりただ・児玉こだま、藩士/兵学) E 3 5 9 7  
 仁右衛門(にえもん・内山) → 逸峰(はやみね・内山うちやま、歌人/紀行) F 3 6 7 5  
 仁右衛門(にえもん・彭城/劉) → 素軒(そけん・劉りゅう/彭城/武岡、通事) J 2 5 6 0  
 仁右衛門(にえもん・東儀) → 心非(しんび;号・東儀、幕臣/俳人) 2 2 7 0  
 仁右衛門(にえもん・古川) → 躬行(みつら/みゆき・古川ふるかわ、国学/神職) F 4 1 2 7  
 仁右衛門(にえもん・田中/高田) → 与清(とときよ・小山田おやまだ、国学者) 3 1 6 0  
 仁右衛門(にえもん・袴屋) → 古愚(こぐ・西村にしむら、商家/詩人) M 1 9 1 5  
 仁右衛門(にえもん・山田) → 嘯廬(しょうろ・山田やまだ、詩歌人) M 2 2 0 8  
 仁右衛門(にえもん・篠沢) → 秀雅(ひでまさ・篠沢しのざわ、文筆家/歌人) D 3 7 8 3

- 仁右衛門(にえもん・今井)→ 方副(まさすけ・今井いまい、国学者) L 4 0 8 4  
仁右衛門(にえもん・高井)→ 守一(もりかず・高井たかい、名主/和学) K 4 4 3 7  
仁右衛門(9代にえもん・藤堂)→ 高基(たかもと・藤堂、藩士、詩/兵法) N 2 6 4 3  
仁右衛門(にえもん・三階屋)→ 道雄(みちお・新庄/藤原、商家/国学者) B 4 1 2 6  
仁右衛門(にえもん・岩崎)→ 利記(としのり・岩崎いわさき、里正/歌人) U 3 1 3 0  
仁右衛門(にえもん・増田)→ 正房(まさふさ・増田ますだ、藩士/尊攘/歌) S 4 0 5 8  
丹右衛門(にえもん・松井)→ 益江(ますえ・松井まつい、藩士/本草/歌) S 4 0 6 1  
二応庵(におうあん) → 普然(ふぜん・栗田くりた、俳人) D 3 8 1 0  
二桜房(におうぼう) → 浄月(じょうげつ; 法諱、真言僧/歌人) G 2 2 3 7  
尼屋(におく・榊原) → 芳野(よし・榊原さかきばら、国学者) F 4 7 5 2
- H3310 鴫子(にお・佐々木ささき、旧姓; 田上) 1797-1868 72 伊勢石薬師の佐々木徳綱の妻、弘綱の母、  
国学者/歌人、弘綱編[明治開化和歌集]入
- 3312 薫子(にお・若江わかえ、初名; 文子、量長かずなが2女/本姓菅原) 1835-81 47 京和漢学; 父門/岩垣月洲門、  
書道・詩歌など厳格な教育を受ける、秀才/能筆、歌; 千種有功門、  
1867一条美子(はるこ[寿栄姫; 後の昭憲皇太后])の侍独; 養育係学問師範に抜擢/宮中出仕、  
維新後; 皇后付き女官として政治的発言力を持つ; 老女村岡と儒教に基づく攘夷論、  
1869東京遷都に反対する建白・十津川郷士の助命嘆願; 新政府の反感を買い参内禁止、  
1871禁錮2年の実刑判決; 若江邸座敷牢/72父没/放免後は門弟頼りに西国転々の不遇;  
遍歴しながら漢学や歌を教える; 丸亀で没、  
「菅原薫子建言」「和解女わけおんな四書」「本邦烈女伝」「杞憂独語」著、  
[薫子(;)名]の号] 秋園/秋蘭/袖蘭、 のち杉本苑子の小説「秋蘭という女」のモデル
- 鴫浮巢翁(におのうきすおう) → 眞激(まさもと・宍戸ししど/林、藩士/国事) H 4 0 9 6  
鴫舎(におのや) → 方升(まさのり・友部ともべ、藩士/国学/歌) G 4 0 1 7  
二階堂(にかいどう) → 長恵(ちやうえ; 法諱・智生房、真言僧/声明) H 2 8 3 4  
二月坊(にがつぼう/きさらぎぼう) → 円入(えんにゅう; 号、二月坊、俳人) B 1 3 8 4  
二観堂(にかんどう; 号) → 智応(ちおう; 法諱・等空; 字、真言律僧) 2 8 4 9  
二喜(にき・琴樹園) → 琴樹園(きんじゅえん・二喜、狂歌作者) H 1 6 9 9
- 3313 和雄(にぎお・市岡いちおか、初名; 猛正たけまさ、猛彦たけひこ男) 1808-71 64 尾張藩士/1827家督/書院番格、  
本丸番、儒/歌; 父門、維新の時金鉄党首領、母; 陸子みちこ(歌人)、織田豊秋の師、  
「榊園集」「あなかま草紙」「思出草」著、  
[和雄の通称/号] 辰五郎/犇蔵ほんぞう、号; 榊園こくえん
- H3333 和夫(にぎお・福田ふくだ、初名; 能保) 1808-68 61 紀伊名草郡の国学者; 本居大平門、  
神道; 紀尚長ひさなが門/歌; 富樫広蔭門、紀伊和歌山中之島八幡神社祠官、  
[和夫(;)名]の字/通称/号] 字; 子安、通称; 門之助/久右衛門/文吉郎/左近太夫、  
号; 翠園/石候/樟下舎/くすのもと/久春園、屋号; 楠本屋
- H3314 饒石(にぎし・並河なみかわ、高島宣陽のぶはる長男) 1814-43 30 近江高島郡の郷代官の家/国学・歌; 父門、  
京住; 並河家の養子/青蓮院宮に出仕、国学; 本居内遠門、  
[饒石(;)名]の初名/通称] 初名; 宣賢、通称; 掃部かもん/東市
- 仁吉(にきち・荒瀬) → 安船(やすふね・荒瀬あらせ、商家/国学/歌) E 4 5 8 6  
仁吉(にきち・村田) → 幸麿(ゆきまる・村田むらた、商家/国学者) H 4 6 3 4  
二鬼島道智斎(にきじまどうちさい) → 道智斎(どうちさい・二鬼島、商人/史家) G 3 1 4 0
- H3301 和久(にぎひさ・菊池/菊地きくち/本姓; 藤原) 1779-1852 74歳 伊予宇和島藩士/伊方浦八幡宮神主、  
神道; 常磐井守貫門/京吉田の皇學館に修学/教授、国学者; 本居大平・左倉守光門、  
大平撰「八十浦の玉」下巻; 長歌/短歌入、芝和麿かざるの父、  
[ところづらいやとこしへに遠御代の直き手ぶりを忍ばせあがせ](八十浦; 914、  
玉銚百首講釈の折、遠つ人まつ常葉のとこしへにふりにし跡を君にきかまし、  
と或人が詠んだのに返し)、  
[和久(;)名]の初名/号] 初名; 安章、号; 桃屋
- H3307 饒穂(にぎほ・内田うちだ、) 1836- 1903 68 美作東北条郡上加茂村の庄屋、  
歌人; 随円寺日章門/漢学; 佐々木雪峰門、勤王思想; 浪士を援助、製糸・養蚕業振興、

- 維新後; 県会議員、  
 [饒穂(;)名)の別名/通称] 初名; 豊寛とよひろ、通称; 実蔵/藤右衛門
- H3313 **和布麿**(にぎまろ・竹中たけなか、?)-1870 陸奥二本松藩士/国学者; 本居大平門、  
 [和布麿(;)名)の通称] 七兵衛/久兵衛  
 仁喜弥(にきや・朝間/森) → 文作(ぶんさく・森/朝間、書家/寺子屋) F 3 8 3 6
- G3388 **二丘**(にきゅう・半沢はんざわ、通称; 久次郎) 1778-1856 79歳 羽前漆山村の農業/豪農・村名主、  
 俳人: 一具門、立石寺等に芭蕉句碑建立、「まゆはき」編  
 [二休の別号] 桃臯/桃臯亭/青羅堂/対巖堂  
 二休(にきゅう) → 二休(じきゅう、俳人) B 2 1 6 1  
 二郷(にきょう・浦上) → 春琴(春葉しゅんきん・浦上/紀、絵師/詩) J 2 1 4 1  
 二郷(にきょう・清水) → 樺洲(れきしゅう・清水、儒/武術/故実) 5 1 7 8  
 二橋庵(にきょうあん) → 常仙(じょうせん・志村しむら、俳人) T 2 2 9 3  
 二橋庵(にきょうあん) → 湖十(3世こじゅう、俳人) C 1 9 8 4  
 二橋外史(にきょうがいし) → 侃斎(かんさい・石川いしかわ、絵師) D 1 5 6 7
- G3389 **二曲**(にきよく・松貴まつき、名; 文寿、別号; 夜雨亭) 1735-1804 70歳 伊勢浦口の俳人: 芭蕉に私淑、  
 宗匠; 夜雨亭の祖、1773「夜雨亭春日吟」77「夜雨亭詩興吟」編  
 二去堂主人(にききどうしゅじん) → 浩(ひろし・山川やまかわ、藩士/軍人/官僚) J 3 7 6 7  
 宍翁(にくおう) → 眞激(まさもと・宍戸ししど/林、藩士/国事) H 4 0 9 6  
 肉生(にくせい・安田/山県) → 璣(たまき・山県/宍戸、藩士/儒者) S 2 6 2 3  
 二九亭(にくたい: 俳名) → 団十郎(7世だんじゅうろう・市川、歌伎役者/合巻) 2 6 9 1  
 二君堂主人(にくんどうしゅじん) → 松塙(しょう・渡辺わたなべ、和漢学/詩人) G 2 2 9 4  
 逃道(逃路にげみち・奥手) → 奥手逃道(奥手逃路おくのてのにげみち、狂歌) B 1 4 7 7  
 二股庵(にこあん) → 樗良(ちよら・三浦みづら、俳人) 2 8 3 1
- 3314 **日向**(にこう: 法諱、俗名; 小林藤三郎実長、小林民部実信男) 1252-1314 63歳 上総の僧; 日蓮門、  
 日蓮宗身延久遠寺2世、日蓮の廟所を守る/系統は身延門流; 日蓮門六老僧の1、  
 「高祖一期行状日記」「金綱集」著、  
 [日向の通称] 佐渡阿闍梨/民部阿闍梨、
- G3393 **二口**(にこう) ? - ? 美濃岩村の俳人; 1703不角「広原海わたつみ」入、  
 [須田町すだちょうの鬼灯ほづき国の伯父に見せ](広原海/前句; 繁昌な事繁昌な事)  
 (神田須田町は青物市場で江戸名所/田舎から出てきた伯父に国への土産話にさせる)  
 二江亭(にこうてい) → 桃秋(とうしゅう・広瀬、商/俳人、淡窓父) E 3 1 9 4  
 二幸楼(にこうろう・楽山) → 重名(しげな・渡辺わたなべ、神職/国学者) C 2 1 5 8  
 和煦(にこてる・岡田/日野) → 醸泉(じょうせん・日野、儒者) K 2 2 5 0  
 二斎(にさい・長島) → 尉信(やすぶ・長島/小泉、農政家) C 4 5 5 7
- 3315 **仁左衛門**(初世にざえもん・片岡かたおか) 1656-1715 60 上方歌伎役; 実悪/座本
- 3316 **仁左衛門**(7世にざえもん・片岡かたおか、2世浅尾国五郎) 1755-1837 83 京の歌舞伎役者; 立役、  
 芸域広く実悪・女形まで、1788襲名[4世or6世説あり]、  
 [俳名]; 我童/梅里/万麿、南麗舎
- 3317 **仁左衛門**(8世にざえもん・片岡かたおか、我童/我当、俳; 芦燕、7世養子) 1810-63 54歳 京の歌舞伎役者、  
 1857襲名; 片岡仁左衛門8世/座頭
- 3318 **仁左衛門**(にざえもん・林はやし) ? - ? 江後期絵師、  
 1841三保喜左衛門談「唐太話」挿画; 虎之助評注  
 仁左衛門(にざえもん・田原) → 嘉明(よしあき・田原たわら/坂、和算家/歌) B 4 7 8 7  
 仁左衛門(4世にざえもん・片岡) → 茶谷(さく、藤川、歌舞伎役/作者) F 2 0 1 7  
 仁左衛門(にざえもん・中村) → 伝七(でんしち・中村、歌舞伎役/作者) D 3 0 6 5  
 仁左衛門(にざえもん・大場) → 寥和(初世りょうわ・大場、俳人/五色墨) J 4 9 6 6  
 仁左衛門(にざえもん・辻/土生) → 横塘(おうとう・春田/角野/海老名、儒者) C 1 4 1 5  
 仁左衛門(にざえもん・鬼沢) → 大海(おおみ・鬼沢おにさわ、国学者/歌) C 1 4 8 4  
 仁左衛門(にざえもん・片岡) → 寛光(ひろみつ・片岡/所、名主/国学/歌) H 3 7 4 1  
 仁左衛門(にざえもん・長井) → 能賢(よししかた・長井ながい、州吏・歌人) O 4 7 2 1

仁左衛門(にざえもん・長尾)→ 景寛(かげひろ・長尾まななお、歌学/藩士) V 1 5 2 5  
 仁左衛門(にざえもん・見坊)→ 景兼(かげかね・見坊けんぼう、藩士/軍術) K 1 5 8 7  
 仁左衛門(にざえもん・野口屋)→ 重門(重角しげかど・大矢/河地、商家/歌) C 2 1 1 0  
 仁左衛門(二左衛門にざえもん・長島)→ 尉信(やすのぶ・長島/小泉、農政家) C 4 5 5 7  
 仁左衛門(にざえもん・池田)→ 籬島(りとう・秋里/穉里あきさと、読本/函会作者) C 4 9 2 8  
 仁左衛門(にざえもん・湊屋)→ 吉員(よしかず・百瀬ももせ、国学/歌人) P 4 7 6 1  
 仁左衛門(にざえもん・松原)→ 樸園(れきえん・松原まつばら、儒者/史学) 5 1 7 3  
 仁左衛門(にざえもん・福島屋)→ 七珍万宝(しちちんまんぼう、商家/戯作・狂歌) 2 1 2 8  
 仁左衛門(にざえもん・天満屋三代目)→ 乾什(けんじゅう・岩本、妓楼主人/俳人) C 1 8 0 7  
 仁左衛門(にざえもん・天満屋)→ 正朔(せいさく・竹島、竹婦人、妓楼主人/俳人) B 2 4 6 9  
 仁左衛門(にざえもん・田村)→ 吉茂(よししげ・田村たむら、農業) D 4 7 6 5  
 仁左衛門(にざえもん・今井)→ 方副(まさすけ・今井いまい、国学者) L 4 0 8 4  
 仁左衛門(にざえもん・吉井)→ 友実(ともざね・吉井よしい、藩士/国事) P 3 1 5 3  
 仁左衛門(にざえもん・山内)→ 俊行(としゆき・山内やまうち、歌人) T 3 1 5 5  
 仁左衛門(にざえもん・山田)→ 嘯廬(しょうろ・山田やまだ、商家/詩歌) M 2 2 0 8  
 仁左衛門(にざえもん・富田)→ 紹実(つぎざね・富田とみた、藩老/国学) G 2 9 0 3  
 仁左衛門(にざえもん・浦野)→ 神村(しんそん・浦野/源、藩士/儒者) P 2 2 3 3  
 仁左衛門(にざえもん・木綿屋)→ 其湛(つねやす・齋藤さいとう、酒造業/歌人) F 2 9 7 3

G3398 仁三郎(にさぶろう) 1676 - ? 1739(64歳)存 遠江新居あらいの船員;水主/21年間漂流、  
 詳細参照 → 甚八(じんぱち、楫取/漂流) S 2 2 4 0

仁三郎(にさぶろう・土持;変名)→ 北斎(ほくさい・葛飾、絵師/葛飾派祖) 3 9 6 2  
 仁三郎(にさぶろう・嶋) → 英琳(えいりん・嶋しま、絵師) C 1 3 0 8  
 仁三郎(にさぶろう・室谷) → 賀親(よしかか・室谷むろたに、商家/国学者) E 4 7 5 8  
 仁三郎(にさぶろう・山田) → 丸鉄(がんてつ・山田やまだ、儒者/詩文) R 1 5 4 9  
 仁三郎(にさぶろう・三谷) → 坦斎(たんさい・三谷/前田、刀匠/俳) T 2 6 5 2  
 仁三郎(にさぶろう・室田) → 正良(まさよし・室田むろた、幕臣/軍学) I 4 0 5 5  
 仁三郎(にさぶろう・松井) → 隆暢(たかのぶ・松井まつい、里正) Z 2 6 5 3  
 仁三郎(にさぶろう・岡田) → 正期(まさとき・岡田おかだ/大橋、商家/歌) O 4 0 5 6  
 仁三郎(にさぶろう・山吹) → 正直(まさなお・山吹やまぶき/鈴木、藩士/歌) T 4 0 5 3  
 二三(にさん・春川) → 英琳(えいりん・嶋しま、絵師) C 1 3 0 8  
 二三治(にさんじ) → 二三治(にそうじ、歌舞伎作者) 3 3 0 2  
 尼山亭(にざんてい) → 富南(ふなん・秋山あきやま、郷土/地誌) D 3 8 5 7  
 爾時庵(にじあん/じじあん) → 泰禅(たいぜん:法諱・雲樞うんけい、曹洞僧) K 2 6 4 7  
 爾時庵(にじあん/じじあん) → 沂風(きふう・塩路、俳人) B 1 6 7 3  
 二時庵(にじあん) → 都丸(とが丸・後町うしろまち、俳人) I 3 1 8 5  
 二時庵(にじあん) → 孟政(たけまさ・中村なかむら、酒造業/歌人) Y 2 6 6 3  
 西市佑(にしちすけ・山田) → 時亮(ときすけ・山田やまだ、陪臣/歌人) W 3 1 8 7  
 西河岸の東潮(にしがしのとうちよう) → 東潮(とうちよう・和田わだ、俳人) G 3 1 4 4

3319 西風(にしかぜ・波多野はだの) 1682-1754 73歳 豊後日田竹田の商人/俳人:安楽坊/廬元坊門、  
 「ひと白餅」著、

[西風の通称/別号]通称;吉六、号;二四風/白露風庵/四節亭、法名;西道さいどう

G3395 にしき(;組連、にしきゞ)?- ? 江戸飯田町中坂(飯田橋/九段付近)の川柳の組連、  
 1762・63・64・66・76「川柳評万句合」入、川柳評に3千余句を取次、  
 1764・66「露玉評万句合」入、

取次例:[炭部屋を出ると四五十食らわせる](1762川柳評万句合/前句;いやが上にも々々)、  
 (四十七士は憤りのため上野介を切る前に各々が先ず殴りつけたという穿ち)

[頼秀(;名)の幼名/号]幼名;医王丸、号;

錦久留丸(にしきのくるまる) → 五蘭(ごらん・一亭、戯作者) N 1 9 8 8  
 錦小路(にしきのこうじ) → 頼秀(よりひで・丹波たんば、廷臣/医者) J 4 7 5 6  
 錦小路殿(にしきのこうじどの) → 清子(せい・上杉/足利、尊氏直義母/歌) B 2 4 8 0

- 錦小路殿(にしきのこうじどの)→直義(ただよし・足利、武将/歌人) G 2 6 0 4  
 錦文流(にしきぶんりゅう;号)→文流(ぶんりゅう・錦にしき、俳/浄瑠璃・浮世草子) 3 8 2 7  
 錦織僧正(にしごりのそうじょう)→行観(ぎょうかん、天台僧正/歌人) C 1 6 3 3  
 H3369 錦織八郎(にしごりのはちろう) ? - ? 平安後期;歌人;公円門、  
 天台園城寺僧行観(1013-73)が近江滋賀の錦織莊尊勝寺在住時に童として出仕、  
 真如院僧都公円にひいきにされ歌を習う;[山家秋月]の詠に公円より歌を貰い詠む;  
 [いかばかりさびしからまし山里の月さへすまぬこの世なりせば];  
 当座に褒あり歌仙の名を挙げる逸話(;袋草紙入)  
 織錦斎(にしごりのや) → 春海(はるみ・村田、国学/歌人) 3 6 3 6  
 西三条右大臣(にしさんじょううだいじん)→良相(よしむ・藤原、冬嗣男/歌) H 4 7 2 5  
 西太(にした・帆南) → 帆南西太(ほなみにした、狂歌作者) E 3 9 7 5  
 西武(にしたけ;名・山本) → 西武(さいむ;号・山本、俳人) 2 0 0 7  
 西谷殿(にしたにどの) → 基平(もとひら・近衛/藤原、左大臣/歌) E 4 4 0 4  
 似実軒酔茶(にじっけんすいちや)→酔茶(すいちや・似実軒にじっけん、川柳集編) E 2 3 3 4  
 二字亭(にじてい) → 政辰(まさとき・浅井、藩士/俳人) E 4 0 3 7  
 西成(にしなり・跡見) → 滝野(たきの・跡見あとみ、絵師/書/教育) V 2 6 2 2  
 西洞院法印(にしのだういんのほういん)→心聡(しんそう;法諱、天台僧) P 2 2 1 7  
 西の丸殿(にしのみるどの) → 淀君(よどぎみ、浅井長政女/秀吉側室) I 4 7 1 8  
 西宮左大臣(にしのみやさだいじん)→高明(たかあきら・源、歌人) 2 6 0 7  
 螺舎(にしのや) → 香以(こうい・細木ほそき/さいき、商家/俳人) 1 9 7 0  
 西畑(にしはた・今治) → 西畑(さいはた・今治、俳人) I 2 0 6 2  
 西福武(にしふくたけ) → 允(まこと・福武ふくたけ、漢学/歌人) 4 0 7 6  
 二字守(にじもり・堪忍舎)→堪忍舎二字守(かんにんしゃにじもり、狂歌) R 1 5 5 9  
 西山宮(にしまみや) → 道覚親王(どうかくしんのう、天台僧、歌人) C 3 1 2 4  
 3320 爾周(にしゅう・有嘉子うかこ;姓)?-? 江前期伊勢の俳人、  
 1690歌仙を収集:のち1694半日亭梅中が「よいをの森」として補訂・編刊  
 二州(にしゅう→じしゅう) → 克讓(こくじょう・石室、真宗僧) C 1 9 3 6  
 二洲(にしゅう→じしゅう) → 二洲(じしゅう・尾藤びとう、儒者/詩人) 2 1 2 1  
 二洲(にしゅう→じしゅう・長島)→尉信(やすのぶ・長島/小泉、農政家) C 4 5 5 7  
 二州(にしゅう→じしゅう・藤堂)→高潔(たかきよ・藤堂とうどう、藩主/書画) L 2 6 7 9  
 廿四橋外史(にじゅうしきょうがいし)→幸忠(ゆきただ・山中やまなか、歌人) E 4 6 7 7  
 廿代山人(にじゅうだいさんじん)→敦本(あつもと・美代みしろ、儒者/医) E 1 0 8 9  
 二州道人(にしゅうどうじん) → 克讓(こくじょう;法諱、真宗僧) C 1 9 3 6  
 二十一回猛士(にじゅういっかいもうし;獄中詩に由来)→松陰(しょういん・吉田) 2 1 6 7  
 G3385 廿人木(にじゅうにんぼく?;読方不明)?-? 江戸狂歌;1787「才蔵集」1首入;  
 [門口も軒のあやめも今日よりは根ざしぞ深き初幟杭くひ](才蔵集)  
 二十八浦釣史(にじゅうはつぽちょうし)→溟北(めいほく・円山/小池、藩士/儒者) 4 3 3 7  
 二朱判吉兵衛(にしゅばんきちべえ)→吉兵衛(きちべえ・二朱判、幫間/大尽舞) F 1 6 8 3  
 G3392 二笑(にしゅう) ? - ? 摂津住の俳人/狂歌;1666行風「古今夷曲集」2首入、  
 [開かざる菊の心も節供ぞといはん下葉したばのつぼみ口哉](夷曲集;秋229、  
 菊は上から咲く;もう菊の節句だぞと下葉の蕾は不服そうに口をすぼめている)  
 3321 二嘯(にしゅう) ? - ? 俳人;1690珍碩「ひさご」付句4句入、  
 [鶯の寒き声にて鳴き出だし](ひさご;第四歌仙雑乙州発句に参加;初裏3第九句、  
 前句;野径;風呂の加減のしづか成りけり/茶室の静けさの中で聞く鶯の初音)  
 3322 二承(にしゅう・山県やまがた) 1811-1879 69 安藝広島絵師;山田雪塘/岸駒門、疎画、  
 10代初め聴覚を失う、俳諧・狂歌・諸国遍歴、1866俳文画集「雨の日のすさび」、「えだ炭」著、  
 [花と見て燈に飛入るか夜の蝶](短冊)  
 [二承(;号)の通称/別号]通称;虎蔵、別号;書画介/龍耳庵  
 二松(にしゅう・吉田) → 常与(じょうよ・歎之軒/吉田、華道/俳人) L 2 2 8 0  
 二松(にしゅう・田中) → 世顕(つぐあき・田中たなか、医者) F 2 9 9 1

- 3323 **二条**(にじょう、源みなもと至いたるの女/源宥女説あり)?-? 平安前期;女蔵人:醍醐天皇に出仕?、歌;万代集入、古今986/玉葉1820/続後拾遺886詞書  
[人ふるす里をいとひてこしかどもならのみやこもうき名なりけり](古今;十八雑986)  
(あの人を私を古い女だと見捨てたので里[都]を嫌に思って[初瀬詣に]来たけれども途中奈良の京も古里であり私にはやはり憂き名ですよ)
- 3324 **二条**(にじょう) ? - ? 平安後期女房/歌;1089四条宮寛子扇合参加  
[秋萩のほふさかりはしら露のいろいろにこそ見えわたりけれ](四条宮扇合;萩右方)
- 3325 **二条**(にじょう・永福いふく門院)?- ? 鎌倉末期歌人、永福門院鐙子[中宮1271-1342]女房、1303「十八番歌合」参加?、玉葉801  
[もみぢ葉のをりををわすれぬなさけにもなれにし雲のうへや恋しき](玉葉集;五秋歌801)
- 3326 **二条**(にじょう・後光明照院前関白家)?-? 鎌倉末期押小路二条道平家女房/歌、続千載1130  
[忍ぶべきものとも人の思はぬはかずならぬ身のうき名なりけり](続千載;十一恋1130)
- 3327 **二条**(にじょう・後深草院/永福門院三条、源雅忠女)1258-? 1306存 1261(4歳)後深草院御所で養育、長じて院の女房;男性遍歴/一旦宮仕を退出、1288永福門院に出仕(;三条名)、のち出家、1302西国の旅、日記「とはずがたり」、歌人(;勅撰集には不入)、  
[(出家後尼寺法華寺を訪れ)生死無常の情けなきことわりなど申して、しばしかやうの寺にも住まひぬべきかと思へども、心のどかに学問などしてありぬべき身の思ひとも我ながらおぼえねば、ただいつとなき心の闇にさそはれ出でて]  
(心の中の修羅;とはずがたり巻四)
- 3328 **二条**(にじょう・徽安きあん門院)?- ? 南北期光厳院后妃寿子内親王家女房、歌人;1342持明院殿御歌合/11月4日・21日の2度参加、  
[我もよしと思ひとらるるうききはにまたすてかぬるなげの一言](11月21日歌合;恋終)
- 二条(にじょう/二条関白)→ 道兼(みちかね・藤原、栗田関白/歌) B 4 1 3 8  
二条(にじょう・崇光院) → 崇光院二条(すこういんのにじょう、歌人) D 2 3 3 0  
二条(にじょう・今出川;菊葉集)→崇光院二条(すこういんのにじょう、歌人) D 2 3 3 0  
二条(にじょう・葉室) → 頼親(よりちか・葉室はむろ/藤原、権大納言) J 4 7 0 0  
二条(にじょう・葉室) → 頼藤(よりふじ・葉室/藤原、権大納言/日記) J 4 7 7 1  
二条帥(にじょうのそち) → 俊忠(としただ・藤原、廷臣/歌人/俊成父) M 3 1 6 8  
二松庵(初世にしょうあん) → 渡江(とこう、狂歌) I 3 1 4 8  
二松庵(2世にしょうあん) → 万英(まんえい・百々、狂歌) K 4 0 3 9  
二松庵(3世にしょうあん) → 蒼松亭清楽(そうしょうていせいらく、狂歌) C 2 5 1 1  
二松庵(にしょうあん) → 二松軒(にしょうけん、謡曲研究) 3 3 3 0  
二畳庵(にじょうあん) → 樗堂(ちようどう・栗田、俳人) K 2 8 4 3  
二畳庵(にじょうあん) → 五明(ごめい・吉川、商家/俳人) D 1 9 9 3  
二畳庵(にじょうあん) → 相孚(そうふ・葉山はやま、俳人) I 2 5 8 1  
二条庵笛十(にじょうあんできじゅう/ふえとう、俳人)→ 三蔵(さんぞう・難波なにわ、浄/歌伎作) G 2 0 0 0
- 3329 **二条院**(にじょういん・章子しょうし、後一条天皇第一皇女)1026-110580歳 母;藤原道長女の威子、1027内親王宣下/1030一品/准三后/1036(11歳)両親を失う、馨子の姉、1037後冷泉天皇東宮時代の妃、1040中宮、1068太皇太后/1068天皇没;69出家、太皇太后、1074院号宣下、歌;玉葉2286、  
[君はなほ散りにし花の木このもとに立ち寄らむとは思はざりけり](玉葉;雑2286、後冷泉院春宮の時藤壺に住む頃伯母の上東門院彰子が春宮に参るが逢えず贈歌、彰子の返歌;花散りし道に心はまどはれてこのもとまでもゆかれやはせし)  
彰子は後冷泉院の幼時期に養育した養母的存在;この歌の時50-51歳/章子は12-13歳)
- 二条院前皇后宮常陸(にじょういんのさきのこうごうのみやのひたち)→常陸(ひたち、育子女房) C 3 7 5 9  
二条院讃岐(にじょういんのさぬき)→ 讃岐(さぬき、歌人/源頼政女) C 2 0 7 9  
二条院宣旨(にじょういんのせんじ)→ 宣旨(せんじ・後一条院中宮・二条院) F 2 4 7 0  
二条院中納言典侍(にじょういんのちゅうなごんのすけ)→中納言典侍(ちゅうなごんのすけ・二条院) G 2 8 7 3  
二条院参川内侍(にじょういんのみかわのいし)→ 三河内侍(みかわのいし・二条院) 4 1 6 6
- G3387 **二条羽林**(にじょううりん) ? - ? 早歌;1306明空「拾葉集;蹴鞠」作詞

二条雅孝に比定 → 雅孝(まさたか・飛鳥井、権中納言/歌人) D 4 0 1 4  
 二条大宮(にじょうおおみや) → 令子内親王(れいしなないしんのう、白河皇女) 5 1 3 4  
 二条大宮衛門佐(にじょうおおみやのえもんのすけ) → 右衛門佐(うえもんのすけ・皇后宮/歌人) 1 2 0 8  
 二条大宮別当(にじょうおおみやのべつとう) → 別当(べつとう・太皇太后宮/皇后宮/歌人) B 2 7 0 3  
 二条関白(にじょうかんぱく) → 道兼(みちかね・藤原、栗田関白/歌) B 4 1 3 8  
 二条関白(にじょうかんぱく) → 師通(もろみち・藤原、関白/詩歌人) H 4 4 9 5  
 二条関白家筑前(にじょうかんぱくけのちくぜん) → 筑前(ちくぜん・後二条関白家) D 2 8 3 1  
 二条関白家女房大納言局(にじょうかんぱくけによぼうのだいなごんのつばね) → 為道女(ためみちのむすめ) H 2 6 4 7 ①  
 二条家四天王(にじょうけのしてんのう) → 和歌四天王(わかしてんのう・為世門)

3330 二松軒(にしょうけん、二松庵)?- ? 江中期謡曲研究家;

1771「謳曲英華抄おうきやくえいがしょう」著(;謡い方)

二条禅尼(にじょうぜんに) → 大納言典侍(だいなごんのすけ・後嵯峨院、藤原為子、歌人) B 2 6 9 8  
 二条太皇太后宮(にじょうたいこうたいごう) → 令子内親王(れいしなないしんのう、白河皇女) 5 1 3 4  
 二条太皇太后宮式部(にじょうたいこうたいごうぐうのしきぶ) → 式部(しきぶ・二条太皇太后宮) B 2 1 5 2  
 二条太皇太后宮撰津(にじょうたいこうたいごうぐうのせつ) → 撰津(せつ・二条太皇太后宮) E 2 4 5 8  
 二条太皇太后宮大式(にじょうたいこうたいごうぐうのだいに) → 大式(だいに・二条太皇太后宮) B 2 6 9 9  
 二条太皇太后宮肥後(にじょうたいこうたいごうぐうのひご) → 肥後(ひご・京極前関白家) 3 7 5 1  
 二条太皇太后宮別当(にじょうたいこうたいごうぐうのべつとう) → 別当(べつとう・二条太皇太后宮) B 2 7 0 3  
 二条太皇太后宮堀河当(にじょうたいこうたいごうぐうのほりかわ) → 堀河(だほりかわ・二条太皇太后宮) E 3 9 8 3  
 二条大納言(にじょうだいなごん) → 定輔(さだすけ・二条/藤原、廷臣/音曲) I 2 0 2 8  
 二松亭(にしょうてい・日高) → 五明(ごめい・日高ひだか、酒造業/俳人) N 1 9 7 5  
 二松亭(にしょうてい・日高) → 明之(めいし・日高ひだか、五明男/俳人) 4 3 1 8  
 二鐘亭半山(にしょうていはんざん) → 白鯉館卯雲(はくりかんぼううん・木室、狂歌/嘶本) 3 6 1 2  
 二鐘亭半山(にしょうていはんざん) → 白鯉館卯雲(2世はくりかんぼううん・和田、幕臣/狂歌) E 3 6 0 6

3331 二条天皇(にじょうてんのう、名;守仁、後白河天皇第一皇子) 1143-65早逝23歳 母;藤原経実女懿子、  
 在位1158-1165、母早世により鳥羽天皇皇后美福門院に養育/1155立太子/58即位、  
 院政を施く父後白河上皇に対し諸事を関白近衛基実と諮る、1159平治乱勃発、  
 藤原伊通と平清盛を味方にし勝利、「二条院御記」著、  
 歌人;1161「内裏十題百首」・62「内裏艶書合」を主催、  
 藤原清輔に[続詞花集]編纂を命じ完成までに没/続詞花・今撰・言葉・万代集入集、  
 勅撰15首;千載(7首121/455/624/676/744/836/869)玉葉(2177)続後拾(64/164)以下、  
 [我もまた春とともにやかへらまし明日あすばかりをばこゝに暮らして](千載;121春、  
 弥生つごもりころ白河院に方違の行幸し春二日を残すという心を)

二鐘東雲(にしょうとううん) → 白鯉館卯雲(はくりかんぼううん、木室、幕臣/狂歌/嘶本) 3 6 1 2  
 二条関白内大臣(にじょうのかんぱくないだいじん) → 師通(もろみち・藤原、後二条関白) H 4 4 9 5  
 二条后(にじょうのきさい) → 高子(こうし・たかこ・藤原、女御/歌人) B 1 9 2 2  
 二条后多子(にじょうのきさいたし) → 近衛太皇太后宮(このえのたいこうたいごうぐう) D 1 9 5 0  
 二条三位(にじょうのさんみ) → 教定(のりさだ・飛鳥井/二条/石山、廷臣/歌) E 3 5 4 8  
 二条禅尼(にじょうのぜんに) → 大納言典侍(だいなごんのすけ・後嵯峨院、藤原為子/歌人) B 2 6 9 8  
 二条僧正(にじょうのそうじょう) → 雅縁(がえん、三論僧/歌人) B 1 5 1 4  
 二条帥(にじょうのそち) → 長実(ながざね・藤原、大宰権帥/歌人) 3 2 0 8  
 二条帥(にじょうのそち) → 俊忠(とじた・藤原、歌人) M 3 1 6 8  
 二条帥入道(にじょうのそちのにゅうどう) → 定輔(さだすけ・二条/藤原、廷臣/音曲) I 2 0 2 8  
 二条大納言(にじょうのだいなごん) → 定輔(さだすけ・二条/藤原、廷臣/音曲) I 2 0 2 8  
 二条局(にじょうのつばね) → 西華門院(せいかもんいん、後二条天皇母/歌) H 2 4 8 1  
 二条別当(にじょうのべつとう) → 朝任(あさとう・源、廷臣/歌人) B 1 0 0 3  
 西丸(にしまる) → 才麿(さいまる・谷、俳人) 2 0 0 6

3332 二水(にすい) ?- ? 俳人;1689「あら野」4句入、

[名月や鼓つづみの声と犬のこゑ](あら野;巻一)

二水(にすい・永山) → 二水(じすい/にすい・永山ながやま、藩儒) T 2 1 9 6

- 二水(にすい・結城) → 香崖(香厓こうがい・結城ゆうき、藩儒/詩) G 1 9 2 1  
 二水(にすい・橋村) → 正衛(まさえ・橋村/度会、神職/書) B 4 0 3 5  
 二水(にすい・中田) → 粲堂(さんどう・中田/藤、与力/儒者) M 2 0 6 6  
 二水(にすい・石沢) → 浚平(俊平しゅんぺい・石沢/清野、藩儒) L 2 1 8 4  
 二翠園(にすいえん) → 祐壮(すけまさ・後藤ごとう、藩校国学教授) I 2 3 5 2  
 二水観(にすいかん) → 魚淵(なぶち・佐藤/吉村、医/俳人) G 3 2 8 4  
 二翠軒(にすいけん) → 牛南(ぎゅうなん・雨森あめのもり、医者/詩) G 1 6 4 7  
 二水晋斎(にすいしんさい) → 政徳(まさのり・長川ながかわ/高杉、漢学者) G 4 0 2 9  
 二水亭(にすいてい) → 言山(ごんざん・二水亭、俳人) E 1 9 7 0  
 二水楼(にすいろう) → 久誠(ひささね・小野おの、郡奉行/国学) I 3 7 7 0
- G3391 **二助**(にすけ・三宅みやけ、松下亭)?-? 安藝大竹の俳人;野坡門、  
 1737大竹小社に俳額奉納
- 3333 **仁助**(にすけ・堀田ほった/藤原、嘉助男)1747-1829<sup>83</sup> 安藝廿日市の生/津和野藩士/算学;湯永経門、  
 曆学;幕府天文方渋川図書門/1783幕府天文方属員;製曆に参加、99蝦夷地測量を下命、  
 測量機を制作し天度・海路を測量;地図作成;1826致仕/津和野に帰藩、開塾;子弟教育、  
 1791「算学累年録」/98「從江都至東海道蝦夷図」/1815「対数表」著、  
 [仁助(通称)の名/別通称/号]名;泉尹、別通称;兵之助、号;土口斎  
 仁助(にすけ・大高) → 小川町住(おがわのまちずみ、藩士/狂歌) B 1 4 7 8  
 仁助(仁介にすけ・永崎/長崎) → 一見(いっけん・永崎、俳人/狂歌) D 1 1 7 2  
 二介(にすけ・斎藤) → 全門(ぜんもん・斎藤さいとう、心学者) N 2 4 1 5  
 丹助(にすけ・黒坂) → 維叙(これぶ・黒坂くろさか、幕臣) O 1 9 6 4  
 丹介(にすけ・平尾) → 元義(もとよし・平賀、平尾/興津/犬丸、地誌/歌人) 4 4 2 4
- 3334 **二世連女狂人**(にせいれんによきょうじん:蓮如をもじった筆名;本名不詳)?-? 幕末期三河西尾滑稽本作者、  
 1860「百千鳥蓮師参」著
- G3399 **二扇**(にせん) ?-? 江前期俳人・一品門、1687「丁卯ていぼう集」入、  
 [年の暮夫婦三日の餐さんをせん](丁卯集;冬暮)
- 3335 **二選**(にせん・好古庵) ?-? 江後期越中東岩瀬俳:1834己之中集入、59「八重すさひ」編  
 二扇(にせん・竹内) → 重意(しげおき・竹内、郷土史家/詩歌) Q 2 1 7 2  
 二千風(にせんぶう) → 都の錦(みやこのにしき、浮世草子作者) 4 1 3 9
- 3336 **二蔵**(にぞう・坂野/阪野さかの、号;梅圃/友浪、士英男)1774-1813<sup>40</sup> 越前大屋郷の農業、  
 国学/漢学/史学/測量学に通ず、1800地誌「越前志」/01「越前古名考」著
- 3301 **二三治**(二三次にそうじ・壕越ほりこし/堀越/沢村、号;織小簾、俳名;菜陽)1721?-81? 歌舞伎作者:  
 初世宗十郎門/17493改姓;堀越/50立作/51上京/53江戸で改姓;壕越、新趣向を工夫、  
 1751「本領鉢木染」52「契情浅草鐘」53「けいせい待乳山」59「乱菊枕慈童」著、  
 1764「誰袖粧會我」66「わがこころ」75「飄軍配紅葉」外著多数
- 3337 **二三次**(にそうじ・為永ためなが)?-? 江中期宝暦1751-64頃歌舞伎作者:為永千蝶門、  
 1755「湊川形見鑑」/63「音羽山恋慕飛泉」著
- 3302 **二三治**(にそうじ・三升屋みまさや、本名;青地宗蔵、伊勢屋宗三郎男)1784-1856<sup>73歳</sup> 江戸蔵前の札差;  
 1804(文化元)3世伊勢屋宗三郎(珉里)を継嗣、芝居界出入;歌舞伎作者:初世桜田治助門、  
 1812市村座に名/13江戸三座関係者を山谷八百前に招待;派手な披露宴;実家から廃嫡、  
 1815(文化12)正式に歌舞伎界に入/4世鶴屋南北門、1816桐座の筆頭作者で出勤、  
 1829河原崎座で立作者、4世南北没後の江戸劇壇に増補・改作物を提供、49引退、  
 1829「江南魁曾我」/33「裏表忠臣蔵」/36「今噂劔葉桜」41「八重九重花姿絵」、  
 1842「金竜山誓礎」45「幾野路解紐」「紅葉成綾襪錦」48「葬あさかほ物語」外著多数、  
 歌舞伎随筆を著述;46「十八大通」43「作者店おろし」54「浮世雑談」など多数、  
 [二三治(;通称)の号] 俳号;栄思/栄昌/思声/珉斎/珉斎閑人/和易/和鳥/和島  
 二三治(2世にそうじ・壕越) → 賞七(粧七しやうしち・清水、歌舞伎作者) J 2 2 4 2  
 二祖国師(にそこくし) → 懐英(えいよう;法諱・孤雲;道号、曹洞僧) 1 3 6 5  
 二祖上人(にそしょうにん) → 弁長(べんちやう;法諱、浄土僧;鎮西流祖) B 2 7 3 6  
 二尊庵(にそんあん) → 抱一(ほういつ・酒井、諸芸/絵師/狂歌) 3 9 1 3

- 仁太夫(にだゆう・本木) → 良永(りょうえい・本木もとき/西、通詞/翻訳) G 4 9 4 7  
二端道人(にたんどうじん) → 枳園(きえん・森、医者/書誌学) F 1 6 0 3  
日庵(にちあん) → 岱路(たいろ・金井かない、僧/俳人) L 2 6 3 5  
日〇(にち〇〇) → 日〇(にっ〇〇)をも参照
- 3338 日位(にちい;法諱・承賢;字、治部房、南条平七郎男?) 1257-1318<sup>62</sup> 日蓮門:駿河法華弘通道場開、  
本覚寺開、「高祖御葬送記録」著
- 3339 日意(にちい;法諱・宗鏡;字、号;妙光院、俗姓;足立) 1421-73<sup>53歳</sup> 下総日蓮宗平賀本土寺7世、  
「御本尊口伝」著
- 3340 日意(にちい;法諱・泰芸(たいうん)/法鏡;字、号;円教院) 1444-1519<sup>76</sup> 伊勢天台住職/日蓮僧;日朝門、  
久遠寺12世、宗祇宗長と交流、「本尊口伝」「本尊相承抄」「本尊抄見聞」著
- 3341 日意(にちい;法諱・英和;字、号;興正院) 1609-89<sup>81歳</sup> 京日蓮宗頂妙寺13世/下総法華経寺36世、  
「観不思議境記」著
- 3342 日意(にちい;法諱) ? - 1628 駿河岡宮日蓮宗光長寺12世、  
1621「上行付属題目肝要問答記」著  
日一亭(にちいちてい) → 花海(かかい・中川ながわ、俳人) J 1 5 2 8
- 3343 日印(にちいん;法諱・摩訶一房、朝倉安高男) 1264-1328<sup>65</sup> 越後の日蓮僧:日朗門/本成寺を開く、  
1327「本成寺置文」著
- 3344 日尹(にちいん;法諱・初法諱;日印) 1373-1445<sup>73</sup> 会津の日蓮宗実相寺住職/京要法寺5世、  
1344「与西山代公書」著、  
[日尹(;法諱)の通称]三浦阿闍梨/宰相阿闍梨
- 3345 日允(にちいん;法諱・底玄;字) ?- ? 日蓮宗僧:記録筆記、  
1579安土宗論の日淵の口述筆記「安土宗論実録」/1609「日経上人法難記」著
- 3346 日胤(にちいん;法諱・周泉;字、号;速現院) 1643-1723<sup>81歳</sup> 上総日蓮宗宮谷檀林22世、  
「十不二門指要鈔鑽仰」著
- 3347 日因(にちいん;法諱・覚応;字、経道院) 1687-1769<sup>83</sup> 富士日蓮宗大石寺31世/上総細草檀林37世、  
「富士記」「兄弟抄記」「要解集」著
- 3348 日有(にちう;法諱、俗姓;南条) 1409-82<sup>74歳</sup> 富士日蓮宗大石寺9世/日影門/大石寺中興祖、  
彫刻;大石寺日蓮真筆板本尊を刻、「化儀抄」「御物語聴聞抄」著
- 3349 日運(にちうん;法諱・智蔵;字、鶴林院) ?-1426? 武州日蓮宗僧:日什・日仁門/京妙満寺4世、  
刑部卿阿闍梨と称す、「日運記」著、1425日仁「門徒古事」編
- 3350 日運(にちうん;法諱・慈妙;字、正道院) ?-? 下総日蓮中村檀林84世、  
「正道護国談」1745「正道劄」著
- 3351 日運(にちうん;法諱・智耀;字、妙用院) 1755-1833<sup>79</sup> 京の日蓮宗本圀寺36世/妙覚寺51世、  
「雙但二軌記」著
- 3352 日運(にちうん;法諱・宣是;字、妙慈院) 1801-78<sup>78歳</sup> 日蓮宗池上本門寺60世/日洋門、  
1838「本化応迹紀年輯録」著
- 3353 日会(にちえ;法諱) ? - ? 江戸期安房日蓮宗本乗寺住職、  
「法華仏心和会集」著
- 3354 日恵(にちえ;法諱・長喜/長善;字、慈眼院) 1632-99<sup>68</sup> 上総日蓮宗正法寺23世/葦山本立寺21世、  
「本尊抄恵鈔」著
- 3355 日恵(にちえ;法諱・通定(つうじょう);字) ?-? 江後期鎌倉日蓮妙法寺住職、1829「歎聞集」著
- 3356 日慧(にちえ;法諱・竜寛;字、観智院) 1807-68<sup>62</sup> 下総日蓮峯妙興寺49世、1862「仮名訓読要品」著
- 3357 日睿(にちゑい;法諱・薩摩法印/日向開山、修験隆覚男) 1309-69<sup>61</sup> 日向修験者/日蓮大石寺僧、  
日向定善寺を開、「後信記」著
- 3358 日英(にちえい;法諱・妙親院、埴谷重継弟) 1347-1423<sup>77歳</sup> 下総日蓮宗法宣院主/法華経寺日貞門/  
1390上総埴谷妙宣寺開;法服問題で久遠寺日叡と論争:勝訴、上総下総に76寺建立、「讓状」著
- 3359 日叡(にちゑい;法諱、上行院、俗姓波木井) 1352-1400<sup>49</sup> 日蓮僧;久遠寺6世日院門、1373久遠寺7世、  
池上本門寺等四山一寺制(久遠寺/鎌倉妙本寺/池上本門寺/宇都宮妙勝寺)、  
1390法服問題で法華経寺側(日英ら)に敗訴/99退隠、  
1391「法華肝要抄」、「七箇大事見聞集」「浄土真言要文」著

- 3360 日叡(にちえい;法諱) ? - 1451 会津日蓮宗妙法寺4世/日什門、  
1392「什祖本地口決」著
- 3361 日叡(にちえい;法諱) ? - 1476 武州日蓮宗妙国寺僧/天目門、  
京青柳本門寺開、「什門本源記」著
- 3362 日英(にちえい;法諱・英琳;字、本覚院)1584-1647 64 京の日蓮僧:日典門/京立本寺18世、  
三宝寺日護門、三宝寺2世/山城松ヶ崎檀林6世、  
「随力演説抄」「首題功德」「唱題成仏論抄」著
- 3363 日叡(にちえい;法諱・慈明;字、妙有院/妙用院)?-1721 京日蓮宗妙覚寺35世/下総中村檀林55世、  
「折弁無得道論」「三諦之事」著
- 3364 日栄(にちえい;法諱・芸聚うんしゅう/忍辱鎧;字、号;覚耀院)?-1722 京日蓮宗本瑞寺9世、唯観流学僧、  
「修験故実便覧」「法律阿梨樹章」著
- 3365 日鋭(にちえい;法諱・智見;字、了遠院)1687-1748 62歳 京日蓮宗本圀寺28世、  
「十不二門指要鈔私記」著
- 3366 日叡(にちえい;法諱・日心;法諱/通誠;字、竜雄院)?-1822 備後水呑日蓮宗妙頭寺29世、  
1778「読経要義」著
- 3367 日英(にちえい;法諱・英園;字、英園院)1793-1856 64 京の日蓮宗学僧:日底門/丹後妙円寺21世、  
学僧;章疏の校訂編集の功績、「祖書肝要集」「祖書続集」編/「立正安国論新註」著  
日栄(にちえい) → 日妙(にちみょう;法諱・正覚院、日蓮僧) D 3 3 2 3
- 3368 日悦(にちえつ;法諱・慶陽院)?-1528 武州日蓮僧:日存門、  
1490日澄と論争「本迹勝劣之事」、1528「経中難問大事」;勝劣問題波紋、  
「本迹論議」「一宗受疑抄」著
- 3369 日悦(にちえつ;法諱・嘉伝/嘉典;字、本寿院)1651-1726 76歳 日蓮僧:日承門/出雲妙蓮寺7世、  
1702「安国論私記」03「一生入妙覚論」、「本門要法抄」著
- 3370 日円(にちえん;法諱、成就院、大黒上人)1423-89 67 日蓮宗僧;和泉堺成就院住/1466京本圀寺10世、  
1482身延久遠寺と法嫡論争、「立正安国論私見聞」著
- 3371 日延(にちえん;法諱、成就院/観行院)1430-61 32歳 武州日蓮僧;日億門/1459身延久遠寺10世、  
1455「天台玄旨口決」/56「一心三観口決」著
- 3372 日淵(にちえん;法諱/初諱日雄にちおう・玄底;字、久遠院、加納与祐男)1529-1609 81 京日蓮僧;日詮門、  
日諦門/1577京の妙満寺26世/78寂光寺開、79安土宗論対論者「安土宗論実録」著、日海の師
- 3373 日円(にちえん;法諱、慧雲院、椎名五郎左右衛門男)1567-1605 39歳 下総飯高日蓮僧:日賢門、  
飯高檀林で修学/首座席/1599後継問題で蟄居/中村日本講寺15世/1604飯高檀林4世、  
不受不施派、「掌中記」「論迷復宗決」「論迷復宗決別記」、「受不受異目当家立義抄」著、  
[日円の字] 恵照/恵精/恵性/慧雲
- 3375 日延(にちえん;法諱、可観院、朝鮮王子臨海君男)1589-1665 79 1592加藤清正に日本連行/日蓮僧;  
;博多法性寺日教門/安房小湊誕生寺18世、不受不施派領袖:法性寺蟄居、  
1642「浄土宗問答記録」著
- 3376 日演(にちえん;法諱・玄益;字、顕寿院、俗姓洲浪)1595-1658 64 備前日蓮僧:日鎮門/東山善正寺4世、  
講堂/衆寮開設(東山檀林)、堺妙国寺7世/下総中山法華寺27世、  
「教証二道義」「入重玄門義」著
- 3377 日筵(にちえん;法諱・春山;字、隆源院)1609-81 73歳 京の日蓮僧:日護門/小西檀林11世、  
中村檀林10世/1667久遠寺29世、79久遠寺後継問題で秋田に配流/秋田で没、  
「一期行業」「不受不施論記」著
- 3378 日演(にちえん;法諱・良住;字、通玄院)1612-78 67 京の日蓮僧:日瑞/日護門、1654紀州養珠寺3世、  
1657権律師、西鶴と交流(西鶴「日演上人追善画讃」)、「高祖遺書解」「止観輔行略記」著
- 3379 日演(にちえん;法諱・通雅;字、唯本院)1648-1728 81 下総日蓮宗中村檀林33世、  
伊豆玉沢妙法華寺29世、1688「中村檀林記録」、「三類逢値」「台当問目廿条」著
- H3315 日延(にちえん;法諱・通称;恵光院)1779-1852 74 大坂の日蓮宗成正(しょうじょう)寺住僧、  
儒学/歌;加藤景範(1720-96)門、のち京都住
- 3380 日延(にちえん;法諱) ? - ? 江後期京日蓮宗寿量寺主、1809「訓蒙常楽編」  
日遠(にちえん;法諱) → 日遠(にちおん;法諱、日蓮僧/身延中興) 3 3 7 4

- 日円(にちえん;法諱) → 実長(さねなが・波木井はさい、日円、武将/日蓮僧) L 2 0 1 2  
日円房(にちえんぼう;字) → 覚和(かくわ;法諱、真言僧) K 1 5 6 4
- 3381 日応(にちおう;法諱、蒼玉院、権大納言庭田重有男)1433-1508 76歳 京の日蓮僧;日慶門、  
妙蓮寺再興の祖、伏見宮家と親密関係;伏見宮榮仁親王猶子?、  
妹;伏見宮貞常親王室の盈子、権僧正/將軍義尚和歌打聞撰集に詠草提出、  
妙蓮寺で連歌会主催、新菟入
- 3382 日雄(にちおう;法諱、証誠院)1509-1571 63歳 京の日蓮僧:日眞門/丹後本行寺開、京本竜寺6世、  
1564和泉調御寺に講談所開;教学興隆、「興門流折破」「仏像造不之論」著
- 3383 日応(にちおう;法諱、性善院)?-1614 甲斐勝沼の日蓮宗立正寺14世、  
「富士滝泉寺由来伝記」著
- 3384 日奥(にちおう;法諱・教英;字、号;安国院/仏性院、辻つ藤兵衛男)1565-1630 66 京の呉服商の生、  
1574日蓮宗妙覚寺日典門/1592妙覚寺19世を継嗣、不受不施派の祖、  
1595方広寺千僧供養時に出仕拒否;丹波小泉に隠棲、1599大阪城で受不施派と対論:  
主張を堅持し対馬流罪、1602赦免帰京、  
1630老中酒井忠世邸で池上派として身延受不施派と対論;再び対馬流罪;配流直前没、  
「万代亀鏡録」「研心鏡」「宗義制法論」「守護正義論」「門流清濁決疑集」「仏家大綱掟」、  
「宗門弁正録」「心記」「円珠真偽決」「奥師消息集」「禁断謗施論」外著多数
- 3385 日応(にちおう;法諱・湛如;字、妙遠坊)?-1657 肥後熊本日蓮宗本因寺を開く、「開目抄詳解」著
- 3386 日応(にちおう;法諱) ? - 1665 京日蓮宗末上行寺住職:不受不施を主唱:流罪、  
「富士什門問答書」著
- 3387 日応(にちおう;法諱・憲応;字、了源院)?-1713 上総東金日蓮僧;日継門/上総檀林28世、  
京妙満寺56世、折伏伝道、1658「破興記」著
- 3388 日雄(にちおう;法諱、正満院)1660 - 1735 76歳 京の日蓮宗本圀寺勸持院20世、  
1706「勅願書広布録」
- 3389 日応(にちおう;法諱) ? - ? 日蓮僧;日寛門、  
1713日寛「六卷鈔」内の「三重秘伝抄」注
- 3390 日応(にちおう;法諱・能遍;字、広性院)?-1738 京の日蓮宗立本寺30世/上総小西檀林46世、  
「諫迷治虫録」著;(日達「法華本迹雪謗」に反駁)
- 3391 日雄(にちおう;法諱・良梗;字、不染院)?-1753 日蓮僧:日奥私淑/不受不施派、1750八丈島流罪、  
1750「立正護国論」、「不受大綱決」著
- H3316 日応(にちおう;法諱・通称;鶴林、玄龍院)?-1848 和泉堺の日蓮宗成就寺33世、本圀寺求法院玄能、  
国学/歌;富樫広蔭門
- 日応(日翁にちおう;法諱) → 陽翁(ようおう;号、日蓮僧/兵法家) 4 7 6 6  
日雄(にちおう;初法諱) → 日淵(にちえん;法諱、日蓮僧) 3 3 7 2  
日旺(にちおう;法諱) → 日珥(にちがん;法諱、修験僧) B 3 3 1 7
- 3392 日億(にちおく;法諱、行学院)?-1422 甲斐生;父母早世/弟2人と身延日蓮僧:日叡門、  
久遠寺8世、鎌倉池上両山兼ね三山主、両山を弟日行に/身延を弟日学に託す、  
「億師年譜」著  
弟: → 日行(にちぎょう・延命院)  
→ 日学(にちがく・成就院) B 3 3 0 0
- 3393 日音(にちおん;法諱、円林坊)?- ? 戦国期永正1504-21頃日蓮宗本妙寺住職、  
「以呂波聞書」著(;いろは47字を仏教により解釈)
- 3394 日恩(にちおん;法諱・怒三/鉄鼠;字、大雄院)1552-1629 78歳 日蓮僧;日性門/下総飯高檀林玄講、  
1613京要法寺16世/権大僧都、「幼問集」「御大事秘録」「経疏」著
- 3374 日遠(にちおん;法諱、連歌宗匠石井了玄[日幽]男/母;妙法[日貴])1572-1642 71 京日蓮僧;日重門、  
1599下総飯高檀林化主/1604身延久遠寺22世/身延中興3師の1、西谷檀林創設、受不施派、  
1630老中酒井邸で池上不受不施派と対論/処断後池上本門寺16世、日蓮御書五大部初版行、  
「法華経随音句」「安国論抄」「安国論私記」「三大部随聞鈔」外著多数、  
仮名草子「千代見草」著?、  
[日遠の別法諱/字/号] 初法諱;日珍・日瑳、字;堯順/堯潤、号;心性院

- 3396 日恩(にちおん;法諱) ? - ? 江初期;安房日蓮宗遠本寺住職、  
1607「富士邪正記」著
- 3397 日穩(にちおん;法諱・慧活;字、遠妙おんみょう院) 1716-7459 富士日蓮宗大石寺35世/上総細草檀林52世、  
1767「異体同心抄」「法器抄」「事鏡抄」「知時抄」「五人所破抄一覽」著
- H3317 日恩(にちおん;法諱) ? - 1796 尾張名古屋の日蓮僧、歌人;日野資枝門、  
尾張津島の日蓮宗妙延寺25世
- 3398 日我(にちが;法諱・要賢;字、大夫日我/進大夫阿闍梨) 1508-8679 宮崎日蓮僧(6歳);日俊門、  
1532安房妙本寺14世、安房武将里見義堯の庇護、学僧、  
「富士立義記」「墓蛇異見抄」「夢想記」著
- H3318 日顛(にちがい;法諱) 1774以前-184470余歳 讃岐香川郡高松の日蓮宗本覚寺で得度、  
京の本能寺70世、高松本覚寺12世、1844(天保15)没、和学者  
日顛(にちがい;法諱) → 日顛(にちぎ;法諱・玄静、池上本門寺僧) B 3 3 2 0  
日外(にちがい;初道号) → 無愿(むいん;道号・元晦;法諱、臨濟僧) 4 2 0 1
- 3399 日鶴(にちかく;法諱/初法諱日通・慈弁;字、凌霄院) ?-1771 下総日蓮僧:日達門、山城菊溪独笑庵結、  
1757「勸信黄葉譚」67「独笑庵韋弦」70「独笑庵集」、「錐股集」「四仏知見之私記」著
- B3300 日学(にちがく;法諱、成就院、日億・日行の弟) ?-1459 甲斐日蓮僧:兄弟3人とも日叡門、久遠寺9世、  
京の学養寺を開;西国伝道修学拠点、「妙行必要」「三観口決」、1446「恵心流大綱私聞書」著  
→ 日億(にちおく;法諱、行学院) 3 3 9 2
- B3301 日覚(にちがく;法諱・智秀;字、題目坊/菩提心院) 1488-155063 尾張日蓮僧:日昭門、越後本成寺9世、  
1527越中妙法寺創建/29京西陣桜井本禅寺再興/大僧正、  
1527「本迹要文集」29「愚案集」、「愚格集」「小壺集」「説法助縁集」「発心共轍」著
- B3302 日覚(にちがく;法諱・海優;字、白牙院) 1716-7863歳 甲斐勝沼日蓮宗立正寺31世、  
1758「録外祖書真偽弁」/64「撰時抄講草」「開目抄講草」著
- B3303 日覚(にちがく;法諱・潮故;字、妙智院) ?-? 江中期;下総日蓮宗中村檀林の学徒、  
1768「真言破責抄」著
- H3323 日覚(にちがく/につかく;法諱・字;智山、心王院、俗姓;伊東) 1749-182476 筑前の日蓮僧、  
近江坂田郡加田村の妙立寺住僧、歌:[彦根歌人伝・]入
- B3304 日覚(にちがく;法諱・碩堂、受妙院) ?-? 文政1818-30頃上総木更津日蓮宗成就寺36世、  
「条箇義例」著  
日岳(にちがく、富田) → 大鳳(たいほう・富田、儒者/詩文) C 2 6 1 9
- B3305 日侃(にちかん;法諱、宰相阿闍梨) 1526-160176歳 安房日蓮僧;日我門/安房吉浜妙本寺15世、  
1579安土宗論後の関東動向を勝浦城主宛消息に記録、1586「日我上人御臨終記」著
- B3306 日感(にちかん;法諱、禅智院) 1569-162961歳 日蓮宗身延西谷檀林5世/下総飯高檀林6世、  
下総真間弘法寺ぐらじ10世、江戸谷中感応寺/竜仙寺を開、  
1606「真間山濫觴記」著、「当山興記」編
- B3307 日浣(にちかん;法諱・覚円;字、明静院、川島重家男) 1616-7661歳 美作の日蓮僧;日栄門、  
津山顕性寺2世、玉造檀林5世化主/不受不施義を主唱;1665手形拒否:肥後人吉に配流、  
1666「破悲田派」著
- B3308 日寛(にちかん;法諱・堯恩;字、要玄院) 1617-8872歳 日蓮宗上総小西檀林13世/日通門、  
甲斐本遠寺6世、近郷に水路開削し干害救助:「穴掘り日寛」の称、  
「本尊抄私記」「浄名天華」著
- B3309 日感(にちかん;法諱・寛甫/寛保;字、宏善院) ?-1709 上総日蓮宗小西檀林27世/  
甲斐大野本遠寺10世、1700「本迹論迷録」著
- B3310 日寛(にちかん;法諱・覚眞;字、堅樹院/大式阿闍梨、俗名伊藤市之進) 1665-172662 前橋藩家臣、  
日精に感化され1683日蓮僧;日永門/上総細草檀林化主/大石寺26世、  
「本尊抄見聞記」「寛記撮要」「六卷鈔」著
- B3311 日幹(にちかん;法諱・要敬;字、道樹院、西松琥翁男) 1715-6955歳 江戸の日蓮僧:日裕門、  
下谷宗延寺20世、江戸小山長久寺に隠棲、1745「衛生論」48「竜泉余刃」53「続種論」著、  
「小山茗話」「六老僧伝」著
- B3312 日敏(にちかん;法諱、見竜院) ?- ? 越後寺泊日蓮宗妙輪寺15世、

1804「経王寿算雪謗」著

- B3313 **日韓**(にちかん;法諱・寂光院) ?-1819 尼崎日蓮宗本興寺勸学院23世、  
「日隆上人徳行記」著
- B3314 **日遺**(にちかん;法諱・勝孝;字・祥趣院) ?-1839 江戸浅草日蓮幸竜寺18世、  
1817「法華宗御鬮絵鈔」著
- B3315 **日鑑**(にちかん;法諱・通義;字・永昌院、西野全三郎男) 1806-69 64歳 越前日蓮僧10歳;日常/日領門、  
上総/下総/江戸/金沢住;日什門流、京寂光寺22世、1858「什師直授略」「和訳日什聖人伝」著、  
[日鑑の通称] 遊方/加猿
- H3305 **日完**(にちかん;法諱) ? - ? 江後期;日蓮僧、歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[水の音のたえだえかれし冬川に心深くもすめる月かな](大江戸倭歌;冬1185/河冬月)
- H3306 **日皖**(にちかん;法諱) ? - ? 江後期;日蓮僧、歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、上記日完と同一?  
[見渡せば鳥もねぐらを離れゆくけしきの杜の明けぼのの空](大江戸倭歌;雑1693/杜)  
日観(にちかん;法諱) → 亀岳(きがく・松本まつもと、絵師) J 1 6 8 6
- B3316 **日巖**(日岩にちがん;道号・一光いっこう;法諱/初道号;東日) ?-? 室町初期臨済入元僧;楚石梵琦門/  
京の建仁寺82世;在庵普在の法嗣、「在庵大和尚行業」著
- B3317 **日珣**(にちがん;法諱、初法諱;演旺えんおう/溪旺/日旺、俗名黒野運平) 1588-1652 65 奥州の生/修験僧、  
富士講開祖の角行門/中善寺湖畔で子の病を救われ帰依、1610仙元行者2世、  
1646「日行日珣伝書」著
- B3318 **日輝**(にちき;法諱・堯山;字・優陀那うだな院、俗名野口駒三、敬正男) 1800-59 60 金沢日蓮僧;日行門、  
のち日雄お門、1833金沢立像寺22世/寺内に充治園開設;講学/優陀那教学確立、学僧育成、  
「本迹帰宗論」「玄籤微録」「宗義録」「初心要義録」「法華事理問答」「歴縁可観抄論」著
- B3319 **日暉**(にちき;法諱・桓光;字、俗姓;森本[物部]) 1827-77 51歳 下総松本の日蓮僧;1831(5歳)日桓門、  
伊豆玉沢妙法華寺に得度修行/江戸の蓮秀寺・円通寺歴任/1867(慶応3)伊豆妙法華寺48世、  
廃物毀釈に抗し講学に尽力、「白蓮華文集」「妙法蓮華経骨髓義」「克己論」著、  
[日暉(;法諱)の号]境政院/白蓮華院、
- B3320 **日顛**(にちぎ;法諱・玄静;字、守玄院) 1681-1753 73歳 下総積木の日蓮僧;1690(10歳)日宣門、  
同地常住院に出家/池上南谷檀林・下総飯高檀林に修行、1715江戸浅草長遠寺住職、  
1717芝朗惺寺18世/南谷12世化主/飯高檀林58世/27池上本門寺25世、  
1736蓬ヶ丘に不二庵を建て退院;同庵没、「看経抄」「高祖和讃」「興栄両山列伝」著
- B3321 **日義**(にちぎ;法諱・旨広;字、黄華院) 1729-65 37歳 越後の日蓮僧/下総中村檀林学徒、「芻蕘集」著
- B3322 **日耆**(にちぎ;法諱・玄得;字、園妙院) ?-1779 常陸水戸日蓮宗三昧堂檀林40世化主、  
常陸富田一乗寺5世、宗祖日蓮5百年遠忌報恩のため諸国遊学;宗祖伝の研究/3部の書刊行、  
1779「本化高祖年譜」「本化高祖年譜攷異」、「新撰祖書目次」著  
日顛(にちぎ;法諱) → 日顛(にちがい;法諱、高松の日蓮僧) H 3 3 1 8
- B3323 **日久**(にちきゅう;法諱・智俊;字、信解院、俗姓新田) 1791-1863 73歳 山城の日蓮宗小栗檀林73世、  
京本隆寺40世、1851「改正文底義」(;日東著を日寿日政らと共に改訂);日眞門流教学樹立
- H3324 **日躬**(にちきゅう/につきゅう;法諱) 1810-79 73 越後の日蓮僧、遠江鷲津山の本興寺33世、歌人  
日九(にちきゅう・中村) → 清旭(きよあき・中村、藩士/尊王派) N 1 6 0 4
- B3324 **日経**(にちきょう;法諱・顕眞院) ?-1424 下総日蓮僧;日祐門/中山檀林浄光院開、  
1362「秋元抄見聞」「法華経題目見聞」、63「真言見聞見聞」著
- B3325 **日鏡**(にちきょう;法諱/初諱;日現・印英;字、善学院) 1507-59 53歳 甲斐山梨の日蓮僧;日意門/  
身延久遠寺に修学/1544身延久遠寺14世、武田家の庇護;56西谷善学院(西谷檀林)創建、  
隠居所として建設した法雲坊は宿坊制度の基となる、  
1536「章疏目録」、「耀師13回忌法則」著
- B3326 **日経**(にちきょう;法諱・善海;字、常楽院/常談義院) 1560?-1620 61歳 上総一本松の日蓮僧、  
1573(天正元)頃より諸国に折伏を展開/1600(慶長5)京の妙満寺27世、  
1602家康企画の江戸城での浄土僧との対論を拒否;1603耳鼻削刑に処せられる、  
佐渡巡拜途中に北陸加賀錦谷本覚寺(or富山)に没、

- 1604「日経上人法難記」08「本迹問答用心記」、「本迹問答記録」「浄土日蓮宗論記録」著
- B3327 **日教**(にちぎょう;法諱、号;竜華院/通称;児貫主、西園寺公朝4男)1556-78天逝23歳 京の日蓮僧、京妙頭寺10世日広没後を継嗣;妙頭寺11世となる;天文法華の一揆後の寺院経営;早世、「讓状」著
- B3328 **日教**(にちぎょう;法諱・文孔;字、本久院)1704-5754歳 上総細草檀林43世/富士日蓮大石寺32世、1752「末法証得抄」、「証得蓮華談」著
- B3329 **日鏡**(にちぎょう;法諱・義海;字、要伝院)1724-7855 長門安岡日蓮僧/山城大亀谷檀林38/41世、京本能寺53世、「破邪一刀記」「安国論合解」、1755「番神決疑論」著
- B3330 **日境**(にちぎょう;法諱・伝能;字、明静院)?-1786 上総日蓮小西檀林140世/池上南谷檀林37世、「法華宗規矩」著
- B3331 **日教**(にちぎょう;法諱・輪朝;字、輪成院)1754-184491歳 下総日蓮僧;日便門/下総飯高檀林233世、池上本門寺47世/真間弘法(ほう)寺44世、本門寺堂宇宮繕に尽力、1827「本化正宗略興記」著
- 日教(にちぎょう・本是院) → 日教(にちぎょう・顕応房、日蓮僧) D 3 3 8 1
- 日境(にちぎょう・通心院) → 日境(にちぎょう・叡長、日蓮僧) D 3 3 8 2
- 日竟(にちぎょう・誠嶺院) → 日竟(にちぎょう・実等、日蓮僧) D 3 3 8 3
- B3332 **日行**(にちぎょう;法諱・宮内卿阿闍梨)?-1365 日蓮僧:日道門/富士大石寺5世、1369「与美作入道状」、「与斎藤入道状」著
- B3333 **日堯**(にちぎょう;法諱、号;本行院)?-1396 下総日蓮僧/中山法華経寺本行院開/日蓮弟?、1362「当家肝要文集」著
- B3334 **日堯**(にちぎょう;法諱・淳誉;字、顕彰院/玄孝院)1543-160462歳 備前の日蓮僧/飯高檀林で修学、京妙頭寺12世/岩倉金竜寺・鶏冠井(か)で興隆寺を開創、1593「讓状」著
- B3335 **日堯**(にちぎょう;法諱/初諱;日朝・円詮;字、大山房/自成院)1565-162056歳 琉球の日蓮僧、京要法寺17世、越後三条本成寺に住、広島長遠寺開基、豊臣秀頼の学問の師、「肝要抄」著
- B3336 **日堯**(にちぎょう;法諱・覚賢;字、号;義弁院)1620-8465歳 備前御津郡の日蓮僧/上総妙覚寺住職、1665の寺社領の印知に際し安国院日講らと不受義を主張;讃岐丸亀に流罪/配所に没、「鴿相試合記」著
- B3337 **日堯**(にちぎょう;法諱・発心院)?-1693 山城の日蓮宗松ヶ崎檀林15世/山科檀林4世、鶏冠井檀林8世/京本光寺開山/京本行寺3世;没、1670「円頓者義海」著
- B3338 **日堯**(にちぎょう;法諱・孝弁;字、号;一妙院、大草久家男)1634-171481歳 紀伊の日蓮僧、幼時に日寛門;出家/甲斐大野本遠寺6世日寛門、下総飯高檀林・上総小西檀林に修学、小西檀林17世化主/1683甲斐本遠寺7世を継嗣、紀州藩主徳川光貞室天真院の招聘;江戸住、数年にして本遠寺に帰る/撰受為本を主唱;受不施派(悲田派)に反駁、1672「円頓者義海抄」、「燈火随筆」「已酬未酬」「安国論見心抄」「睡余随翰」「文句解」外著多
- B3339 **日堯**(にちぎょう;法諱・空雅;字、明静院、俗姓永井)1644-8946 下総日蓮僧/下総飯高檀林で講義、山城鷹ヶ峰檀林20世、洛東に浄妙庵を結び隠棲、「法華浄心録」「観心本尊鈔科文」著
- B3340 **日暁**(にちぎょう;法諱・淵海/円海;字、一音院)1648-171063 肥後八代の日蓮僧/山城鷹ヶ峰檀林27世、1684八代で真宗僧夢伝と宗論/城下騒擾罪で追放;城下追放後も宮地宗覚寺に移り萩原村に移住した夢伝と論義を続けた、1684「邪正問答」97「法華安心録」1702「法華安心録羽翼」著
- B3341 **日行**(にちぎょう;法諱・恵了;字、瑞光院)1689-174355歳 上総日蓮宗細草檀林35世/京本能寺45世、尼崎本興寺45世、「開目抄見聞」「本尊抄考案」著
- B3342 **日暁**(にちぎょう;法諱・弁成;字、知見院)1707or1704-6458or61 近江彦根の日蓮宗妙源寺住僧、越中高岡大法寺19世、権実をめぐり日蓮宗学僧と真宗僧義教・浄土宗大蔵らとの激論、1758(宝暦8)「妙義論」を著し真宗僧義教に反駁、歌人;[彦根歌人伝・亀]入
- B3343 **日暁**(にちぎょう;法諱、関本素鷲子、関本長幹女)1753-181664 幕医田沢保久の妻/離婚:日蓮僧、田沢仲舒(なかのぶ)(幕府医者/歌人)母、歌人、「日暁禅尼集」(没後;1830息子仲舒刊)参照 → 仲舒(なかのぶ・田沢/森/安部、医/歌人) F 3 2 1 3
- B3344 **日凝**(にちぎょう/にっき;法諱・最誠;字、体蓮院、嶋崎)1793-185664 高知日蓮僧;日勇門/妙国寺住職、1838藩命で高知要法寺住職/50退隠、高見山の浄眼精舎に住、詩歌・書を能くす、「夢記」「祭本妙律師文」著

- 日暁尼(にちぎょうに) → 日暁(にちぎょう;法諱、関本、歌人)
- 日金(にちきん) → 日金(にちこん、日蓮僧) B 3 3 9 2
- 日近(にちきん) → 日近(にちこん・遠成院、日蓮僧) B 3 3 9 7
- G3396 二竹(にちく) ? - ? 安藝巖島の俳人、  
「秋をもつ塚の木立や初時雨」(1752野坡追善「十三題」入)
- B3345 日具(にちぐ;法諱・胆山;字、竜華院/寒松軒)1423-150179歳 安藝巖島の日蓮僧;幼時出家、  
京の妙顕寺7世月明門;1440(18歳)京妙顕寺8世、1447頃備中野山の境智寺に退隠、  
しかし若年の具能・日竜・日芳ら3代の後見/事実上の山務を執る、  
1499「潤亭函底鈔」、「義山致谷集」、「本迹一致抄」、「本迹御書」、「番神問答抄」著
- B3346 日求(にちぐ;法諱/初諱;速治、了因坊/勸持院/智門院)1576-165580歳 越中の日蓮僧;日芸門/  
越後本成寺に修学/さらに上京して修学/1611京本禅寺10世;在山33年、  
天文の法華一揆以後衰退した寺門の興隆に尽力、日陣門流が日朝門流の正嫡を立証、  
陣門4哲の1、1632「童朦懐覧集」、「指示童朦大綱抄」、「指示童朦大綱抄続補」、「心鏡浮義」、  
「富士朗門向門興門事」、「開目抄私記」、「本尊抄私記」、「本迹顕異記」外著多数
- 日愚(にちぐ) → 日富(にっぶ/日遇・見龍、日蓮僧) F 3 3 5 2
- 日遇(にちぐ) → 日富(にっぶ・見龍、日蓮僧) F 3 3 5 2
- 二竹堂(にちくどう) → 有隣(ゆうりん、俳人) E 4 6 0 7
- 二逐坊(にちくぼう) → 珂雪(かせつ・正山[庄山]しゅうやま、医者/俳人)M 1 5 6 9
- B3347 日解(にちげ;法諱・春覚;字、唯妙院)1694-177582 佐渡日蓮僧/妙経寺で剃髪/下総中村檀林13世、  
1749京本圀寺29世/55僧正、「法華経主記」、「弥陀分身記」、「総別三段記」著
- B3348 日啓(にちけい;法諱) ? - 1648 日蓮僧;上総宮谷檀林修学/江戸本光寺18世、  
1642家光前で浄土宗増上寺意伝と法論、「品川問答」著
- B3349 日啓(にちけい;法諱・慈雲;字、久本院)1647-170761 富士日蓮宗大石寺23世、上総細草檀林12世、  
1691「玄義開顯中開方便抄」、「玄文集条」著
- B3350 日慶(にちけい;法諱・宣覚;字、遠覺院おんこういん)?-1750 日蓮僧;下総古河妙光寺18世、  
水戸三昧堂檀林26世、相模平塚要法寺住、1738「代児推撃録」著
- 日溪(にちけい/にっけい) → 法霖(ほうりん・日溪、真宗僧) C 3 9 7 3
- B3351 日寔(にちげい;法諱・恵亮;字、勇猛院)1757-182468 日蓮僧;紀伊感応寺18世/下総中村檀林化主、  
宗史研究:「祖書編輯考」、「祖書考正義」、「祖書故事末考」、「妙宗先哲本尊鑑」、「金玉集」著
- B3352 日顕(にちけん;法諱、増長院)?-1444/48 甲斐小室日蓮宗妙法寺6世、「法華折伏説法書」著
- B3353 日憲(にちけん;法諱、慧光院/東光院)1474-152552歳 京の日蓮宗本法寺6世、  
「当家諸門流継図之事」補訂
- B3354 日賢(にちけん;法諱・純性じゅんしょう;字、妙雲院)1559-9941 伯耆の日蓮僧;身延久遠寺17世日新門、  
1592身延久遠寺18世;在山8年、秀吉の姉智子(村雲日秀尼)や浅野忠吉の帰依を受、  
身延伽藍整備拡充に尽力、「方丈建立正法則」著
- B3355 日乾(にちけん;法諱・字、孝順/孝潤、号;寂照院、俗姓;塚本)1560-163576 若狭小浜の日蓮僧:  
1569(10歳)若狭長源寺日欽門;出家/師没後上京;本満寺日重門、1588京本満寺13世、  
1595秀吉の方広寺千僧供養会に不受不施を主張するが王侯は除外の立場で参加、  
1603久遠寺21世/14西谷に閑居/駿河蓮永寺の中興開山、山城鷹ヶ峰檀林(常照寺)を開創、  
1630身延派(受不受)の立場で池上派(不受不施)と対論、  
1591「安国論私」1603「延山宝物目録」10「要文集」、「宗門大意」外著多数
- B3356 日賢(にちけん;法諱・春甫;字、寂静院)1583-164462 京日蓮僧;日積門、1613下総法華経寺19世/  
1630老中酒井邸対論;池上派(不受不施)として身延派(受不施)に破れ遠州横須賀配流、  
本源寺開、1641「論迷復宗決」著(;日蓮誹謗の眞迢[日迢]を排斥)、  
「初学発心記」、「法語心鑑」著
- B3357 日憲(にちけん;法諱・智賢;字、忍定院)1694-177077 摂津尼崎日蓮宗本興寺48世、  
1760「評破六即成仏義」著(;日成にちじょうに反駁)、1752「即身成仏名字口唱決」、「雑要集」著
- B3358 日堅(にちけん;法諱・覚隆;字、樹眞院、駿河阿闍梨)1717-9175 日蓮僧;日寛門/富士大石寺36世、  
上総細草檀林53世、1764「寛師伝」69「寛師御書目録」著
- B3359 日顕(にちけん;法諱・智観;字、智観院)1716-8065 日蓮僧;日達門/下総法華経寺77世、他宗と論争、

京頂妙寺28世/鳥取常忍寺2世、1750「護惜正法鈔」56「経王金湯編」著

- B3360 **日賢**(にちけん;法諱・智朗;字、玄収院、俗姓篠山) 1735-1816 82 京の日蓮僧;日達門、  
下総中村檀林に修学、下総法華経寺80世/83世/1803武州妙勝寺に退隠著述、  
「先師伝」「三大部講録」「宗教要解」著
- B3361 **日兼**(にちけん;法諱・良澄;字、性衍院) 1742-1804 63 上総日蓮小西檀林162世、1786「本尊抄記」著
- B3362 **日謙**(にちけん;法諱・道光;字、慈讓院/聴松庵、俗姓日野) 1746-1829 84 撰津日蓮僧;日領・元政門/  
出雲平田法恩寺住職/聴松庵閑居;詩文に長ず、春水/茶山と交遊、1826「聴松庵詩鈔」著
- B3363 **日謙**(にちけん;法諱、雲廬道人)?-? 江中期安永1772-81頃高松日蓮宗大本寺住職、  
詩文に長ず、「丙申記事」著
- 日賢(にちけん;法諱) → 己百(きひやく/きはく、日蓮僧/俳人) G 1 6 1 6  
日賢(にちけん;法諱) → 行阿(ぎょうあ;法諱、修験学僧) N 1 6 1 4  
日建(にちけん) → 日建(にちごん;法諱、日蓮僧) B 3 3 9 3  
日建(にちけん;法諱・等雨) → 日建(にちごん・等雨、自在院、日蓮僧) B 3 3 9 9  
日建(にちけん;法諱) → 日巖(にちごん;法諱、円海房、日蓮僧) B 3 3 9 5  
日建(にちけん) → 為春(ためはる・三浦、家老/連歌俳諧) 2 6 7 1
- B3364 **日源**(にちげん;法諱、正行院しょうぎょういん)?-? 戦国期1460-1504頃日蓮僧:日中門/妙覚寺3世、  
「本尊抄御談」「本尊相伝」「撰時抄聞書」「講演法華義抄」著
- B3365 **日眼**(にちげん;法諱) ? - 1486 駿河日蓮僧:西山本門寺8世、「日眼御談」著
- B3366 **日現**(にちげん;法諱、侍従阿闍梨) 1459-1514 56 尾張日蓮僧:日暹門/越後本成寺8世、  
三河長福寺住;日陣流教学興隆に尽力/陣門4哲の1、絵画を嗜む、  
「本迹高広会」「内証伝法記愚抄」著
- B3367 **日現**(にちげん;法諱・現海;字、仏寿院/妙法房/但馬房、俗姓池上) 1496-1561 66 武州日蓮:日純門、  
1534池上本行寺住職/本門寺・妙本寺両山11世、不受不施派の先駆、  
1545「身延詣書」、「助頭抄」著
- B3368 **日源**(にちげん;法諱、安立院、俗姓;渡部、井筒屋隆慶男) 1563-1622 60 京日蓮宗妙蓮寺14世、  
光悦と交流、「題目七字相伝」著
- B3369 **日現**(にちげん;法諱・恵俊;字、竜雲院) 1584-1633 50 和泉堺日蓮僧;妙国寺5世/1615戦火焼失;復興、  
下総中山法華経寺21世/妙国寺に退隠、「雲風山国祐寺縁起」「与正住院日進書」著
- B3370 **日玄**(にちげん;法諱、源妙院、俗姓;石井) 1633-1702 70 日蓮僧;10歳出家/撰津尼崎本興寺17世、  
京本能寺27世/山城大亀檀林6世、1681「延宝一致勝劣対論記」著
- B3371 **日現**(にちげん;法諱、寂日坊)?-? 江後期日蓮僧:富士門流、  
1848「法華難問之答書」著
- 日玄(にちげん・田代) → 三喜(三帰さんき・田代、医者;李朱医学) L 2 0 9 5
- B3372 **日悟**(にちご;法諱、妙道院) 1551-1614 64歳 下総日蓮宗本土寺13世/上総小西正法寺7世;  
小西檀林を開く、「与妙頭寺衆徒書」著
- B3373 **日護**(にちご;法諱・順性;字、中正院、市村佐助男) 1580-1649 70歳 丹後日蓮僧;15歳出家、  
飯高檀林に修学、仏師(彫刻)となる:諸国遍路、  
1623京東山東漸寺小倉山常寂光寺仏像を刻む;後水尾より権大僧都、  
鳴滝三寶寺を開山、1647和歌山養珠寺2世、「鳴滝三寶寺法度」著、仏像彫刻約1万休
- B3374 **日悟**(にちご;法諱・残育;字、心性院) 1588-1659 72歳 京白川日蓮宗心性寺の開祖、  
「法華女人成仏抄」著
- B3375 **日高**(にちこう;法諱、帥阿闍梨/帥公、太田金吾乘明男) 1257-1314 58歳 下総中山日蓮僧:日蓮門、  
1299中山法華寺2世、上野妙本寺/常陸妙遠寺など開;教団拡大に尽力、「置文」著
- B3376 **日宏**(にちこう;法諱・伝領;字、玉泉坊)?-? 1494存 京日蓮宗頂妙寺玉昌院住職、  
1494「本尊相承事」著
- B3377 **日珙**(にちこう;法諱、竜雲院/仏心院、豪商伊達常言男) 1532-98 67歳 和泉堺日蓮僧:日沾門、  
天台・神道を修学、1555京頂妙寺3世、68父創建の堺妙国寺住、  
法華文句講の三光無師会催;泉南教学確立、  
1579安土宗論敗/93下総法華経寺12世、79「安土問答記」87「神道私抄」、「己行記」著
- B3378 **日航**(にちこう;法諱、慈光院/華光院)?-1663 相模三浦日蓮宗大明寺住職、不受不施三浦派、

- 備前金川妙国寺10世、1632「三国仏法伝記」39「日蓮未来記」60「摧邪眞迢しんちよう記」著
- B3379 **日高**(にちこう;法諱・善学院)1601-77 77歳 京日蓮:日奥門、1650備後三次の妙栄寺開創、1658九州で日延(不受不施派/身延派に敗れ博多配流)に対論を挑む; 逆に安国院日講や衆庶の批判を浴びる、 1662「築紫問答」65「奥師並池上代々書簡」、「破邪立正記」著
- B3380 **日講**(にちこう;法諱・恵雄えお;字・安国院、欲賀八右衛門男)1626-98 73 京日蓮:日習門、下総で修学、1665下総野呂檀林能化/不受不施講門派の祖:65日向に流罪、95「録内啓蒙」著;配所で完成、「鶴城叢書」「元祖一代記」「破鳥鼠論」「破奠記」「啓蒙抄」「観心本尊鈔啓蒙」著
- B3381 **日孝**(にちこう;法諱・慈忍;字・大中院、俗姓伊関)1642-1708 67 京北野日蓮僧:1650日琢・53元政門、1673下総飯高日脱門/身延西谷檀林14世/安房小湊誕生寺26世、詩文に長ず、「水雲集」「宗旨漢語」著
- B3382 **日亨**(にちこう;法諱・顛海ぎかい;字・遠理院/遠沾院)1646-1721 76 富山日蓮僧:1653日善門・56日通門、1660山科檀林10世/1704身延久遠寺33世、「身延山由緒」「旗曼荼羅記」「巨水遠沾記」著
- B3383 **日好**(にちこう;法諱・唯妙;字・禅智院/青山散人、本阿弥光悦孫)1655-1734 80 京日蓮僧;日充門、1697伊豆玉沢妙法華寺27世/中村檀林40世:火災復興、1728「武蔵野草分」「于喞うぎょう集」
- B3384 **日孝**(にちこう;法諱・村貞そんてい;字・智静院)1673-1748 76 甲斐日蓮宗本遠寺12世、1731「七面本地記」著
- B3385 **日好**(にちこう;法諱・号;心信院/只信院)1691-1761 71 但馬豊岡日蓮立正寺15世、1745「本迹中正録」著
- B3386 **日巧**(にちこう;法諱・号;悦可院)1724-95 72歳 日蓮僧;不受不施派、1791「折伏護国論」、「回向言上抄」著
- B3387 **日好**(にちこう;法諱・号;堅樹院)1739-1811 73歳 越後沼垂日蓮僧:日穩門/日興(富士)門流、興門教学;堅樹流の祖/1770領主の擯斥を受け三宅島利島に配流;在島38年/配所に没、「日好聖語」「聖語掇輯てしゅう」「蓮門成敗条々」著
- B3388 **日皞**(にちこう;法諱・寛道;字・寛撰院、山田元意男)1747-1801 55 京日蓮僧/上総細草檀林74世/山城大亀草檀林56世/京本能寺63世、「要品弁意抄」著
- B3389 **日綱**(にちこう;法諱・知能;字・詮量院/南溪、綱島年右衛門男)1754-1808 55歳 京日蓮僧;日誠門、京本圀寺詮量院住僧、詩文;竜草廬門、1805「南溪集」著
- B3390 **日幸**(にちこう;法諱・超秀;字・本妙院)?-1800or1829 常陸水戸の日蓮宗三味堂檀林45世、駿河蓮永寺22世/下総多古自在庵没、「立正観抄解津」「国家論抄」著
- H3325 **日光**(にちこう/にっこう;法諱・旧姓;本間)?-1903 佐渡八幡の生/佐渡相川の瑞仙寺26世、漢学;円山溟北門/詩;丸岡南院門、東京の芝大教院に入学;宗学研究;講師、画・歌・生花
- 日興(にちこう;法諱) → 日興(にっこう・常在院、日蓮僧) D 3 3 8 7
- 日向(にちこう;法諱) → 日向(にこう・小林、日蓮僧) 3 3 1 4
- 日耕(にちこう;法諱) → 日耕(にっこう;法諱・智静院、日蓮僧) D 3 3 8 8
- B3391 **日郷**(にちこう;法諱・宰相阿闍梨、俗姓太田)1293-1353 61or81説あり 越後蒲原の日蓮僧: 九成房日世門/蓮蔵房日目門/白蓮阿闍梨日興門、真間門徒佐々宇左衛門尉重信の帰依、安房吉浜の妙本寺開創/富士大石寺の後継争い;3年/後継は日道に落着、日郷は檀家佐野助左衛門・小泉法華寺衆と謀り法華寺を改め久遠寺とす、1336妙本寺に退隠;同寺に没、1334「薬王品得意抄奥書」著
- 日谷(にちこく・大塚) → 長時(ながとき・大塚おつか、藩士/儒/歌) L 3 2 4 4
- B3392 **日金**(にちごん/にちきん;法諱・出羽阿闍梨)?-1416 羽黒山に修行/日蓮僧;日什門/会津妙法寺3世、1396「日金記」著
- B3393 **日建**(にちごん;法諱) ? - ? 戦国期寛正-永正1460-1521頃京日蓮僧:日住門、京弘経寺住職、法印、1504頃日諦にたい・日能・日耀らと日蓮遺文「録内御書」全編講述;1506「御書鈔」編、「撰時抄上巻講談」「末法相応善知識事」、1520「本尊抄見聞」著
- B3394 **日言**(にちごん;法諱・天安院)1478-1556 79歳 京日蓮僧;日祝門;京頂妙寺2世継嗣、肥前小城光勝寺住;10年/西国を弘通、1542帰京;法華一揆で崩壊焼失の頂妙寺を再興、和泉堺頂源寺に退隠、「当門流相伝抄聞書」著

- B3395 **日嚴**(にちごん;法諱/のち日健、円海房)?-? 日蓮僧;日諦門、1568「法華文句無師」編、日詮「朗詠集抄」筆
- B3396 **日佺**(にちごん;法諱、賢聖院) 1515-9884歳 下総日蓮宗中山法華経寺10世/多古東福寺13世、寺内に日本寺を開創;退隱、「本尊等口決」著
- B3397 **日近**(にちごん;法諱・幸長/空堂;字、遠成院おんじょういん) 1638-172386 京の日蓮僧;本法寺日休門;出家、下総中山法華経寺45世/山城鷹ヶ峯檀林化主/本法寺23世継嗣/撰津梶折安穩寺に退隱、大衆檀越の要請で本法寺25世に再任、山城深草瑞光寺元政の学風を慕う、「教余于喞うごう集」「道意紀談」「蘭盆之弁」著
- B3398 **日言**(にちごん;法諱・長江;字、古沢了哲男) 1642-170564 京日蓮僧;日達門、1694伊豆玉沢法華寺26世/中村檀林化主、「寿量分別記」著、[日言(;法諱)の号/通称]号;取要院、通称;虚舟斎/白石老人
- B3399 **日建**(にちごん;法諱・等雨;字、自在院/大珠院)?-? 江中期山城日蓮宗証光寺住職、1773「一念三千大宝珠函解」79「宗門緊要集註」著
- C3300 **日嚴**(にちごん;法諱、俊達;字、立行院)?-1838 肥前大村日蓮僧/江戸大塚本伝寺13世、下総中村檀林化主/駿河蓮永寺27世、「法華懺法」著  
日斎(にちさい) → 応其(おうご・木食上人、真言僧/連歌) 1401
- C3301 **日志**(にち;法諱・智伝;字、智伝院) 1833-8250 京の日蓮僧要法寺の学頭、「石山問答」「伊豆登山記」著
- C3302 **日持**(にちじ;法諱、号;本応院、松野六郎左衛門2男) 1250-? 1295存 駿河庵原郡松野の生、幼時に叡山僧;日興門、1270日蓮に直参入門、佐渡・身延に随従、日連本弟子六老僧の1、1280駿河松野家の外護で郷里に永精寺(のち蓮永寺)開創、1288日連7年忌に祖師座像を池上本門寺に奉納/1294日蓮13年忌を修す、1295海外布教を企画;蝦夷の松前・江差から大陸に渡り蒙古に至ったという、「持妙法華問答鈔」「池上御影造立之記」著  
[日持の幼名/通称]幼名;千代松/松千代、通称;能登房/甲斐公/蓮華阿闍梨
- C3303 **日慈**(にちじ;法諱、鷲山院/是勝院、日奥甥) 1604-6966 京日蓮;日奥門、1630不受不施派の立場、1654「安全記」「鎮護国家記」、62「奏上集」69「自諫心要集」著
- C3304 **日慈**(にちじ;法諱・寿仁/円周;字、蓮昌院) 1712-7463 上総日蓮宗細草檀林55世/京要法寺29世、1748「勝劣決意抄」70「私記」、「宮殿供養抄」「妙法曼荼羅私記」著
- C3305 **日治**(にちじ;法諱・巨舜;字、一眞院) 1797-188084 駿河日蓮宗感応寺36世、1833「顕微編」59「一滴話」、「神道問答」著
- C3306 **日実**(にちじつ;法諱・本成ほんじょう房)?-? 1461存 日蓮宗中山門流学僧;日源・日新門、1461「当家宗旨名目」;日蓮の伝/著作/思想等の考察、「受玉自玉抄」著
- C3307 **日樹**(にちじゆ;法諱、森宗秀男)?-? 1358存 相模日蓮僧;日祐門/下総弘法寺3世、「安国論申状」著
- C3308 **日寿**(にちじゆ;法諱) ?-? 1497存 日蓮宗僧;権少僧都、1497吉田兼俱より三十番神の勸請について質疑あり;京本園寺内鎮守社務として答弁;1497「報卜部兼俱書」著(;三十番神勸請について)
- C3309 **日樹**(にちじゆ;法諱、長遠ちようおん院) 1574-163158 備中浅口郡黒崎日蓮僧;日詔門/下総中村檀林5世、1619両山16世/30酒井忠世邸で身延派との対論;池上(不受不施)派として日領らと列席;敗れて信濃伊那郡飯田に配流;同地に没、「身池対論記」「不受不施言上」「宗旨之立義不受不施之事」著
- C3310 **日受**(にちじゆ;法諱・立円;字、永昌院) 1692-177685 江戸日蓮僧;上総宮谷修行/1740宮谷檀林59世、1742京妙満寺92世/日什門流教学の復興に努力、62「本迹自鏡編」69「十法界抄自鏡編」著
- C3311 **日寿**(にちじゆ;法諱・泰遠たいおん;字、事成じじょう院) 1741-180565 日蓮僧;日琮にっそう門/中村檀林188世、越後妙光寺住職/相模大明寺38世、1802「祖書綱要刪略」補訂
- C3312 **日就**(にちじゆ;法諱・長貞;字、栄遠院/本用院)?-1816 撰津梶原日蓮宗一乗寺住職、「立正治国論摘註」「題目即身成仏決疑抄」著、心性寺日就(にちじゆう・微妙院)とは別人

- C3313 **日寿**(にちじゆ;法諱・示勸;字、遠成おんじょう院) 1789-1853**65** 越前家久村の日蓮僧;本承寺日清門、1803山城小栗栖檀林に修学/若狭本境寺に止法;「祖書綱要刪略」を起業、京の本隆寺41世/小栗栖檀林能化、晩年;越前武生本興寺に退隱;著作活動、日真門流教学の異説を統一;日寿教学を展開、1837「一念三千論」、45「本尊相承抄」、「真門流正義講要」「遠成院日寿改正」外著多数
- C3314 **日什**(にちじゅう;法諱・賢明/玄妙;字、玄妙阿闍梨、俗姓石塚) 1314-92**79** 会津天台僧;叡山慈遍門、会津東光寺で門弟教導、のち改宗し日蓮僧;真間弘法寺住、遠州府中玄妙寺開創し独立、1389京六条坊門に妙満寺開創、会津妙法寺に没、日什門流(妙満寺派)の祖;のち顯本法華宗と公称、「治国策」「日什上人自伝」「日什奏聞記録」著
- C3315 **日住**(にちじゅう;法諱/初諱;定憲、眞如院) 1406-86**81**歳 紀伊の日蓮僧;京の妙覚寺日延門、天台学修学;比叡山楢生流定源門、1465將軍足利義政に諫暁;京諸門流の融和を図る、1471身延久遠寺と下総中山法華経寺との和議に尽力/のち京妙覚寺13世、晩年;和歌山正住寺に退隱、1465「妙法治世集」71「円頓者見聞」73「円本尊見聞」著
- C3316 **日重**(にちじゅう;法諱・頼順;字、一如院) 1549-1623**75** 若狭の日蓮僧/本満寺12世、身延山20世、日蓮遺文蒐集、儒者;清原枝賢えだかた門「祖書師友抄」著、秀吉方広寺大仏千僧供養出仕の不受施派;日奥の不受派と対立
- C3317 **日充**(にちじゅう;法諱、花降上人) ?-1602 下総岩部日蓮僧;下総安興寺10世、天台教学、能登妙成寺住、「報妙顯寺書」著
- C3318 **日從**(にちじゅう;法諱・通心;字、信解院) 1650-1708**59**歳 加賀日蓮僧;日遼門/京本圀寺22世、大僧都法院、説法3600余座/曼荼羅授与12000余幅、「今昔二円同異論」「当体義鈔講記」著
- C3319 **日充**(にちじゅう;法諱・知量;字、智量院) 1667-1744 山城深草日蓮宗瑞光寺5世、「本門大戒」
- C3320 **日從**(にちじゅう;法諱、園雅かんが;字) 1713-79**67** 江戸日蓮僧;7歳で出家/下総岩部大乘寺21世、俳人;2世宗瑞門、1765「膝元さらば」70「俳諧鸚鵡談」71「陸奥紀行日照笠」、「策信篇」、追善「きくの笠」伝記入、[啄木鳥や己が餌かまにふり返り];啄木鳥の茂蘭の称[日從の号] 本種/慈蘭/茂蘭もちらん(初世)/麻衣山人/俳三昧、通称;啄木鳥庵茂蘭
- C3321 **日住**(にちじゅう;法諱、守眞院) 1736-1802**66**歳 丹後日蓮僧/京要法寺31世、1795十五本山と論争、1801「本尊決疑尋問録」、「百圀論」「対問隨筆」「本尊決疑論」「蓮祖十徳」著
- H3319 **日就**(にちじゅう;法諱、微妙院) 1790?-1870**80**余歳 大和の日蓮僧、陸奥登米郡の心性寺住職、一乗寺日就(にちじゆ・栄遠院/本用院)とは別人
- C3322 **日述**(にちじゅう;法諱・存琢;字、事円院/生知院) 1611-81**71** 越後日蓮僧;日受門/下房本土寺住持;1665不受不施派;伊予配流/同地没、1681「日述抄」著
- C3323 **日順**(にちじゅん;法諱・三位房/三位阿闍梨) 1294-1354**61** 甲斐日蓮僧;日澄/日興門/駿河檀所学頭、1329佐渡本照寺開創、檀所派教学樹立、1336「用心抄」49「本門心底抄」50「摧邪立正抄」著
- C3324 **日遵**(にちじゅん;法諱・了遠;字、長遠ちやうおん院) 1592-1654 豊前小倉日蓮僧;上総日領/下総日樹門、1630池上派処分の際難を逃れた/安房誕生寺17世/下総檀林創設;不受不施派根本道場、1650天台改宗の眞迢を論破、「拾要集」「諫迷論」「不受決」「不受不施論」著
- C3325 **日遵**(にちじゅん;法諱・存了;字、眞性院) 1592-1659**68** 京日蓮宗本隆寺10世、1651「弘通用心抄」著
- C3326 **日純**(にちじゅん;法諱) 1624 - 1684**61**歳 江戸日蓮僧;日長門/谷中感応寺12世、朱印状請取の件で信徒から指弾、1666「感応寺縁起」著
- C3327 **日純**(にちじゅん;法諱・活了;字、専光院) 1736-1801**66**歳 武蔵青梅日蓮僧/大石寺39世、「信心血脉秘註」著
- C3328 **日潤**(にちじゅん;法諱・雪川とうせん;字、一雨院、俗姓中島) 1759-1838**80** 名古屋生の日蓮僧;1767愛知郡定徳寺に出家、儒;磯谷滄洲門/歌;日野資枝門、身延久遠寺60世貫首/詩・歌、「類題一雨詠草」「身延日潤上人歌紀行」著
- C3329 **日順**(にちじゅん;法諱、境達院) ?- 1854 伊豆日蓮宗長福寺住持/京妙満寺49世、宗門史/祖伝の研究、1834「到於彼岸鈔」注/48「御書略註」著
- C3330 **日叙**(にちじよ;法諱、宝蔵院) 1523-1578**56**歳 日蓮僧;日伝/日鏡門、1556身延久遠寺15世、1572信玄の身延攻めを防ぐ、「義科集」「宗要集」「精義集」「法則集」著
- C3331 **日舒**(にちじよ;法諱/初諱日仁、寿円;字、随信院) 1646-1712**67** 日蓮僧;日詮/日精門、京要法寺25世、

「三葉草」「七種草」「当今現証録」「百六箇対見記」著

- C3332 **日常**(にちじょう;法諱・常忍じょうにん;字、俗姓富木とみき常忍つねのぶ、蓮忍男)1216-9984 因幡富木の生、下総守護千葉頼胤被官/僧:日蓮門、中山法華経寺創建、下総日蓮教団指導;中山門流、「観心本尊鈔見聞」「観心本尊鈔私見聞」「観心本尊鈔日常見聞」「本尊聖教目録」常修院、[日常(;法諱)の号]常修院、
- C3333 **日静**(にちじょう;法諱、妙童院、上杉頼重男)1298-136972歳 駿河日蓮僧;日位/日印門、越後本成寺住職、京六条本国(本圀)寺開創:尊氏の庇護/六条門流の祖、1319「鎌倉殿中間答記」編、「六条要文」著
- C3334 **日成**(にちじょう;法諱、明珠院、俗姓桃井)?-1415 京日蓮僧:朗源門/兄日実と妙覚寺創建/同7世、一門の法度制定;1413「妙覚寺法式」著
- C3335 **日承**(にちじょう;法諱、金剛院、邦高親王男)1501-7979 京天台三千院僧/改宗;日蓮僧;日曦門、京本能寺8世、摂津尼崎本興寺12世/権大僧都/法印、1565「四節増進」72「神属二品抄」著
- C3336 **日成**(にちじょう;法諱・広乗;字、智見院/広乗坊、村田量親男)1570-164071 京日蓮宗要法寺19世、「大蔵拔萃」著
- C3337 **日誠**(にちじょう;法諱、守玄院)1593-166472歳 武蔵日蓮僧/下総本土寺18世:1630身延派に反撃/除籍される、金沢に没、「大曼荼羅口決」著
- C3338 **日乘**(にちじょう;法諱・乾竜;字、養徳院)1598-164548 上総日蓮僧;日信門/1635上総宮谷檀林講主、京妙満寺32世/権律師、日什門流教学確立、「止観述聞」「法華玄義考拾記」「指要抄随覧」編
- C3339 **日承**(にちじょう;法諱・梅菌;字、妙雲院、俗姓安井)1614-8168歳 京日蓮僧/京本隆寺12世、山城小栗栖檀林初世化主、天台学研究、1669「本迹勝劣抄」、「承観義」「三大部承記」著
- C3340 **日浄**(にちじょう;法諱・受源[受玄];字、寿遠じょうん院)?-1684 上総日蓮宗宮谷檀林13世/京妙満寺42世、「本迹因訊記」著
- C3341 **日乘**(にちじょう;法諱、皆如かきに院)1648-170356 山城日蓮僧:元政門、徳川光圀建立の常陸久昌寺摩訶庵主、「日乘日記」著
- C3342 **日静**(にちじょう;法諱・慈観;字、道仙男)1650-170556 京生/父早世;母妙怡は元政母妙種尼に出仕、妙種尼に養育/7歳日蓮僧:元政門、瑞光寺3世/詩文、「弁内外二境弁問詰録」著
- C3343 **日成**(にちじょう;法諱・英学;字、円成えんじょう院)1664-174380歳 日蓮僧;上総細草檀林で修行、摂津尼崎本興寺35世/宗義学者;眞迢の影響、「学問略辯」「本門宗義問答」「允成問答記」著
- C3344 **日承**(にちじょう;法諱・一道;字、正受院)1676-173156 上総日蓮宗宮谷檀林49世/京妙満寺80世、「遍答教示録」著
- C3345 **日成**(にちじょう;法諱・要識;字、眞行しんぎょう院)1738-8346歳 甲斐日蓮宗円立寺7世、1753刊「燃燈録」著
- C3346 **日静**(にちじょう;法諱・博瑞;字、歓喜院)1742-8847歳 駿河由井日蓮宗本光寺16世、1777「邪正対決録」著
- C3347 **日讓**(にちじょう;法諱・周仁;字、秀妙院)?-1828 身延西谷檀林の日蓮僧/甲斐有野長福寺16世、1777「倍增神威録」著
- C3348 **日誠**(にちじょう;法諱、純孝院) ? - ? 江中期大阪曾根崎日蓮宗法清寺住職、1786「安産みちしるべ」著
- C3349 **日肇**(にちじょう;法諱、弁学/義弁/義道;字、大覚院;号、俗姓石上)1794-185360歳 淡路の日蓮僧;1803出家、山城大亀谷檀林75世/京本能寺82世、皆久論争の論客、「推破邪評録」、「裂網編」著
- 日定(にちじょう) → 日与(にちよ・金剛院、日蓮僧/連歌) D 3 3 3 9  
日浄(にちじょう;号) → 総持(そうじ;法諱、真言律尼僧) H 2 5 5 7
- C3350 **日陣**(にちじん;法諱/日陳にちちん、佐々木高貞男)1339-141981歳 越後日蓮僧;日竜門、のち京の日静にちじょう門、1369越後本成寺住職、1406京本禅寺を開創、布教活動;日陣門流(本成寺派)、1396「撰要略記」97「偏強観破」1409「本迹二経浅深事」、「本迹同異集」「日陣聖人消息」著、[日陣(;法諱)の号/通称]号;円光坊、通称;門一阿闍梨
- C3351 **日深**(にちじん;法諱、妙寂院)1574-162754歳 京日蓮僧;日乾にちけん門、京本満寺15世、1623久遠寺25世、1626將軍家供施めぐり受の立場;池上の日樹(不受派)と論争、

1627「円融三諦」「権乗下種」著

- C3352 **日迅**(にちじん;法諱・怒転;字、円行えんぎょう院)?-1661 上総の日蓮宗本松寺住職/京妙満寺31世、日什門流教学興隆に尽力、「本迹日迅記」著
- C3353 **日深**(にちじん;法諱・弁海;字、中正院)1652-1715 64歳 山城日蓮宗鶏冠井かいで檀林14世、中村檀林38世、1710「陳善記疑問」、「法門枢柄」「雑々見聞」
- C3354 **日深**(にちじん;法諱・観如;字、常在院)1703-43 41 大阪日蓮僧;下総中村檀林修学;日通の講義援助、山城鷹峰檀林87世/閑居し著述に専念、天台論目「峨眉集」、「峨眉集遺編」「峨眉集羽翼」「西窓漫筆」著
- C3355 **日瑞**(にちずい;法諱) 1458 - 1514 57歳 下総の日蓮僧:日意門/本土寺・正法寺住職兼任、1512「本土寺切紙相承」著
- C3356 **日随**(にちずい;法諱・智教;字、大乘院)1728-1806 79 駿河日蓮宗光長寺35世/撰津尼崎本興寺56世、日秀と回向成不論争:「本門円宗回向通不問答」著
- C3357 **日是**(にちぜ;法諱・潮音;字、勇猛院)?- 1786 下総日蓮中村檀林121世/法華経寺79世、1780「印本祖書考」著
- 3305 **日晟**(にちせい;法諱、晟/垂水入道、俗姓:垂水)?-?1470前没 伊勢多気国司北畠教具の家臣/出家、連歌;1445自邸で「文安月千句」(;第二何船発句作)/「文安雪千句」(;第四何風発句作)主催、1451兼良邸「三代集作者百韻」参加、52宝徳千句参:第九発句何衣、53小鴨千句参、新菟玖入、1459北畠教具と共に南朝方と神璽返還交渉に当る  
日声(にちせい;法諱) → 日声(にっしょう;法諱・禎音、日蓮僧/歌) H 3 3 2 7
- C3359 **日善**(にちぜん;法諱・大進公;字、浜名光成[日元]男)1271-1346 76歳 1278(8歳)日蓮門、相模小田原蓮昌寺2世/1334久遠寺4世、「讓状」著、[日善(;法諱)の号/通称]号;大宝房、通称;大宝阿闍梨
- C3360 **日全**(にちぜん;法諱、等覚院/少納言律師)?-1344 日蓮僧;日進門、武蔵妙覚寺開/下総唱行寺住、「法華問答正義抄」著
- C3361 **日全**(にちぜん;法諱、蔵人阿闍梨)?-1409 会津東光寺天台僧/のち日蓮僧;日什門、遠江玄妙寺3世、1398「鳥居大事等」著
- C3362 **日善**(にちぜん;法諱・泰芸たいうん;字、蓮成院)?-1617 京日蓮宗妙満寺28世、「日什門流化儀法理」著
- C3363 **日善**(にちぜん;法諱、誠諦じょうてい院)1581-1656 76 京日蓮僧/山城大亀谷檀林初世/周防方円寺開創、京本能寺20世、「不審之条目」著
- C3364 **日禅**(にちぜん;法諱・了然;字、勸持院/守玄院)?-1677 下総松崎檀林能化/武蔵日蓮法華寺14世、1665不受不施ながら幕府に寺領請取提出;信者から批判/佐渡流罪;配所没、1665「悲田記」著
- C3365 **日善**(にちぜん;法諱・温志;字、慈光院)?-1745 讃岐高松日蓮宗妙潮寺住職、山城鳴滝三宝寺9世、山城鷹ヶ峰檀林56世/鷹ヶ峰常照寺51世、「神道名目類聚抄」著
- C3366 **日善**(にちぜん;法諱・以順;字)1686-1764 79歳 山城深草の日蓮宗瑞光寺7世、「草山要路片玉集覽」著
- C3367 **日善**(にちぜん;法諱・妙恵/寛恵;字、即妙院)?-1766 上総日蓮宗小西檀林66世文能、江戸幸竜寺12世、1738「法華三卷書」、「三宝限法華抄」「法華宗風抄」「経王護国論」著
- C3368 **日全**(にちぜん;法諱・教弁;字、唯誠ゆいじょう院)?-1815 名古屋日蓮宗聖運寺11世、1745「教観雑録」著:日通著作説あり?
- C3369 **日善**(にちぜん;法諱、字;由教、護法院/幻裡庵)1796-1859 64 江戸の日蓮僧/江戸丸山本妙寺25世、国学;清原雄風おかげ/小川伴鹿ともか/原久胤/千種有功ありこと門、1857「五十槻搔葉集」、「詞の玉緒延約」著、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[つれづれと鶏けいの垂り尾のしだり尾の長き日ぐらし春雨ぞ降る](大江戸倭歌;春198)  
日全(にちぜん;法諱・三如院)→ 三如(さんによ・日全、日蓮僧/歌) M 2 0 6 7  
日爽(にちそう) → 金洞(きんどう・井田いだ、日蓮僧/詩人) R 1 6 5 2  
日宗(にちそう) → 日宗(にっそう)  
日相(にちそう) → 日相(にっそう)
- C3370 **日像**(にちぞう;法諱、竜華寿院/肥後房、平賀忠晴男)1269-1342 74 下総平賀日蓮僧;日朗門、身延山に修行、日蓮遺跡を巡歴/教化活動;洛中を追放3度、1321後醍醐天皇より寺領;京四条妙顕寺を開創;日像四条門流、

- 1313「法華宗旨問答抄」18「本尊相承」、「本迹同一文集」「一乗護国論」、「日像上人消息」著
- C3371 **日慥**(にちぞう;法諱、英雲院) 1756-1830 75歳 上総日蓮宗小西檀林185世/江戸下谷法養寺13世、甲斐小室妙法寺37世、「一生成仏抄和解」著
- 3303 **日藏**(にちぞう;法諱、初諱;道賢、飛天大師、三善氏吉(よし)男) 905-985 81 京真言修験者;東寺良隣門、941大和天峯金峯山の笙の岩窟で断食修行;息絶え浄土地獄を廻り蘇生:冥界伝説化、扶桑略記「道賢上人冥途記」入、「笙窟屋感得伝」、歌;新古今1923、  
[寂寞(じやくまくの)苔の岩戸(いは)の静けきに涙の雨の降らぬ日ぞなき](新古;釈教1923、御嶽の笙(しやう)の岩屋に籠りて詠む/法華経法師品;寂寞無人声 読誦此經典)
- C3372 **日尊**(にちぞん;法諱、久成院/上行(じやうぎやう)院/大夫房/大夫阿闍梨) 1265-1345 81 陸前天台叡山僧、日蓮宗に改宗;日目/日興門、1298師の勘気を蒙る:巡歴/1339京の上行寺(要法寺)を開創、1340「尊師法門」著
- C3373 **日存**(にちぞん;法諱・智賢;字、南陽房) 1370-1447 78歳 越後日蓮僧;日陣門、尾張本竜寺の初祖、三河蒲郡長存寺開創/越後本成寺4世、「御抄略註」「答釈」著
- C3374 **日存**(にちぞん;法諱、中正院(ちゆうしやういん)) 1436-1480 45歳 武州日蓮宗妙蓮寺2世/京妙満寺14世、録内標準説を提唱、1470「本迹対論用意抄」著;諸山盟約に反駁;本迹致劣論再燃
- C3375 **日存**(にちぞん;法諱、観妙[明]院) 1600-1671 72歳 駿河日蓮僧;日明門/山城求法院檀林10世/京本満寺22世/1666紀伊養珠寺4世/紀伊誠証寺・蓮経寺開創、1660「金山抄」著
- C3376 **日代**(にちだい;法諱、伊予房/伊予[藏人]) 1294-1394 101歳 駿河の日蓮僧;日興門/日興の甥、獅子座法灯を継承、1334日仙と論争(日睿「仙代問答」入)、西山本門寺開創、1344「答日印書」著
- C3377 **日大**(にちだい;法諱、俗姓;畠山) 1309-69 61歳 鎌倉南北期京の日蓮僧;日尊(にちぞん)門、1346頃京冷泉西洞院に法華道場を創設;山陰道に教線を延ばす、日尊創建の六角油小路の上行院が日印に譲渡され対抗;1362一条猪熊に新上行院を開創、1340「尊師実録」/63「日大直兼問答記」「即身成仏口決」/66「三種法華聞書」著、  
[日大(;法諱)の号]号;上行(じやうぎやう)院、通称;本覚法印/畠山阿闍梨
- C3378 **日台**(にちだい;法諱・鏡円;字、南部長氏[日長]男) 1321-66 46 甲斐波木井の日蓮僧;日進門、身延山久遠寺に修学/久遠寺3世日進没後は4世日善に師事、身延山地頭の父の外護で1337(建武4)久遠寺5世となる、西林院日賢に託し比叡山に登る、叡山修学9年;身延に帰る;在山30年、1348「祖書三大部見聞」/51「禅宗事」著、  
[日台(;法諱)の幼名/通称]幼名;春乙丸、通称;鏡円阿闍梨/宮内卿
- C3379 **日題**(にちだい;法諱・信順;字、残隆院/蓮華院) 1633-1714 82 京西陣の日蓮僧;1643心性寺日悟門、下総野呂檀林に修学/1657(明暦3)心性寺2世、1665寺社領印知の時請取(悲田手形)を提出した洛外の不受不施派を攻撃;論争となる、1691京を追放され諸国流浪;著述を続ける、1684「受不受法語」88「閑邪論」90「添略中正」1700「中正論或問」02「録内啓蒙評」外著多数
- C3380 **日台**(にちだい;法諱・会隆;字、歛寿院/歛喜院) 1719-86 68 上総士気の日蓮僧;京妙満寺日什門、上総宮谷檀林90世/上総東金本漸寺17世/京妙満寺122世、後桃園天皇勅願の論旨を受、「日什一代記」「日什師年表化導略頌附目録」、1772「日什正師別伝」著
- C3381 **日達**(にちたつ;法諱、眞応院) 1572-1622 51歳 下総日蓮宗飯高檀林8世文能/上総小西檀林4世、伊豆雲金妙本寺12世/伊豆加殿の妙法華寺16世、1604江戸神田に大雄寺創建、1620家康側室の養珠院お万の方の外護を得て妙法華寺を伊豆玉沢に移転、「俱舎頌記」「西谷名目抄」著
- C3382 **日脱**(にちだつ;法諱・空雅;字、一円院、逸見久太郎、又兵衛男) 1626-98 73 加賀日蓮僧;日理門、下総飯高檀林に修学/山科檀林5世化主/京立本寺22世/飯高檀林18世化主、1680(遠方8)身延久遠寺31世;身延興隆に尽力;朝廷より紫衣を受、1687悲田派を訴え1691悲田派を禁止させる、江戸谷中瑞輪寺に没、1685「身延鑑」、「一円記」「不受不施論記」、著
- C3383 **日達**(にちたつ;法諱・学忍;字、成遠(じやうおん)院) 1651-1708 58 日蓮僧;山城鷹ヶ峰檀林能化、下総中村檀林能化・京日蓮宗本法寺27世/下総法華経寺55世、江戸谷中安立寺に没、1703「日新上人徳行記」編

- C3384 **日達**(にちたつ;法諱・智鳩/運智;字、了義院、俗姓;萱間)1674-1747<sup>74</sup> 福島の日蓮僧:日通門;出家、常陸水戸三昧堂檀林に修学/勝光院日耀門、山城求法院・鷹ヶ峰檀林能化、1720京本圀寺26世、30下総中村檀林53世能化、六条門流教学の確立に尽力、大僧都/法印、著述活動;浄土宗了海・真宗性均・華嚴の鳳譚らと権実を争う/仏教排斥の林羅山に反駁、「受不受訣疑鈔」「本迹得意抄」「神仏冥応論」「他經二乗作仏否記」「法華教主」外著多数
- C3385 **日達**(にちたつ;法諱、恵林院)1690-1768<sup>79</sup> 讃岐日蓮宗法華寺19世、1758「一毛録」、「本尊七ヶ口決略」著
- C3386 **日達**(にちたつ;法諱・智閑;字、本昌院)1691-1772<sup>82</sup> 山城日蓮宗小栗栖檀林30世/京寂光寺9世、日什門流教学の復興を図り組織化に尽力;1746「置文諷誦抄」著、1740「日什大聖師伝」「開祖伝記空中山日達記」、「諷誦文抄」「思運記」外著多数
- C3387 **日霽**(にちてん;法諱・慈成じょう;字、妙道院、俗姓鈴木)1817-90<sup>74歳</sup> 上総日蓮宗細草檀林89世/富士大石寺52世、「新定本祖文集」「両山問答」「異流義摧破抄」「立正安国論談」著
- C3388 **日伝**(にちでん;法諱/初諱;善智、肥前法印/肥前阿闍梨)1224?-1302<sup>79?</sup> 肥前真言僧;鞍馬修行、甲斐小室仁王護国院主職/1274日蓮との法論に敗/75暗殺を謀る;逆に帰敬;日蓮門、小室の旧院を日蓮宗妙法寺に改称開山、「甲州小室山伏問答」著
- C3389 **日伝**(にちでん;法諱・本覚房、半年僧、本姓三条)1277-1341<sup>65</sup> 越後柏崎天台僧/日蓮僧;日朗門/佐渡の日蓮に謁/1309下総平賀本土寺3世、「祈祷経口決」「祈祷経相承」「宗要集」著
- C3390 **日伝**(にちでん;法諱、中納言阿闍梨、南条時綱男)1340-1416<sup>77</sup> 安房日蓮僧;幼時に妙本寺日郷門、1353日郷没後;日賢・日睿門、のち安房妙本寺5世、1398「大綱深秘抄」著
- C3391 **日伝**(にちでん;法諱・大円;字、建立院)1342-1409<sup>68</sup> 鎌倉の日蓮僧;京本圀寺4世日静にちじょう門、;出家/修行、1369京本圀寺5世、門下の法光院日駿を和泉堺に送り成就院を建立、寺門拡充と弘通に尽力、同門本成寺日陣と本迹問題を論争し義絶、在山41年;日経に譲渡、「本迹問答広義」著
- C3392 **日伝**(にちでん;法諱、常楽房/唯本院)1421-63<sup>43</sup> 伊豆玉沢日蓮宗妙法華経寺10世、日昭門流、1456上京;本覚寺に滞在し妙満寺・本能寺を歴訪、日陣門流日現・日什門流日悦らと論争、1450「本迹問答抄」、「本尊相伝抄」著
- C3393 **日伝**(にちでん;法諱・乗海;字、寶聚院)1482-1548<sup>67</sup> 日蓮僧;日朝・日意門/1519身延久遠寺13世、祖師堂など伽藍整備、武田信虎・信玄が身延を祈願寺とす;その庇護で甲府の信立寺開創、宇野貞治の帰依外護で相模小田原に玉伝寺を開創、晩年は身延西谷の麓坊に退隱、「時要集」「諸法実相」「権乗下種」「神道口伝」「沈月集頸指示」「竜女分極」外著多数
- C3394 **日典**(にちでん;法諱・教典;字、実成院)1521-92<sup>72</sup> 備前日蓮僧;幼時京妙覚寺に修行/関東游学、1563上総藻原妙光寺13世/66妙覚寺18世、1588仏性院日奥(不受不施派の祖)に後事を譲る、越後長尾家重臣直江景綱の招聘で佐渡塚原根本寺11世、不受不施義を堅持;日珖らと対立、仮名草子「妙正みょうじょう物語」著?;1662刊、「讓状」著
- C3395 **日奠**(にちでん;法諱/初諱;日伝、俗姓栗田)1601-67<sup>67</sup> 母;蓮池院法安妙理尼、加賀日蓮僧:日遠門、;身延久遠寺に修学/京三宝寺開山の日護門;下総中村檀林に修学、1648中村檀林9世化主、能登滝谷の妙成寺17世/1660身延久遠寺28世/不受不施派の頭領として不受不施派禁制とす、「破奥記」「身延記」「受不受法理抄」「西谷名目中村条箇」「不受不施訴状」著、  
[日奠の字/号] 字;義道、号;妙心院/加賀奠師
- C3396 **日典**(にちでん;法諱) ? - ? 江後期日蓮僧:英智院日宣門/神儒二教批判の師の法華経学を支持;その口述を編纂、1822師の神儒批判口述「三道合法図解」編、22「法華三道合法図解」編
- C3397 **日道**(にちどう;法諱、新田頼綱男)1283-1341<sup>59</sup> 伊豆島郷の日蓮僧;叔父の富士大石寺3世日目門、同寺開山日興門;直参、2師没後;日郷と大石寺の後継争い、母方の大檀那南条家の庇護で1336(建武3)富士大石寺4世を継嗣、「三師御伝」著、  
[日道の通称] 伯耆房/白蓮房/伯耆阿闍梨/弁阿闍梨
- C3398 **日導**(にちどう;法諱・刑部;字、勸持院/題目房)1501-55<sup>55歳</sup> 京日蓮宗本禅寺5世、「和歌八重禪」著
- C3399 **日導**(にちどう;法諱・智溪;字、一妙院/綱要導師、俗姓井上)1724-89<sup>66</sup> 肥後熊本の医家の生、日蓮僧;1733(10歳)熊本本妙寺東光院日禅門;出家、山城鷹ヶ峰檀林・下総中村檀林修学、江戸牛込慧光寺10世/1783中村檀林153世/85帰郷;熊本本妙寺21世、

1785「祖書綱要」、「祖書綱要刪略」「草木成仏記」「四種三段抄」「裁断惑説」著、

[日導の別法諱] 榮雅/日深

- 日南(にちなん;号) → 法海(ほうかい;法諱、真宗僧) 3 9 2 6  
日南(にちなん・伊藤) → 長秋(ながあき・伊藤、書家) D 3 2 0 9  
日南(にちなん・池原) → 香釋(かか・池原いけはら、医者/国学) T 1 5 6 3  
日々庵(にちにちあん) → 塘水(とうすい、諏訪わ武記、藩士/俳人) F 3 1 8 1  
日々庵(にちにちあん) → 得玄(とくげん・木崎、茶人) K 3 1 6 6  
日々庵(にちにちあん) → 半山(はんざん・荒木、俳人) 3 6 8 0  
日々庵(にちにちあん) → 鷺眠(ろみん・後藤ごとう、俳人) C 5 2 4 3  
日々庵(にちにちあん) → 序草(じょそう・日々庵、俳人) M 2 2 6 6  
日々斎((にちにちさい) → ト胤(ぼくいん・児玉こたま、神職/俳人) C 3 9 8 9
- D3300 日々坊(にちにちぼう・尾崎おさき太玄、別号;橘窓/鳥周) 1768-1851 84歳 安房鴨川の俳人、  
1844刊「松蔭集」著
- D3301 日如(にちによ;法諱、蓮成れんじょう院)?-? 室町戦国期;鎌倉の日蓮宗妙本寺住僧、  
妙頭寺と本光院寺の門徒抗争を斡旋調停:1522「大永規約」成立、「妙頭寺へ贈る書」著
- D3302 日如(にちによ;法諱) ? - ? 日蓮僧/京の俳人;貞徳門、  
1628京妙満寺俳諧参加、1638西武さいむ「鷹筑波集」入
- D3303 日如(にちによ;法諱・是心;字、本寂院/本光院/即空、俗姓片岡) 1628-99 72 京日蓮僧;日允(にちいん)門、  
;京妙覚寺に出家、下総中村檀林に修学/伊豆雲金妙本寺・下総沼田妙光寺歴住、  
下総峯妙興寺27世、のち師の遺命で江戸青山本通庵に住、説法3700余座、「本光遺集」  
日如(にちによ) → 元政(げんせい、日政、日蓮僧/詩歌) 1 8 2 3
- D3304 日饒(にちによ;法諱・英月;字、興善院、俗姓尾形) 1573-1644 72 京の日蓮僧(幼少時出家)、  
天台教学を修学/上総小西檀林5世/江戸法恩寺11世/1615京妙頭寺住職、「讓状」著
- D3305 日饒(にちによ;法諱・痴山;字、信行院) 1624-87 64 京日蓮宗要法寺24世、  
1670「到彼岸記」、「破儒記」著
- D3306 日忍(にちにん;法諱、下野阿闍梨、熱原国重男、日弁弟)?-1379? 駿河楠山の日蓮僧:  
下総妙興寺開創の兄日弁門、相模愛甲に長福寺・千代に蓮華寺・風祭に妙覚寺を開創、  
日弁・日法から相伝の日蓮遺骨を中山法華堂本妙寺に寄進、晩年;下総妙興寺2世;兄継嗣、  
1339「御舍利感得縁起」著
- D3307 日仁(にちにん;法諱、号;本覚院)?-1416 京の日蓮僧;1385日什より会津妙法寺を託される、  
のち京の妙満寺3世、口述「門徒古事」(日運筆)、日什門弟六老僧の1  
[日仁(;法諱)の通称]善如房/宰相阿闍梨
- D3308 日忍(にちにん;法諱・覚吟かくい/覚心;字、勸持院/智門院) 1601-77 77歳 京日蓮宗本禅持11世、  
1670「本成本因本末論記」著
- D3309 日忍(にちにん;法諱、事行院) 1708-73 66歳 京日蓮僧;日体につたい門、  
1769日体「根本日蓮宗旨名目」筆記:実は日忍の著作
- D3310 日然(にちねん;法諱・湛如;字、本源院;号)?-1679 下総日蓮宗中村檀林化主/身延西谷檀林9世、  
「弥勒不知論」「無量義経同異論」著
- D3311 日念(にちねん;法諱・恵照;字、安住院、俗名;田口平六) 1656-1732 77 山城鳥羽の日蓮僧;日講門、  
備中箕島覚隆院に止住、1676(延宝4)師日講の配流地日向佐土原住;20余年師に常従、  
師没後大阪住;講門派の宣揚に尽力、  
1695「松島道記」、1721「愍論盲跛記」31「梅花鶯囀記」著
- D3312 日然(にちねん;法諱・枢環[枢蹊];字、俗姓浅野) 1792-1862 71 播磨赤穂日蓮僧:1801舜竜院日蒼門、  
撰津尼ヶ崎勸学院に修学/和泉堺の頭本寺住職、浪華八品講を組織;在家講の育成、  
「随聞略答」「三途成仏義」「三途成仏両義和融編」「一半破責抄」「御義口伝真偽論」、  
「寿量一品」、1855「旗曼茶羅不審抄」著、  
[日然の号/通称] 号;事妙院、通称;歎徳沙門/免徳斎
- D3313 日能(にちのう;法諱) ? - ? 京日蓮宗妙願寺住職/一如院日重・正行院日源門、  
1504頃日建(にちごん)・日諦につたい・日耀らと日蓮遺文「録内御書」講述;1508「撰時抄上卷講談」著、  
1509「報恩抄下卷講談」著

- D3314 **日能**(にちのう;法諱) ? - 1652(78歳以上) 京日蓮僧/1617越前敦賀の本勝寺13世/俳;貞徳門、1629貞徳と京妙満寺俳諧に一座、44「両吟尺日能長頭丸百韻」、38「鷹筑波集」巻頭句入西鶴「古今誹諧師手鑑」(1676刊)入、  
[春立つといふばかりにやかざり縄](手鑑)、  
参考 長頭丸(ちやうとうまる) → 貞徳(ていとく・松永、歌/俳人) 3008
- D3315 **日鑱**(にちばん;法諱) ? - 1772 京の真言宗蓮台寺24世、  
1757「秘鈔聞書」「薄諸尊法聞書」、58「作法集聞書」「三部経聞書」「秘蔵金宝鈔聞書」、  
「諸尊要鈔聞書」「伝法灌頂三卷式聞書」外著多数
- D3316 **日普**(にちふ;法諱・憲承;字、養賢院)1712-85or8674or75 京の日蓮宗妙満寺116世、  
同寺塔頭遠妙院に没、「本迹事理三千得意抄」著  
[一如の号/法名]号;鞭草庵、法名;日普  
日普(にちふ;法名) → 一如(いちにょ;法諱・津々良つら、日蓮僧/画) K1144
- D3317 **日文**(にちぶん;法諱・弁立;字、寿量院)?-1856 山城鷹ヶ峰日蓮宗光悦寺18世、  
1848「諸宗陰陽集」、「因縁得聞抄」「東西集」「南北集」著  
日文(にちぶん) → 旻(みん、博士:大化改新制度) G4175  
日米道人(にちべいどうじん) → 千秋(ちあき・田所/三輪、藩士/国学) 2800
- D3318 **日弁**(にちべん;法諱、乗観房/越後房/越後阿闍梨、熱原国重男)1239-131173 駿河天台宗滝泉寺僧、  
下野阿闍梨日忍の兄、改宗;日興門・日蓮に直参、1279駿河熱原法難のとき日興等と活躍、  
日興の身延離山には同行せず/上総鷲栖鷲山寺・下総峯の妙興寺・駿河賀島常諦寺を開創、  
1311常陸に弘法中に桜村で他宗徒の襲撃を受けて没、  
「本門戒壇抄」「円極実義抄」「本迹聞書」「本尊抄聞書」「眞俗二諦事」著
- D3319 **日葆**(にちぼう;法諱・観測;字、芳文院)?-1755 江戸谷中日蓮宗延命院住職、「臨終用意抄」著
- H3312 **日峰**(にちほう;法諱・義斎;字、俗姓;田辺)1835-8753 肥後熊本の日蓮僧、福井の妙国寺住職、  
備中笠岡の妙乗寺住職、  
[日峰の号] 優陀那
- D3320 **日穆**(にちぼく;法諱、大輔阿闍梨(たいふのあじり)?-? 南北期会津天台僧/のち日蓮僧:日什門/  
鎌倉本興寺2世、1381師の上洛奏聞同行「日什御奏聞記録」著
- D3321 **日璞**(にちぼく;法諱、常在院)?- ? 江後期江戸浅草日蓮僧、1841「後五百歳優曇抄」著
- H3336 **日梵**(にちぼん;法諱、律師)? - ? 江前期上方の日蓮僧、  
歌人;1682河瀬菅雄[麓の塵]3首入、  
[うつし見る鏡のかげのありてなきかりのうき世をいかになげかん](麓の塵;雑661)
- D3322 **日満**(にちまん;法諱・興円;字、遠藤盛正男)1272-136089歳 佐渡の日蓮僧:駿河本門寺日興門、  
妙宣寺2世、「日満記」、1334「方便品読不問答記録」43「代師重須離山之事」著  
[日満の通称] 如寂房/眞成(しんじやう)房/佐渡阿闍梨、彦日満
- D3323 **日妙**(にちみょう;法諱/初諱;日榮、玄秀;字、正覚院)?-1709 越前敦賀の日蓮宗妙頭寺20世、  
「当家本迹唯一致抄」著
- D3324 **日妙**(にちみょう;法諱・如海(にょかい);字、大円院)?-1711 仙台日蓮宗孝勝寺21世/甲斐勝沼立正字23世、  
「天台智者大師紀年録」「天台智者大師紀年録詳解」「片玉集」「銅臭記」、1687「筆乗」著
- D3325 **日明**(にちみょう;法諱・玄修/智英;字)1743-1814/2872or82 尾張海東郡萱津の日蓮僧:日登門、  
;尾張妙勝寺に修学/のち尾張妙勝寺33世/山城求法院檀林170世/郷里妙法寺26世継嗣、  
1798名古屋郊外本郷に結庵、日蓮遺文蒐集/編纂校訂に17年間尽力、  
1814「高祖遺文録」編、「録内録外目録集」「新撰校正祖書」「我宗啓運諸書集」著、  
[日明(;法諱)の号]智英院/玄修院
- D3326 **日妙**(にちみょう;法諱・宜順;字、本正(ほんしやう)院)1747-1816 撰津尼崎日蓮宗本興寺62世、  
1798「本門円宗要品弁意抄」著  
日明(にちみょう;初法諱) → 日相(にっさう;法諱・是心、久成院、日蓮僧) E3386
- H3302 **日明**(にちめい;法諱、名;鶴/神英、号;神力院/延寿)1795-186470歳 越後蒲原郡の日蓮僧;  
芝本山長応寺法嗣、法華宗陣門流総本山の本成寺(ほんじやうじ)49世、  
歌人;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[うらうらと笛の音遠くかすむなり梅散る里の春の夕暮](大江戸倭歌;141/落梅)

- D3327 日目(にちもく;法諱・蓮藏房、領主小野寺重綱男/母南条行増女)1260-1333 伊豆仁田郷の生、1272伊豆円蔵坊に出家、改宗;日興門/身延で日蓮門/日蓮没後;日興の離山に同行;富士大石寺に移る:1298譲られ大石寺3世/陸前に本源寺・上行寺を開創、1333(正慶2)上京の途次美濃垂井に客死、  
「見聞雙紙」「肝心要義集」「要文集」「日尊付属書」、1333「日興上人遺跡事」外著多数、  
[日目の通称] 新田郷阿闍梨/郷公  
日夜庵(にちやあん) → 素風(そふう・鷹野、俳人) E 2 5 2 9  
日唯(にちゆい;法諱) → 雲左(うんざ;道号・日唯、日蓮僧/俳人) D 1 2 7 1
- D3328 日祐(にちゆう;法諱、浄行院、佐倉城主千葉胤宗男)1298-137477歳 千葉胤貞の猶子、下総佐倉の日蓮僧;下総中山法華経寺2世日高門、1314同寺3世継嗣、千葉胤貞の外護・さらに鎌倉六浦景光(妙法)の外護を得て諸所に法華堂を建立;勢力を伸ばす、肥前小城郡の千葉家の所領に光勝寺開創;九州布教の拠点とす、1334-41頃屢々奏聞のため上京;中山門流結束に尽力/本尊聖教の蒐集・護持にも尽力、  
「安国論見聞」「大綱要文集」「宗体決疑抄」「答肝要鈔」著、1344「本尊聖教録」編  
[日祐の通称] 大輔公/大輔阿闍梨
- D3378 日祐(にちゆう;法諱) ? - ? 室町後期日蓮僧/連歌;  
1504通宣願主「大山祇社法楽連歌」(何人百韻)参加
- D3329 日友(にちゆう;法諱・通心;字、中正院、俗姓佐藤)1570-161950歳 上総湯坂日蓮僧;久遠寺日新門、下総檀林7世/1617池上本門寺/鎌倉妙本寺両山5世、「顕性録私記」「文心解私記」著
- D3330 日勇(にちゆう;法諱・天慧;字、法性院、参議西洞院にしのとしいん時直男)1604-5047 京の日蓮僧;日要門、;身延久遠寺で修学;竹の坊に住/のち京妙伝寺14世/1643山科護国寺開創/山科檀林開創、後水尾上皇・東福門院に説法、1647「破留意要」著
- D3331 日祐(にちゆう;法諱・玄首;字、寿量院)1610-6455 大阪の日蓮僧;雲雷寺に出家、久遠寺日遠門、下総飯高檀林に修学/同檀林化主日耀の知遇を受ける;1648飯高檀林13世を継嗣、1654真間弘法寺住職、学寮間城庵を創設;門弟育成に専心、  
「片簡録」「円頓者私記」「法華教主私記」「法華玄義祐記」「摩訶止観妙境要義」外と多数
- D3332 日勇(にちゆう;法諱、唯観院)1639-9153歳 武蔵豊島郡の日蓮僧;下総野呂檀林に修学、江戸山谷正法寺住職/1675身延山百日参籠苦行;唯観流を創始、1688「法華澄心録」91「三寶三嘆記」著
- D3333 日祐(にちゆう;法諱・立慧;字、収玄院)1640-171475 大阪の日蓮僧;幼時に身延久遠寺日通門、出家/山城山科檀林に修学/深草瑞光寺日灯と親交;深草霞谷に隠棲、詩文を能くす、晩年;日実の跡を承け山城西岡真如寺に住;窮民施療に尽力、  
「梵網戒体」「起信論科解」「指要抄私記」「名言功德辨」「法界次第私記」「四教儀集註自照」著
- D3334 日幽(にちゆう) 1645 - 1740 安房吉浜日蓮妙本寺28世、「金玉章」「高祖一代大綱記」
- D3335 日裕(にちゆう;法諱・好弁/竜海;字、見竜院)1663-173775 日蓮僧;身延久遠寺33世日亨門;出家、下総飯高檀林に修学;同檀林44世化主、京満願寺2世/安房小湊誕生寺27世、1713身延久遠寺34世/1718上人宣下;在山20年、後事を日竟に譲渡し退隠/一円庵に没、「亨師徳行記」「文句講記」著
- D3336 日宥(にちゆう;法諱・栄存;字、寿命院)1670-172960歳 日蓮僧;上総細草檀林24世/富士大石寺25世、1688「六ヶ条一心三観記」著
- D3337 日勇(にちゆう;法諱・存道;字、本義院)1705-6056 名古屋日蓮僧;常德寺12世日貴門;出家、上総宮谷檀林日受門、1757上総宮谷檀林77世化主/江戸蓮華寺11世/上総本松寺17世、1758京妙満寺109世、本松寺に没、1750「蒲鞭折疑論」57「易学原正」、「儒仏心性論衡」著
- D3338 日祐(にちゆう;法諱・寿考;字、竹山ちくざん:号)1726-8459歳 山城深草の日蓮宗瑞光寺8世、1767「経題詩歌」75「雲臥堂寿草」、「雲臥堂唱和集」「近代詠草」「知量和尚集」著  
日雄(にちゆう) → 日雄(にちゆう・日蓮僧すべて)  
日幽(にちゆう;法諱) → 了玄(りょうげん・石井、連歌宗匠/日蓮僧) H 4 9 3 5  
日融(にちゆう・仏乗院) → 尚友(しょうゆう・佐野との、日蓮僧/国学) U 2 2 8 6
- D3339 日与(日誉にちよ;法諱/初諱;日定、金剛院)1426-9166 京の日蓮僧;本能寺開山日隆門;直弟、隆門六老の1、1474京本能寺住職及び撰津尼崎本興寺4世住職を兼務;在山18年/隠棲、

一条兼良邸や禁裏で後花園天皇などに法華經進講、  
法華經大意を歌に詠む五巻の著(実隆公記入)、歌人/連歌;宗祇門、  
「法華和語記」「華果実録」「法華經抄」「本門論議抄」著、1483宗伊と何路百韻/新菟12句入、  
1490「七人付句判」催;宗祇跋;宗祇・肖柏・宗長ら参加、

- D3340 **日誉**(にちよ;法諱/日祐、正純;字、俗姓小野寺) 1556-1640 85歳 武蔵百間の真言僧;  
幼時に武蔵西光院日雄門;出家/1585紀伊根来寺の日秀・頼玄門、西光院住/大和長谷寺入、  
専誉門、1606近江総持寺住/1612(慶長17)京智積院3世、1617権僧正/31京大報恩寺に退隱、  
1636「根来破滅記」編、「釈論第三重私」「大疏第三重私」「隱棲記」著
- D3341 **日要**(にちよう;法諱・要学;字、三河阿闍梨) 1436-1514 79 日向細島の日蓮僧;妙谷寺日慮門;出家、  
富士大石寺日有門/日向本永寺学頭日朝門;本永寺学頭職に就く、1489安房妙本寺11世、  
本要寺/本蓮寺/本伝寺を開創;富士門流教学を展開、1514(永正11)下沢妙勝寺に退隱;没、  
「富士門流草庵口決」「富士一流草案」「富士所立抄」「安国論聞書」「一流相伝大綱」外著多数
- D3342 **日耀**(にちよう;法諱、常寂院) 1445-1522 78歳 下総松崎日蓮宗顕実寺11世、寺内に松崎学室創設、  
祖書を講ず/1504頃日建(ちごん・日諦)についで、日能・日耀らと日蓮遺文「録内御書」を講述;  
日耀は「観心本尊鈔」を講述、1509「新造論議」、「教学私見聞」「相伝法門」「二帖抄見聞」、  
「観心本尊鈔見聞」「禅宗事」「眷属妙義私記」著
- D3343 **日陽**(にちよう;法諱、本覚院) ?-1598 尾張清須の日蓮宗法華寺5世、  
織田信長の庇護を受け岐阜城下に法華寺を開創、  
1579安土宗論後;身延山と京本圀寺を破毀しようとする信長に中止を諫言;破毀を免れる、  
1593「金錍論科文」著
- D3344 **日陽**(にちよう;法諱、本種院) 1572-1638 67歳 京の日蓮宗要法寺18世、石見本法寺に没、  
「断疑生信抄」「雑集」著
- D3345 **日要**(にちよう;法諱・観月;字、顕是院) 1576-1623 48 の日蓮僧;身延久遠寺22世日遠門、  
下総中村檀林4世化主/京妙伝寺9世/甲斐小室妙法寺16世/1616(元和2)久遠寺24世、  
1619加賀金沢藩主前田利常生の生母日寿福院栄尼の援助;五重塔建立、山内寺観の整備、  
1618「枕月条数」、「延山年中行事」「尊抄私記」「文心解私記」著
- D3346 **日瑤**(にちよう;法諱・円琢;字、恵光院) 1580-1639 60 京日蓮宗要法寺20世、  
「御書要文集」編/「雑集」「寿量品記」「寿量品見聞」「法華經講釈」著
- D3347 **日耀**(にちよう;法諱・住心;字、円是院) 1599-1655 57 上総武射者郡埴谷村の日蓮僧;  
池上本門寺・鎌倉妙本寺兼務の日友門;出家/のち本門寺16世日遠門、  
1645下総飯高檀林12世化主、日遠外護の家康側室お万の方(養珠院)の援助で大講堂再建、  
学寮竜眠庵を創設;門弟育成に尽力、1649本門寺・妙本寺両山18世、  
「観心自鏡章」「法華玄義解」「華嚴教主私記」「四教俱説私記」「法華文句示童記」外著多数
- H3320 **日養**(にちよう;法諱、) 1629 - 1717 89 近江彦根の日蓮宗妙法山蓮花寺住職、  
歌人:[彦根歌人伝・鶴]入
- D3348 **日耀**(にちよう;法諱・勝光;字、勝光院) 1636-97 62 京日蓮宗妙覚寺24世日充門、下総中村檀林修学、  
南都遊学/1667山城鷹ヶ峰檀林14世、京本法寺21世/下総中山法華經寺40世/京妙顕寺20世、  
1678中村檀林11世/95光圀の招請で水戸三昧堂檀林6世、97鷹ヶ峰体眞庵に退隱、  
「三徳縦横之事」「三索之事」「一念随喜私記」「提謂經撰用私記」「弥勒不知論」外著多数
- D3349 **日耀**(にちよう;法諱・了孝;字、宣示院) 1667-1739 73 山城日蓮宗;小栗栖檀林16/22/29世、  
京本隆寺18世、「当家口伝」著
- D3350 **日遙**(にちよう;法諱、智光院) ?- ? 江中期越中婦負郡黒瀬谷村日蓮宗本法寺住僧、  
1762「法華經28品凶画之縁起」著
- D3351 **日耀**(にちよう;法諱・観寿;字、体量院) ?-1853 丹後日蓮宗妙円寺18世、「祖書録外考文」編
- D3352 **日耀**(にちよう;法諱・無着;字、心光院) 1811-63 53 京日蓮宗妙蓮寺47世、「日隆聖人略縁起」著
- 日容(にちよう;法号) → 豊陳(とよのぶ・朝倉あさくら、幕臣/詩人) R 3 1 4 4  
日陽(にちよう;法諱) → 呑水(どんすい・日陽、日蓮僧) S 3 1 3 4  
日擘(にちよう;後藤) → 象二郎(しょうじろう・後藤、藩士/政治家) J 2 2 9 1
- D3353 **耳鳥齋**(にちようさい・松屋まつや) ?-1803 大坂京町堀の酒造業/のち骨董商/絵師:鳥羽絵系、  
絵本挿画(1781-1803頃)、素人浄瑠璃、1780役者絵「絵本水や空」/82嘶本「画話耳鳥齋」著、

- 1783艶好「徒然酔いが川」/94波丸「戯動大丈夫たむれますらお」96波丸「通者茶話太郎いはいちやわたろう」画、  
1797「嵐小六あらしにろく過去物語」1803「耳鳥齋画譜」「かつらかさね」「歳時滅法戒」画・外多数、  
[耳鳥齋の通称/別号]通称;松屋平三郎/平太左衛門/松平まつへい、別号;酒中仙
- D3354 **二直庵**(にちよくあん・曾我そが、直庵男)?-? 江初期;撰津堺の絵師:鷹の絵に長ず、  
「阿蘭陀貝尽」画
- D3355 **日理**(にちり;法諱・理全;字、転心院)1781-1844<sup>64</sup> 京日蓮宗妙満寺197世、  
1823「当家籤訪会答記」著
- D3356 **日理**(日璃にちり;法諱・善哲;字、一道院)1782-1824<sup>43</sup> 上総日蓮宗宮谷檀林168世、  
江戸品川本光寺33世、1823「再問会答記」著
- D3357 **日隆**(にちりゅう;法諱・深円/恵匠;字、名;長直、桃井尚義男)1385-1464<sup>80歳</sup> 越中浅井の日蓮僧:  
1402京の妙本寺日霽門/師没後;後継の月明と対立し退寺、伯父;妙本寺日存/叔父;日道、  
1420撰津尼崎に本興寺を開創・29京五条坊門に本応寺開創;33同寺を六角大宮に移設;  
本能寺と改称;京の本寺とす、本興寺に勸学院を開設;各地に諸寺創建、  
八品正意の教義を立て勝劣義を主唱;日隆門流・八品派と称す、「法命集」「玄義要文」著、  
「弘経抄大意」「御書文段」「三大部略大意抄」「止観見聞」「当家要伝」外著多数、  
[日隆(法諱)の幼名/初法諱/号/通称]幼名;長一丸、初法諱;日立、  
号;精進院、通称;桂[慶]林房
- D3358 **日隆**(にちりゅう;法諱、受正院)1502-69<sup>68歳</sup> 上総日蓮宗小西檀林5世/下総平賀本土寺13世、  
「本迹致劣之事」著
- D3359 **日領**(にちりょう;法諱、正覚院/守玄院)1572-1648 岡山日蓮僧/安房誕生寺16世/上総小西檀林能化、  
のち池上本門寺日樹門;不受義を主唱、  
1630(寛永7)老中酒井忠世邸で池上派(不受不施)として日樹等と列席し身延派と対論;  
受不施の身延派に敗れる;佐渡塚原に配流決定されたが赦免される、  
磐城相馬藩老臣池田直介の援助で;相馬の仏立寺を開創;同寺に没、  
1627「法苑珠林条目」-42「日蓮本地義」、「諸文要義」「当宗法数」「蓮祖格言」著
- D3360 **日亮**(にちりょう;法諱、上聖院/円通院)1573-1646<sup>74</sup> 越後日蓮宗妙法寺13世、  
伊豆玉沢の妙法華経寺17世/1631京妙覚寺22世;在山7年;末寺百余寺の大半が本寺に向背、  
1637江戸牛込の庵に退居、江戸赤坂円通寺・牛込瑞光寺を開創、  
「本迹六箇条」「本迹問答略記」著
- D3361 **日量**(にちりょう;法諱・泰樹/泰寿;字、泰樹[太寿]院)1661-1711<sup>51</sup> 甲斐巨摩郡の日蓮僧:1667出家、  
1676下総飯田田檀林に修学/一円院日脱門、下総松崎檀林28世化主/甲斐妙了寺16世、  
塚原に退隠/身延久遠寺日享の招請で西谷檀林29世化主、1708「分段捨不論」著
- D3362 **日領**(にちりょう;法諱・通如つじよ;字、体眞院/体信院)1679-1755<sup>77</sup> 山城の日蓮僧;  
東山・鷹ヶ峰檀林化主/下総中村檀林化主/山城深草寶塔寺20世、下総中山法華経寺62世、  
京本法寺29世;常陸妙円寺開山、「二乗作伝記」「教部記」著
- D3363 **日量**(にちりょう;法諱・考正;字、遠寿院)?-1775 江戸深川日蓮宗浄心寺6世/上総小西檀林65/115世、  
1760「五仏道同決疑章」、「本迹異論決」著
- D3364 **日良**(にちりょう;法諱、信寿院/和泉阿闍梨)1726-91<sup>66</sup> 山城日蓮宗小栗栖檀林45世/要法寺30世、  
余仏不造・二品読誦の規矩を制定、「談義録」「玄義講記」「随筆」「集録」「蓮祖一代略問答」著
- D3365 **日陵**(にちりょう;法諱・観朗;字、竜興院)1745-1819<sup>75</sup> 日蓮僧;1805京本圀寺35世/撰津本澄寺26世、  
1816大僧正/法印、「本圀寺年譜」「録外考例」著
- H3321 **日梁**(にちりょう;法諱・樹王院)?-1828 但馬出石の日蓮宗経王寺住僧/のち近江彦根住、  
歌;香川景樹門、歌;[彦根歌人伝・亀]入
- D3366 **日量**(にちりょう;法諱・一要;字、本寿院/久遠阿闍梨)1771?-1851<sup>81</sup> 上総日蓮宗細草檀林80世/  
富士大石寺48世、1823「富士明細志」/25「寛師伝」/50「興師一代略頌」、「富士身延問答記」著
- H3322 **日量**(にちりょう;法諱・心禅院、号;風子)1781-1835<sup>55</sup> 安藝の日蓮僧、近江彦根蓮花寺住僧、  
徳楽庵主、歌人:[彦根歌人伝・続寿]入
- D3367 **日輪**(にちりん;法諱、平賀忠晴男)1272-1359<sup>88歳</sup> 下総平賀の日蓮僧;兄日像(妙頭寺開創)の感化、  
1282(11歳)日朗門;出家/日伝門、1318日朗から譲られ鎌倉妙本寺・池上本門寺両山3世、  
兄日像没後も妙頭寺と交流、上総木更津光明寺・相模妙輪寺を開創、妙本寺に没、

「日輪上人消息」「贈日像御房書」「法華弘通秘聞書」著、

[日輪の通称] 治部公/大教[大経]阿闍梨、幼名;亀王麻呂

- D3368 **日輪**(にちりん;道号・当午とうご;法諱)?-1789 伯耆の曹洞僧:徳林寺の祥雲大瑞門、のち徳林寺住持/伯耆精明寺住持/1769越中光禅寺を開山、越中長慶寺を開山、「当午和尚法語」「当午和尚戒談」「当午和尚示衆」「当午和尚普説」著
- D3369 **日臨**(にちりん;法諱/初諱日旨・本妙;字、通称;本妙律師)1793-1823<sup>31</sup> 江戸青山の日蓮僧:1811下総玉蓮寺日啓門/江戸宗延寺日実門、身延山に修行2年間、山城深草瑞光寺元政遺風を慕い草山に隠棲、1820(文政3)再度身延山に登る、波木井孫六の外護で醒悟園を結び持律の生活を送る;僧風に刺激を与える、1823(文政6)常陸水戸に招請され慧日律院に住;没、「戒本便蒙」「眼海濤波」「教観譬林」「本宗綱要」「曼荼羅義類聚」「礼法華儀註」外著多数
- D3370 **日禮**(にちらい/にちらい;法諱・貞運じょううん;字)1753-1821 佐渡相川の日蓮僧、下総飯高檀林236世、1796(寛政8)佐渡塚原の根本寺34世、歌人、1798「塚原山八境」著、[日禮(;法諱)の別法諱/別字/号]別法諱;日頼、別字;運貞、号;仏性院ぶつしょういん/行一ぎょういつ
- D3371 **日禮**(にちらい;法諱、妙事院)?-1846 上総平沢の日蓮宗妙厳寺26世、1834「上清澄山方丈書」著
- 3304 **日蓮**(にちれん;法諱/初法諱;蓮長・是聖房;号)1222-82 日蓮宗の開祖、安房小湊の出身;1237(16歳)出家;天台教学を修学/叡山修行/高野山・南都修行、法華経に仏法真髓を発見、1253(建長5)安房清澄山で法華信仰を布教(日蓮宗開宗);辻説法により他宗を攻撃、1260北条時頼に「立正安国論」を進呈;幕府の忌諱を蒙り伊豆に配流・赦免後も他宗批判;佐渡に流罪/1274赦免され鎌倉に帰る;幕府に諫言も容れられず;身延山隠棲;久遠寺開山、武蔵池上の信徒池上宗仲邸で弟子六老僧に後事を託し没、1260(文応元)「立正安国論」著、1266「法華題目抄」72「開目鈔」73「観心本尊鈔」「顕靴未来記」74「立正観鈔」76「報恩鈔」、「守護国家論」「因果問答抄」「本門宗要抄」「三身鈔」「法華和讃」「身延山御書」外著多数、[琥珀は塵をとり磁石は鉄をすふ我等が悪業あくごうは塵と鉄との如し 法花経の題目は琥珀と磁石との如し](法華題目抄)  
[日蓮(;法諱)の幼名/諡号]幼名;葉王丸/善日曆、諡号;立正大師
- 日蓮門六老僧**(にちれんもんろくろうそう);日蓮が武蔵池上で没直前に本弟子と指名した門弟
- |                                |           |
|--------------------------------|-----------|
| → 日昭(にっしょう・成弁)1221?-1323;103歳? | E 3 3 1 6 |
| → 日朗(にちろう・正法院)1245-1320        | D 3 3 7 2 |
| → 日興(にっこう・常在院)1246-1333        | D 3 3 8 7 |
| → 日向(にこう)1252-1314             | 3 3 1 4   |
| → 日頂(にちちやう、伊予房)1252-1317       | F 3 3 1 1 |
| → 日持(にちぢ、本応院)1250-95           | C 3 3 0 2 |
- D3372 **日朗**(にちろう;法諱・筑後坊/正法院;号、平賀有国男?)1245-1320<sup>76</sup> 下総日蓮僧(幼少時);日蓮門、1271滝口法難;投獄、日蓮没後;鎌倉比企谷妙本寺と武蔵池上本門寺を開;両山一寺とす、両山を兼務、下総平賀に本土寺開創、1318後事を日輪に託し池上南窪に退隠、比企谷門流の祖/日朗門流(近世では池上門流)とも呼ぶ;中世日蓮教団主要な地位を占む、日蓮門六老僧の1、1284「身延離出書」93「如天甘露抄」1319「五時系図」、「本尊明鏡鈔」著、[日朗(;法諱)の幼名/通称]幼名;吉祥丸、通称;大国阿闍梨
- 日〇(にち〇〇) → 日〇(にち〇〇)をも参照
- 尼椿老人(にちんろうじん) → 蕉雨(しやうう・櫻井さくらい、商家/俳人) F 2 2 3 0
- 日〇(にち〇〇) → 日〇(にち〇〇)をも参照
- D3373 **日可**(にっか;法諱・宜翁;字、竹庵院、岡田吉勝男)1424-61<sup>38歳</sup> 讃岐丸亀の僧:1650出家;禅僧、興正寺に修学、改宗日蓮僧;山城深草瑞光寺元政門/師に同行;法華三昧修行;深草玉鮮院没、「竹菴詠草」「竹庵草録」「竹庵雑記」著、「竹菴遺稿」
- D3374 **日下**(にっか・山本やまもと、名;鸞/字;文翼/通称;仙蔵)1725-88<sup>64</sup> 土佐高知の儒者:富永惟安門、さらに西依成斎・松田思斎門、1772佐川邑主深尾茂澄家の儒臣/郷校を開設、「日下詩集」「遊浦内記」著、玉岡ぎょうこう/霞嶽がくの父
- D3375 **日華**(にっか・田中たなか、別号;月渚)?-1845 京の絵師:豊彦門、没後1856刊「九峰堂画譜」画

- 日華(につか) → 日華(につけ・寂日房、日蓮僧) D 3 3 8 5  
日華(につか) → 重春(しげはる・柳斎・梅丸斎・滝川・烽山/山口、絵師) C 2 1 8 6  
日訶(につか;法名) → 昌叱(しょうしつ・里村、南家の祖/連歌師) 2 2 2 6  
D3376 日海(につかい;法諱・蓮海;字、蓮海房/和泉房) 1336-89 天台学僧/日蓮僧;日院門、上総藻原寺4世、  
自他宗問わず勸進6万貫;身延で不受謗施問責/改悔;藻原帰国途中急逝、「己証類聚集」著  
D3377 日快(につかい;法諱・竜恵;字、求子) ?-? 江中期日蓮宗・顕本法華宗、1731「開目抄私記」著  
日海(につかい;法諱) → 本因坊算砂(ほんいんぼうさんさ、初世本因坊、日蓮僧/棋士) E 3 9 9 4  
日快(につかい;法諱) → 策伝(さくてん・安楽庵あんらくあん、浄土僧/茶人) 2 0 1 4  
日戒(につかい;通称) → 行妙(ぎょうみょう;法諱、法華僧/歌人) U 1 6 1 8  
日解(につかい→にちげ) → 日解(にちげ;法諱・春覚、日蓮僧) B 3 3 4 7  
日華子(につかし) → 宗桂(そうけい・吉田よしだ、医者/侍医) G 2 5 8 9  
日歌輪翁(につかりんおう) → 義信(よしのぶ・三ヶ島みかじま/宮野、神職) F 4 7 6 9  
日桓(につかん;法諱・桓雅) → 一瓢(いっぴょう・川原、日蓮僧/俳人) B 1 1 6 3  
荷造早文(にづくりそうもん、島屋次兵衛) → 荷造早文(にづくりのはやふみ、狂歌) G 7 3 8 6  
D3379 日記(につか・服部はつとり正覧/正礼まさひろ、通称半蔵、同族半蔵の養嗣) 1738?-1824 87 桑名藩月番職、  
徳川家康臣の服部半蔵正成まさなりの子孫、松平定信の家臣/定信の幕政時に江戸藩邸筆頭、  
詩歌/書画を嗜む、1793-1822(46-85歳) 日記随筆「世々之姿」著;日記老人と称される  
H3304 日禧(につか;法諱) ? - ? 江後期;日蓮僧、歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[わが園そのの花橘もかをるなり今かきぬらん山ほととぎす](大江戸倭歌;夏425)  
日凝(につか・最誠) → 日凝(にちぎょう・体運院、日蓮僧) B 3 3 4 4  
日輝(につか・堯山) → 日輝(にちき・優陀那うだな院、日蓮僧) B 3 3 1 8  
日暉(につか・桓光) → 日暉(にちき・白蓮華院、日蓮僧) B 3 3 1 9  
日久(につかきゅう、信解院) → 日久(にちきゅう、日蓮僧) B 3 3 2 3  
日求(につかきゅう) → 日求(にちぐ;法諱、日蓮僧) B 3 3 4 6  
日休(につかきゅう・田中) → 桐江(とうこう・田中/田、儒者/詩人) D 3 1 7 2  
日休(につかきゅう・貝原) → 楽軒(らくけん・貝原かいばら、藩儒) B 4 8 1 0  
D3380 日教(につかきょう;法諱、波木井はさい[南部]長義、実長[日円]男) ?-1313? 甲斐日蓮僧;父が日蓮を外護、  
父の鎌倉出仕の間の日蓮の外護・日蓮身延山下山の折は池上まで守護、  
甲斐波木井円実寺2世、1312「置文」著、  
波木井実長[日円] → 実長(さねなが・波木井[南部]、領主/日蓮僧)  
D3381 日教(につかきょう;法諱/初諱;日叶、本是院、顕応房/左京阿闍梨) 1428-?1489存 出雲日蓮僧:  
朝山妙蓮寺日耀門/上京;住本寺に修学/富士大石寺日有門/大石寺を出て日向に赴く、  
日郷系の日向門徒と不和となり大石寺に帰る/ここでも門徒と不和;駿河北山本門寺住、  
「四信五品抄見聞」「百五十箇条」//1484「穆作抄ぼくさくしょう」87「五段荒量」「類聚翰集私」著  
D3382 日境(につかきょう;法諱・叡長/叡朝;字、号;通心院、浦井宗府4男) 1602-59 58歳 日蓮僧:  
1616(15歳)伊豆玉沢妙法華寺日達門;出家/下総飯高檀林に修学、日達没後;心性院日遠門、  
1640下総中村檀林8世化主/48(慶安元)身延久遠寺27世、56天海版一切経を輪堂に奉納、  
晩年;不受不施派と対峙;諸師を糾合し起請を立てる;決着見ぬまま江戸谷中瑞輪寺に没、  
「法則鐘銘集」「三十三通記」「法則諷誦集」著、  
水戸藩儒浦井宗竹・智見院日暹・立正院日揚の弟  
D3383 日竟(につかきょう;法諱・実等;字、誠嶺院) 1677-1734 58 伊予松山の日蓮僧;下総飯高檀林に修学、  
甲斐信立寺に止住/のち飯高檀林講師;天台三大部を講ず、京妙伝寺・能登滝谷妙成寺歴住、  
1732身延久遠寺35世;在山3年;急逝、「俱令双用得意」「文句抄」著  
日経(につかきょう、顕眞院) → 日経(にちきょう、日蓮僧) B 3 3 2 4  
日鏡(につかきょう、善学院) → 日鏡(にちきょう、日蓮僧) B 3 3 2 5  
日経(につかきょう、常楽院) → 日経(にちきょう、日蓮僧) B 3 3 2 6  
日教(につかきょう、竜華院) → 日教(にちきょう、日蓮僧) B 3 3 2 7  
日教(につかきょう、本久院) → 日教(にちきょう、日蓮僧) B 3 3 2 8  
日鏡(につかきょう、要伝院) → 日鏡(にちきょう、日蓮僧) B 3 3 2 9

- 日境(にっきょう、明静院) → 日境(にちきょう、日蓮僧) B 3 3 3 0  
日教(にっきょう、輪成院) → 日教(にちきょう、日蓮僧) B 3 3 3 1  
日叶(にっきょう;初諱) → 日教(にっきょう;法諱・本是院、日蓮僧) D 3 3 8 1  
日記老人(にっきろうじん) → 日記(にっき・服部、日記随筆) D 3 3 7 9
- D3384 日空(にっくう;法諱・貞順/陽山;字、観樹院) 1625-9369 京日蓮僧:妙顕寺日蓮門、関東に遊学、  
下総中村檀林の講主/山城鶏冠井・松ヶ崎・求法院檀林化主、京妙覚寺29世、  
中村檀林18世/妙顕寺19世、のち紫竹了権寺に退隠、  
1651「約教相待妙中摂爾前之円否」、「待絶俱開論」「集解私記」「中間逢値」著
- G7386 荷造早文(にづくりのはやふみ、姓名;島屋次平衛)?-? 江戸瀬戸物町飛脚屋の番頭/狂歌作者;  
1787「才蔵集」入;411、  
[燈籠をみそめて通ふかみ細工はりの強きにのりやきぬらん](才蔵集;卷十411、  
新吉原の燈籠見物で度々通う人に詠む/燈籠;7月吉原年中行事の1;遊女玉菊の追善から、  
封じ目に遊女の書く通神と紙細工・糊と勢いづく乗りを掛る、  
張の強いのが江戸遊女の美質、はり・のり・は燈籠の縁語)
- D3385 日華(にっけ;法諱・寂日房、鯉沢領主の秋山信綱男) 1252-133483 甲斐鯉沢25家邑の修験者、  
七覚山で修行/1276日蓮僧の改宗:日興門/師に随い身延山に登る;日蓮に給仕、  
師没後日興に従い富士大石寺に移住、讃岐久遠院本門寺を開創;法華宗の四国布教に尽力、  
1324南条時光室の妙蓮尼の帰依を受け駿河富士郡に妙雲寺開創;止住;同寺に没、  
日興高弟六人の第一、1300「与日伝日妙書」著、  
[日華の通称] 長意法印/二十家阿闍梨
- D3386 日逕(にっけい;法諱、円光院/具撰院) 1547-160963 京日蓮宗本能寺15世/本能寺塔頭円光院住、  
秀吉の命で本能寺を移設(現在地)、撰津尼崎本興寺15世、権大僧都/1598法印、  
1576「本尊抄記」、「本尊抄考案」著、連歌;「日逕宗柳等山何百韻」
- 日溪(にっけい;号) → 法霖(ほうりん;法諱、真宗本願寺派僧) C 3 9 7 3  
日啓(にっけい) → 日啓(にちけい、日蓮僧) B 3 3 4 8  
日啓(にっけい) → 日啓(にちけい・慈雲、日蓮僧) B 3 3 4 9  
日慶(にっけい) → 日慶(にちけい・宣覚、日蓮僧) B 3 3 5 0  
日顕(にっけん) → 日顕(にちけん、増長院、日蓮僧) B 3 3 5 2  
日憲(にっけん) → 日憲(にちけん、慧光院、日蓮僧) B 3 3 5 3  
日賢(にっけん) → 日賢(にちけん、妙雲院、日蓮僧) B 3 3 5 4  
日乾(にっけん) → 日乾(にちけん・寂照院、日蓮僧) B 3 3 5 5  
日賢(にっけん) → 日賢(にちけん、寂静院、日蓮僧) B 3 3 5 6  
日憲(にっけん) → 日憲(にちけん、忍定院、日蓮僧) B 3 3 5 7  
日堅(にっけん) → 日堅(にちけん、樹眞院、日蓮僧) B 3 3 5 8  
日顕(にっけん) → 日顕(にちけん・智観院、日蓮僧) B 3 3 5 9  
日賢(にっけん) → 日賢(にちけん、玄収院、日蓮僧) B 3 3 6 0  
日兼(にっけん) → 日兼(にちけん、性衍院、日蓮僧) B 3 3 6 1  
日謙(にっけん) → 日謙(にちけん・慈讓院、日蓮僧) B 3 3 6 2  
日謙(にっけん) → 日謙(にちけん、雲廬道人、日蓮僧) B 3 3 6 3  
日建(にっけん) → 日建(にちこん;法諱、日蓮僧) B 3 3 9 3  
日建(にっけん・等雨) → 日建(にちこん・等雨、自在院、日蓮僧) B 3 3 9 9  
日健(にっけん) → 為春(ためはる・三浦/正木、藩士/俳人) 2 6 7 1
- D3387 日興(にっこう;法諱・号;伯耆房/常在院、大井荘司橘六男) 1246-133388歳 甲斐鯉沢の生;  
幼時;駿河蒲原の天台宗寺院に入、1257(正嘉元/12歳)駿河岩本実相寺で日蓮門;直参、  
日蓮の身延入山後は布教に専念、日蓮門六老僧の1、  
師没後に身延の護持に関し波木井実長[日円]らと対立;身延を去り富士大石ヶ原住、  
南条時光の外護を得て大石寺を開山、1298北山重須に本門寺を開創、  
富士門流(日興門流)の祖、多くの門弟を有し門流の布教に生涯尽力、  
「安国論問答」「断悪生善論」「宗祖御遷化記録」「法門要文」「法華略疏」外多数、  
[日興の通称] 甲斐公/白蓮阿闍梨

D3388 **日耕**(にっこう;法諱・陰山/稽嶽;字、号;智静ちじょう院/長寿院/恭寿院)1712-7362 尾張の日蓮僧、尾張長栄寺で得度/勸学院に修学/長栄寺8世、日隆門流教学の興隆に尽力、日隆門流本迹勝劣説を祖述;日什門流の本圀寺日達の著作を評破す、1755「本迹童蒙易解抄」66「本迹精確論」72「本迹境智論」、「本迹研究抄」「法華賞善録」著

日高(にっこう) → 日高(にちこう、帥阿闍梨、日蓮僧) B 3 3 7 5  
 日宏(にっこう) → 日宏(にちこう・玉泉坊、日蓮僧) B 3 3 7 6  
 日珖(にっこう) → 日珖(にちこう・竜雲院、日蓮僧) B 3 3 7 7  
 日航(にっこう) → 日航(にちこう・慈光院、日蓮僧) B 3 3 7 8  
 日高(にっこう) → 日高(にちこう・善学院、日蓮僧) B 3 3 7 9  
 日講(にっこう) → 日講(にちこう・安国院、日蓮僧) B 3 3 8 0  
 日孝(にっこう) → 日孝(にちこう・大中院、日蓮僧) B 3 3 8 1  
 日亨(にっこう) → 日亨(にちこう・遠理院、日蓮僧) B 3 3 8 2  
 日好(にっこう) → 日好(にちこう・禅智院、日蓮僧) B 3 3 8 3  
 日孝(にっこう) → 日孝(にちこう・智静院、日蓮僧) B 3 3 8 4  
 日好(にっこう) → 日好(にちこう・心信院、日蓮僧) B 3 3 8 5  
 日巧(にっこう) → 日巧(にちこう・悦可院、日蓮僧) B 3 3 8 6  
 日好(にっこう) → 日好(にちこう・堅樹院、日蓮僧) B 3 3 8 7  
 日皞(にっこう) → 日皞(にちこう・寛撰院、日蓮僧) B 3 3 8 8  
 日綱(にっこう) → 日綱(にちこう・詮量院、日蓮僧) B 3 3 8 9  
 日幸(にっこう) → 日幸(にちこう・本妙院、日蓮僧) B 3 3 9 0  
 日光院(にっこういん) → 尊栄(そんえい;法諱、天台宗園城寺僧) 2 5 8 7  
 日光新宮(にっこうしんぐう) → 天真親王(てんしんしんのう、輪王寺門跡) D 3 0 9 1  
 日谷(にっこう・大塚) → 長時(ながとき・大塚おつか、藩士/儒/歌) L 3 2 4 4  
 日瑳(にっさ;初法諱) → 日遠(にちおん;法諱・堯順、日蓮僧) 3 3 7 4

D3389 **日薩**(にっさつ;法諱・文嘉;字、織物問屋新居宗左衛門6男)1830-8859 上野桐生の商家の生、日蓮僧;加賀金沢立像寺の日輝門、武蔵池上南谷檀林の講師/1874身延久遠寺住職、本迹一致派による日蓮宗初代管長、「法華宗日鑑」著、  
 [日薩の号/通称] 号;文明院/容月、通称;新居薩師

D3390 **日山**(にっさん、大鷲阿闍梨/妙泉阿闍梨)1338-8144 下総平賀日僧蓮;池上本門寺日輪門/出家、師日輪に常に随従、1359師没後;遺命で池上本門寺4世継嗣;在山中は師の規矩により経営、上総伊北庄の狩野家・武蔵松山の上田家・武蔵荏原の蒲田家の帰依を受け寺勢を拡大、鎌倉妙本寺を兼務;妙本寺に没、「三義抄」著

D3391 **日山**(にっさん;道号・海東かいとう;法諱)?-? 1776存 曹洞僧;華嚴曹海門;嗣法、山城綴喜郡八幡の神応寺30世/若狭遠敷郡青井村の妙徳寺17世/伯耆松崎の竜徳寺17世、越中射水郡氷見村光禅寺28世を歴任、1776刊「妙玄白竜和尚語録」版行に金百匹を助成、「轆轤稿」著

日三舎(にっさんしゃ) → 助然(じょねん・荒巻、俳人) C 2 2 8 8

D3392 **日視**(にっし;法諱・純遍/能遍;字、深広院)?-1693 日蓮僧;水戸三昧堂檀林5世/下総中村檀林26世、江戸谷中延命院7世、「雪散増光記」「提婆勸持記」「観心決義」「本尊相伝抄講談」著

D3393 **日思**(にっし;道号・韜光/透光とうこう;法諱)?-1797 曹洞僧;日庵自覚門/法嗣、遠江正太寺6世、「広沢聯芳或問」著

日志(にっし・智伝) → 日志(にちし・智伝、日蓮僧) C 3 3 0 1

日旨(にっし;初諱) → 日臨(にちりん;法諱・本妙、日蓮僧) D 3 3 6 9

日孜(にっし・品川) → 弥二郎(やじろう・品川しながわ、藩士/尊攘) F 4 5 1 0

日斫山樵(にっしやくさんしょう) → 鞏革斎(きょうかくさい・三宅みやけ、儒者) G 1 6 6 3

D3394 **日珠**(にっしゅ;法諱・了本;字、本妙院;号、井上隆安男)1763-181755歳 備前赤坂郡斗有村日蓮僧;眞善庵日範門;出家/本妙寺5世日恩門、備前金川日蓮妙覚寺33世となる、1793(寛政5)江戸で寺社奉行に上訴;三宅島に流罪/配所から内証便で信徒と交信;不受不施派の再興に努力、1815(文化12)「適時信規論」著

D3395 **日守**(にっしゅ;法諱・驥尾きび;字、円興院)1846-190661 京の日蓮宗要法寺42世、

「顕本遠寿抄」「観心本尊実義正伝」著

- D3396 **日秀**(にっしゅう;法諱・下野房) ?-1329 駿河熱原の天台宗滝泉寺住僧、  
改宗;日興を介し日蓮門、1279(弘安2)熱原法難で下総に亡命、のち日蓮葬送に随従、  
身延離山後の日興に随従/日興高弟六人の1、「竜泉寺申状」著
- D3397 **日祝**(にっしゅう;法諱・妙国院;号/月蔵房、俗姓千葉) 1427-1513 下総千葉日蓮僧:日薩/日国門、  
1488権僧正/95京頂妙寺開/土佐妙国寺開、69「末法要行記」、「当門重宝記」
- D3398 **日秀**(にっしゅう;法諱・玄紹;字) 1495-1577 83歳 真言僧;1507(13歳)出家/1534頃南都で修学、  
華嚴・三論・俱舍・唯識・因明を修学、1556真言宗根来智積院住/57醍醐寺源雅門;  
報恩流の秘籍を修学、根来寺大伝法院で指導・伝授、  
「十八道打集抄」「不動護摩打集」「因明私」「般若理趣経私」「理趣経別記」著
- D3399 **日修**(にっしゅう;法諱・承慧;字、号;証誠院/通称;後不軽院) 1532-94 63 日蓮僧:日諦門:  
1532(元文元)本能寺日眞の高弟日諦に拾われたという/1538(7歳)で叡山に天台修学、  
1549(18歳)建仁寺経蔵で一切経を閲覧/神儒両道修学;清原宣賢門、  
1570京本隆寺7世/近江本妙寺2世、日眞門流中興、1566「元祖蓮公薩埵略伝」著、  
1588「遺金抄」、「宗要活套集」「天台三大部科註」「二問愚答抄」外著多数
- E3300 **日嗣**(にっしゅう;法諱・実蔵院) 1546-1608 63歳 京日蓮宗要法寺14世/1586権大僧都/1600法印、  
「当宗略要集」「仏蔵心宝」「五篇七聚戒法名目」「御書見聞」著
- H3326 **日秀**(にっしゅう;法諱・字;純志) 1566-1621 56 甲斐巨摩郡の日蓮僧、大僧都(日秀上人)、  
天正年間(1573-91)豊臣秀吉より貞観寺跡地を寄進され山城伏見墨染寺を再興開山;  
墨染桜寺ぼくせんおうじと改称;秀吉姉瑞龍尼(日秀尼)が帰依
- E3301 **日祝**(にっしゅう;法諱・慧眼院) 1567?-1615 49歳 日蓮僧:幼時に身延久遠寺日遠門、  
日遠・一如院日重・寂照院日乾門;宗義を受け修行/身延西谷檀林化主/1614久遠寺23世、  
「西谷檀林法規」著
- E3302 **日習**(にっしゅう;法諱・恵雄えお;字、安国院、田中与三衛門男) 1582-1653 72 岡山日蓮僧;幼時剃髪、  
1596(15歳)丹波妙覚寺日奥門、1630師没後妙覚寺を退く;終生寺を持たず不受不施実践、  
「権実決疑章」「祖書啓蒙」著
- E3303 **日周**(にっしゅう;法諱) 1595-1644 50歳 駿河岡宮の日蓮宗光長寺16世、  
1642「他宗折伏之大旨」著
- E3304 **日周**(にっしゅう;法諱・幽明;字、常寂院、俗姓石井) 1647-1716 70 近江佐和山の日蓮僧:  
京本圀寺19世日廷門;出家/下総中村檀林に修学、のち中村檀林化主/山城求法院檀林19世、  
伊豆葦山に止住/徳川光圀に招聘;1699水戸三昧堂檀林8世化主/常寂光寺を開創、  
1714(正徳4)帰京;本圀寺24世、歌を嗜む;1713「会山和歌集」著(;1817檜山雅昭編刊)
- E3305 **日習**(にっしゅう;法諱・会遠えおん;字、修禅院) ?-1748 日蓮僧;下総飯高檀林73世、  
越後村田の妙法寺31世、「弥陀分身大集経抜萃」著
- E3306 **日収**(にっしゅう;法諱・真定;字、立正院) 1692-1755 64 京日蓮宗照宮寺住職、「日蓮聖註画讃鈔」注
- E3307 **日秀**(にっしゅう;法諱・菊苗;字、摂事院) ?-? 摂津尼崎の日蓮宗勸学院14世、  
1769回向成不論争;守真院日専・大乘院日随に反駁、  
1766「三益示要抄」67「童戯聚砂抄」70「本門円宗回向通不問答抄」、「応声扶忘記」著
- H3303 **日脩**(にっしゅう;法諱/号;宣妙院) ?-1818 日蓮僧;武蔵池上本行寺30代住職、  
歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858成立)入、  
[すべらぎのみつぎの氷室守る人や夏の暑さを知らで過ぐらん](大江戸倭歌;夏607)
- E3308 **日嗣**(にっしゅう;法諱・志玄;字) 1771-1845 75 肥後熊本の日蓮僧;山城小栗栖檀林67世、  
京の要法寺34世/大坂天満の蓮興寺19世、歌人;加藤景範門、  
「門家得意弁」「要法門下得意抄」著、  
[日嗣(;法諱)の号/通称]号;立正院、通称;肥後阿闍梨
- E3309 **日修**(日脩にっしゅう;法諱・三村源助男) 1823-91 69歳 備後深津郡川口村の日蓮僧;日合門、  
加賀金沢の立像寺充洽じゅうごう園で日輝門、大坂中教院講主/京本圀寺ほんこくじ住職、  
1885(明治18)日蓮宗管長/86身延山久遠寺法主75世;身延山中心体制の確立に尽力、  
「妙経略解」著、  
[日修の/通称/字/号]通称万吉、字;円政/宴政、号;心妙院、

- 日就(にっしゅう) → 日就(にちじゅう;法諱・栄遠院、日蓮僧) C 3 3 1 2  
日州(にっしゅう・杉山) → 篤信(あつのぶ・杉山すざやま、廷臣/医者) E 1 0 7 3  
日州(にっしゅう・井出) → 道貞(みちさだ・井出いで、神職/史家) L 4 1 1 6  
日周(にっしゅう;初法諱) → 月明(がつみょう;法諱・具覚;字、日蓮僧) N 1 5 9 0  
日繡(にっしゅう・林) → 道溪(どうけい・林はやし、茶人) D 3 1 2 2  
日習堂(にっしゅうどう;塾名) → 信道(のぶみち・坪井つばい、蘭医) D 3 5 4 0  
日州漂泊野人(にっしゅうひょうはくやじん) → 為信(ためのぶ・江島、仮名草子/俳人) S 2 6 6 3  
日祝(にっしゅう) → 日祝(にっしゅう;法諱・妙国院、日蓮僧) D 3 3 9 7  
日祝(にっしゅう) → 日祝(にっしゅう;法諱・慧眼院、日蓮僧) E 3 3 0 1
- E3310 日出(にっしゅう;法諱・是生;字) 1381-1459 79歳 武蔵の天台僧;天台宗の下野稲葉談所に修学;武蔵仙波檀林能化、1411頃改宗し日蓮僧;久遠寺9世日学門、一説;日延らと法論し改宗、1924伊豆三島に本覚寺開創/1436管領足利持氏に諫暁し捕縛;のち持氏の帰敬を得る;田園数畝の寄進を受ける、日蓮旧跡鎌倉夷堂に本覚寺を開創;折伏弘教に貢献、1436(永享8)「永享問答記」著、  
[日出(;法諱)の号/通称]号;一乗院/一乗房、通称;二位阿闍梨
- E3311 日春(にっしゅん;法諱/初諱空存、俗姓鮎沢) 1230-1311 82 甲斐山梨郡の天台僧;円仁法流、甲斐休息立正寺日乗と素脈を通じ改宗し日蓮僧;日蓮に直参・和泉阿闍梨日法門、1276駿河岡宮に光長寺開創;住職/日乗没後は甲斐立正寺3世を兼任、「無益外道行集」著、「宝物集」などの書写
- E3312 日春(にっしゅん;法諱、号;妙円房)?-1611 駿河日蓮僧;西山本門寺日心門、西山本門寺と北山本門寺との長年の不和の仲介;一時和解/駿河西山本門寺13世となる、しかし今度は京要法寺日辰との間に論難の往復;これを契機に北山本門寺と不和再燃、「辰春問答」著
- E3313 日春(にっしゅん;法諱・是然/秀感;字、中道院;号、俗姓清水) 1622-1702 81 加賀金沢の日蓮僧;1629(8歳);金沢蓮覚寺日諳門;出家/1637(16歳)下総中村檀林に修学、上総小西檀林玄能/山城鶏冠井檀林講主/松ヶ崎檀林講主を歴任/1665京妙頭寺16世、四海唱導師の任を受け中村檀林化主を兼任、後事を観樹院日空に譲渡;退隱、1681(延宝9)「延宝一致勝劣対論記」/99(元禄12)「法華信心道知音」著
- E3314 日俊(にっしゅん;法諱・松園[松円];字、号;本法院) 1636-91 56 上総日蓮宗細草檀林8世、富士大石寺22世、1681「法華本門取要抄記」著  
日峻(にっしゅん;法諱) → 古岳(こがく;道号・日峻、曹洞僧) L 1 9 8 9  
日春(にっしゅん・富永) → 竹村(ちくそん・富永裕、医/儒学/歌) D 2 8 4 1
- E3315 日初(にっしよ;道号・寂顕じやくけん;法諱) 1701-70 70 河内の黄檗僧;蘆江海旨門/出家:嗣法、諸国遊歴/摂津池田の蓮秀庵に住、著作活動に専念;特に国史に精通、富永仲基の国史撰述に協力;仲基没後遺業を継嗣;1766(明和3)完成「日本春秋」編刊、「日本春秋後記大綱」「日本春秋綱領」「日本春秋総目」「日本春秋略年譜」「鎌倉春秋」、「古事記註解」「難註先代旧事本紀」「日本紀注疏」「日本書紀臆断」著
- E3316 日昭(にっしやう;法諱・弁/成弁じやうべん;字、印東[畠山]祐昭男) 1221?-1323; 103歳? 下総葛飾の人、母;伊東祐時女(or工藤祐経女で祐時の姉)、姉;平賀(印東)有国の妻(日朗の母?)、天台宗叡山僧/1253(建長5)改宗;日蓮門、日蓮の没直前に本弟子六人の上座に定まる、師の葬儀を督す/布教弘通ぐうしつつ1284鎌倉浜土法華寺・1306相模名瀬妙法寺を開創、浜門流(日昭門流)の祖、中世日蓮教団の一角を構築/1317法華寺を日祐に譲渡、日蓮門六老僧の1、1300「法華本門円頓戒相承血脉譜」、「聖人授決集」「録外目録」、「己身大事抄」「大聖日蓮深秘伝」「嫌謗法互不用抄」「如来全身抄」外著多数、  
[日昭(;法諱)の号/通称]号;不軽院、通称;大和阿闍梨/大成弁阿闍梨/弁殿/浜殿
- E3317 日紹(日韶にっしやう;法諱・星陽;字、号;竜華院) 1542-1622 81 花山院家の猶子、備前金川の日蓮僧、下総飯高檀林に修学、備前岡山蓮昌寺19世/京妙頭寺13世、1596伏見城で浄土僧と宗論、1599(慶長4)徳川家康の命で受不施派としての不受不施派の仏性院日奥と大阪城で対論、「讓状」著
- E3318 日生(にっしやう;法諱・恵教/春陽;字、号;教蔵院、俗姓;鳥井) 1553-95 43 播磨の日蓮僧:

1563京の立本寺10世日経門/のち比叡山で天台三大部を修学・研究、  
要行院日統の招請で下総飯塚光福寺で開講/飯高妙福寺に移り講義;飯高檀林の基礎、  
のち山城松ヶ崎檀林の開祖、京立本寺12世を継嗣、  
「諸部私訣」「与俵屋常元書」著

- E3319 **日性**(にっしょう;法諱・世雄;字、号;円智院/本地院、俗姓;村田)1554-1614**61歳** 京の日蓮僧;  
1564(11歳)要法寺で出家、下野足利学校で儒学を修学/1583建仁寺経蔵で蔵経研究;3年間、  
京要法寺15世;仙洞御所で外典を講ず;後陽成天皇より円智の号を賜る、権大僧都/法印、  
晩年;要法寺の側に本智院を創設;活字による典籍出版事業を開始(要法寺版)、  
1600-14(慶長5-19)の主要出版;1600「法華経伝記」/05「太平記」、「論語集解」「沙石集」等、  
日重・日遠と交流、「問名抄」著、「太平記鈔」著?/1595「謡抄」注釈者の一人
- E3320 **日昌**(にっしょう;法諱・二位;字)1562-1622**61歳** 京の日蓮宗要法寺学頭/富士大石寺15世、  
「玄義私記」「文心解要文」「集解要文」著
- E3321 **日詔**(にっしょう;法諱・無問;字、号自証院、俗姓;太田)1569-1617**49歳** 備中山田の日蓮僧:  
下総檀林に修学/池上本門寺・鎌倉妙本寺両山13世の日尊門、1602上総小西檀林2世化主、  
1603(慶長8)日尊の跡を継嗣;池上本門鎌倉妙本寺両山14世;在山15年/不受不施義を継承、  
1606(慶長11)加藤清正の外護で池上本門寺に祖師堂建立/08將軍秀忠より五重塔寄進、  
鎌倉比企谷に常栄寺開創;寺内に宝篋堂(のち南谷)檀林開創、両山経営と門弟教育に尽力、  
1616「三千惣別記」、「観心記」「玄籤考拾記」「草木成仏記」「文心解要文」「集註要文」外著多
- E3322 **日昌**(にっしょう;法諱) ? - ? 江前期下総平賀の日蓮宗本土寺住僧、  
1653(承応2)「独案集」著
- E3323 **日匠**(にっしょう;法諱・温故;字、本地院)1627-89**63** 撰津伊丹の日蓮僧;尼ヶ崎長遠寺日迅門;出家、  
京六条檀林に修学/同檀林化主日祐門、飯高三学匠の1、山城鷹ヶ峰檀林11世化主、  
京本法寺20世/1681下総中山法華経寺44世、山城深草の元政と交遊、晩年;撰津安穩寺退隱、  
文筆に長ず、歌;1670下河辺長流[林葉累塵集]入、「病導師」「日親上人徳行記」著、  
[おしなべて雪にうはぶきかはらねば宮もわらやもわかぬけさかな](林葉累塵;冬715)
- E3324 **日省**(にっしょう;法諱・朗弁/老弁;字、智寂院、俗姓;久津美)1636-1721**86** 江戸の日蓮僧:  
下総飯高檀林で法華玄義を講ず/水戸三昧堂檀林で法華文句を講ず、  
のち寂遠院日通門、1698(元禄11)身延久遠寺32世、久遠寺所蔵の旧記で日蓮伝記を著作;  
「本化別頭末法高祖日蓮大菩薩伝」著(;門弟六牙院日潮「本化別頭仏祖統記」に影響を大)、  
「文句私記」著
- E3325 **日証**(にっしょう;法諱・栄境;字、号;誠諦(じょうてい)院)1670-1750**81** 肥後熊本日蓮宗本妙寺14世、  
「誠諦記録」著
- E3326 **日詳**(にっしょう;法諱・孝明;字、号;守眞院)1681-1734**54歳** 出雲松江日蓮僧;上総細草檀林32世、  
富士大石寺28世、「捐益決疑抄」著、  
[日詳(;法諱)の通称]長遠阿闍梨
- E3327 **日生**(にっしょう;法諱/のち日深、竜江;字、号;竜江院)?-? 下総日蓮宗中村檀林化主、  
1720「三師観得意記」23「菓草喩品私記」/24「受不施不受不施私記」/30「文句六之記」、  
「自鑑類要」「昔円開否記」「雙但二軌余分」著
- E3328 **日称**(にっしょう;法諱・是境;字、号;観道院)?-? 下総日蓮宗中村檀林化主、1767「神仏合解録」著
- E3329 **日将**(にっしょう;法諱・文句;字)?-? 江中期京日蓮宗妙頭寺内の弘経寺泉妙院の住職、  
1772「日像菩薩徳行記」著(;開山日像の事蹟)
- E3330 **日尚**(にっしょう;法諱、号;凌雲院)1720-78**59歳** 京の日蓮宗本圀寺日達門/のち加賀金沢高岸寺住、  
真宗僧の義教や浄土僧の大淑・大我らの日蓮宗批議により権実論争の応酬となる:  
日尚は同門の日顕・日賢とその衝に当り「如来師子円絃」を著し権実批判論を展開し反駁、  
1766「犀浦沙彌訓」/72「韋弦批評」著
- E3331 **日祥**(にっしょう;法諱・円瑞;字、号;慈門院)?-1790 武蔵新曾の日蓮宗妙頭寺35世、  
「法華初心得意章」「当体義鈔講談」著
- E3332 **日生**(にっしょう;法諱・修清;字、号;塵外院)1741-86**46歳** 下総埴生の日蓮宗妙福寺住職、  
下総中村檀林化主、和泉に没、1783「金剛王」著
- H3327 **日声**(にっしょう;法諱・禎音;字、明玄院、俗姓;不破)1746-1816**71** 近江彦根の日蓮宗蓮華寺住職、

歌人;[彦根歌人伝・亀]入

- E3333 **日掌**(にっしょう;法諱・会秀えしゅう;字、号;幸安院、俗姓;石井)1798-1882**85歳** 上総七浜の日蓮僧、上総宮谷檀林200世、京妙満寺221/231世、「撰折傍正論」著
- E3334 **日正**(にっしょう;法諱) ? - ? 江戸末期武蔵児玉郡日蓮宗大準院住職、1856(安政3)刊「玉蓮寺開運高祖大士略縁起」
- E3335 **日生**(にっしょう;法諱・施命;字、本清院/三妙院)1817-67**51** 出雲今市の日蓮僧、山城小栗栖檀林83世、1853京要法寺38世/57老中久世広周に国諫状を提出;以後1863伊豆実成寺から関東武蔵岩槻へ移住/64岩代伊達郡の一円寺住;同寺没、1850「大石破門」、「諫国日記」、「諫鼓袖中伝」、「下種本因家唯一論」、「送久成会下書」著
- H3334 **日正**(にっしょう;法諱・由良ゆら、通称;眞八郎)1819-85**67** 伊予松山の日蓮宗僧、美作英田郡江見村の随縁寺18世
- 日承(にっしょう) → 日承(にちじょう;法諱・妙雲院、日蓮僧) 3 3 3 9
- 日承(にっしょう) → 日承(にちじょう;法諱・正受院、日蓮僧) C 3 3 4 4
- 日昇(にっしょう・堀江) → 眞清(まさか・堀江ほりえ、国学者) S 4 0 4 6
- 日照(にっしょう;初法諱) → 日東(にっとう;法諱・唯妙院、日蓮僧) F 3 3 4 7
- 日照(にっしょう;号) → 貞常親王(さだつねしんのう、伏見宮4世、歌) F 2 0 3 5
- 日祥(にっしょう) → 是真(ぜじん;法諱・遵教、日蓮僧/歌) K 2 4 6 1
- 日涉園(にっしょうえん) → 松和(しょうわ・町田まちだ、製紙業/俳人) M 2 2 1 3
- 日涉園(にっしょうえん) → 樗堂(ちようどう・平井、藩士/詩人) K 2 8 4 4
- 日涉園(にっしょうえん) → 松眠(しょうみん・後藤ごとう、藩医/本草) L 2 2 7 0
- 日涉園(にっしょうえん) → 武之(たけゆき・高橋たかはし/紀、医者/歌) Y 2 6 0 4
- 日涉園(にっしょうえん) → 豊民(とよたみ・国方くにかた、藩士/国学) V 3 1 0 4
- 日章斎(にっしょうさい) → 胤満(たねまる・根本/神服/平、国学者) G 2 6 4 8
- 日章堂(にっしょうどう) → 尚方(なおかた・利根川とねがわ、医者/詩) N 3 2 9 5
- E3336 **日進**(日心/日眞にっしん;法諱、曾谷教信日礼2男)1275-1346?**72** 下総葛飾日蓮僧;日向にこう門、1313身延久遠寺2世日向の嘱を受け同寺3世となる;在山17年/久遠寺諸堂を建造、1320頃上京し聖教を書写、のち下総中山法華経寺日祐と親交、上総下総に弘通ぐう、「三国仏法見聞」、「金綱集戒見聞」、「三国仏法盛衰之事」、「日蓮聖人御弘通次第」著、[日進(;法諱)の号/通称]号;大進院、通称;大進公/三位公/大進阿闍梨
- E3337 **日信**(にっしん;法諱、通称;一乗坊)?-? 応永1394-1428頃存 越後日蓮宗本福寺を開山/日陣門、「陣師御談聞書」著
- E3338 **日親**(にっしん;法諱、埴谷重継男)1407-88**82** 千葉氏の一族/上総埴生の日蓮僧;妙宣寺日英門、日英没後;下総中山法華経寺5世日暹・6世日薩門、1427(応永34)上洛/筑前・鎌倉で布教、1433(永享5)鎮西総導師;肥前光勝寺住、1437中山門流と千葉一族を批判;破門、上京し將軍足利義に諫書上呈;捕縛され拷問/投獄、出獄後;京に本法寺建立;弘通に専念、中山門流と融和を図るが果たせず没、1439「立正治国論」/70「埴谷抄」「伝燈抄」、「伝燈記」「一生修行抄」「本尊抄私記」外著多数、[日親(;法諱)の幼名/号/通称]幼名;寅菊丸、号;久遠成院、通称;鑑冠なべかぶり日親
- E3339 **日眞**(にっしん;法諱、慧光;字、権大納言中山親通男)1444-1528**85** 母;山名時義女、但馬城崎九日市の日蓮僧;生家菩提寺妙境寺の日全門/出家、のち叡山延暦寺・園城寺入;天台教学を修学/京妙本寺日具門;宗義を研修、1489分立;京四条大宮に本隆寺を開創、若狭に本鏡寺・越前に本興寺開創;子弟教育、日眞門流(本隆寺派)の祖、1500「法華十妙不二門科文」「法華玄記十不二門科文」、「科註法華論」「開結二卷科註」著、[日眞(;法諱)の号/通称]号;常不輕院、通称;大経房
- E3340 **日信**(にっしん;法諱) ? - ? 1508存 日蓮僧/諸国行脚、仏典/文学研究;23巻の名著、「種心秘要抄」「楊鳴曉筆」著、「続扶桑拾葉集」「八洲文藻」に著者としての名入
- E3341 **日親**(にっしん;法諱、号;守玄院)?-1524 京日蓮僧;寂光院日蓮門/京妙満寺19世、妙満寺の末寺の上総東金の本漸寺を開山、「本迹対論私記」「本迹勝劣抄」「本迹諸難抄」著
- E3342 **日辰**(にっしん;法諱、号;広蔵院、茶道宗家村田量親[宗親]男)1508-76**69** 京日蓮僧;日法門、日在/日心門、一揆で焼失の上行院と住本寺を合併再興;要法寺と改称、

- 勸学寮開設;日尊門流の教学を拡大、1554法印、1546「法華論大綱」著、  
1554「法華訓蒙抄」「本迹問答抄」、「出世雜言集」「負薪記」外著多数
- E3343 **日新**(にっしん;法諱・純慧;字、号;慈雲院) 1535-92<sup>58</sup> 甲斐巨摩郡今諏訪村の日蓮僧:  
身延久遠寺13世日伝門/日伝没後;14世日鏡門/京妙華寺・上総藻原妙光寺に遊学、  
1578(天正6)身延久遠寺17世、81日蓮三百年遠忌に家康の身延参詣;  
以後参詣人の関銭免除等の外護を得る、甲斐休息の立正寺を久遠寺末寺とす、  
信濃に本立寺・広福寺・妙福寺を開創/出雲に慈雲寺開創等々寺勢の拡大に尽力、  
「草木成仏義」「御製抄」著
- E3344 **日信**(にっしん;法諱、受印;字、号;自然院) 1558-1626<sup>69歳</sup> 上総日蓮宗東漸寺6世、「日信記」著
- E3345 **日眞**(にっしん;法諱、恵性/慶伝きょうでん;字、号;東光院/発星院ほっしょういん) 1565-1626<sup>62</sup> 下総日蓮僧;  
下総長勝寺・平賀本土寺で修行か、1585加藤清正の招請で撰津本妙寺の開山、  
文禄慶長役に清正に従軍;戦勝祈祷・外交の衝に当る、  
清正転封に従い肥後熊本に本妙寺を移転;勅願寺の綸旨を得て六条門流九州総本山とす、  
肥前大村本経寺・島原護国寺など開創;九州布教の魁となる、権大僧都/法印、京に退隱;没、  
「御条目並朝鮮渡海列名」著
- E3346 **日審**(にっしん;法諱・文嘉;字、号;靈鷲院、江村久茂男) 1599-1666<sup>68</sup> 京の日蓮僧:  
1606(8歳)慧光寺日玄門/出家、山城松ヶ崎檀林・求法院檀林・下総飯高檀林に修学、  
1629若狭小浜の長源寺住職/41求法院檀林6世化主/47京の立本寺17世、58退隱、  
のち焼失した立本寺の再興に尽力;1661再建完成/生涯布教僧;布教活動/説法7000座、  
「円頓者講草」「円頓覚道法語」「法華学道法語」「法華坐舖談儀」「口演鈔」著
- E3347 **日辰**(にっしん;道号・文猊もんげい;法諱) ?-1671 曹洞僧;大昌文意門/法嗣、能登鳳至郡芳春院6世、  
近江神崎郡善勝寺を開山、1649(慶安2)「通幻和尚行実」著
- E3348 **日心**(にっしん;法諱) ? - ? 日蓮僧/仮名草子作者、  
1654刊「糺ただす物語」著(;儒仏神三教一致物語)
- E3349 **日進**(にっしん;法諱、良潮;字、号;周遍院/本妙院) ?-1689 日蓮僧;下総中山法華経寺本通院日允門、  
下総中村檀林19世/京妙覚寺28世、「文句義決」「定業亦能転私記」「無作三身之事」著
- E3350 **日進**(にっしん;法諱、号;知足院、通称;岩本隠士) ?-1698 駿河岩本日蓮宗実相寺15世、  
1687「一心常安録」著
- E3351 **日津**(にっしん;法諱・慈航;字) 1655-1727<sup>73歳</sup> 山城深草日蓮宗瑞光寺4世、  
「梵室和尚集」「太虚庵記弁」「破弾過時唱題弁」「分衛記」著
- E3352 **日審**(にっしん;法諱・玄諦げんたい;字、本是院) ?-1725 山城日蓮宗山科檀林27世、1710「雑記見聞」著
- E3353 **日心**(にっしん;法諱、慈善院) ?-1724 江戸日蓮僧;安房小湊誕生寺日孝門、  
江戸幸国寺7世、師没後その著を上梓、1724「水雲集」編/24「孝師行業記」著
- E3354 **日進**(にっしん;法諱、玄海;字、本亮院) 1680-1751 撰津尼崎日蓮宗本興寺44世、「雑集」著
- E3355 **日慎**(にっしん;法諱・温恭;字、号;惣[総]持院) 1682-1741<sup>60歳</sup> 京白川の日蓮僧:  
1690(9歳)武蔵蓮華寺開祖日題門/師の出寺を承けて武蔵蓮華寺2世となる、  
1725(享保10)伏見の獄:26隠岐に流刑/配地に没、1725「未決制鏡録」著、  
1726「沢田問答」「沢田問答送状」「内浄古式」「流罪始末道之記」/38「再鑑録」外著多数
- E3356 **日眞**(にっしん;法諱、完孝;字、号;守要院/通称;江戸阿闍梨) 1714-65<sup>52</sup> 上総日蓮宗細草檀林50世、  
富士大石寺34世、「太田禅門抄開講記」著
- E3357 **日心**(にっしん;法諱、泰山;字、号;報智院) 1720-90<sup>71</sup> 撰津尼崎日蓮宗本興寺58世、  
1755「宗祖御伝記演説抄」、「随問記」著
- E3358 **日進**(にっしん;法諱、修耀;字、号;修耀院) 1729-87<sup>59</sup> 山城日蓮宗東山檀林144世、  
山城松ヶ崎檀林134世/京日体寺3世、1774「先哲略記等」、「本通卯志等」著
- E3359 **日進**(にっしん;法諱、智勇;字、号;智勇院) 1761-1821<sup>61</sup> 肥後熊本日蓮僧;本妙寺日亮門、  
山城鷹ヶ峰檀林文講/下総中村檀林玄講/1813(文化10)熊本本妙寺22世継嗣;在山4年、  
京頂妙寺34世/のち日導門下と軋轢;日導教学に反駁;論争、  
「宗門得意抄」「立正編」「堅高」、1820「摧破綱要取要編」著
- 3395 **日進**(日諱にっしん;法諱・随恵;字、号;常精院) 1782-1853<sup>72</sup> 江戸日蓮僧;浅草経王寺修学/  
山城山科檀林・下総飯高檀林に修学/鎌倉妙本寺55世/下総真間弘法(ほう)寺56世、

1832「宗教要略編」著

- H3330 **日信**(にっしん;法諱、俗姓;新田/杉岡)1811-7464 陸奥遠野の僧・京都征光寺大僧正、  
[日信の通称/号]通称;武次郎/融記、号;伯翁/義公/南殿  
日心(にっしん;法諱) → 日叡(にちえい;法諱、日蓮僧) 3 3 6 6  
日深(にっしん) → 日深(にちじん;法諱・妙寂院、日蓮僧) C 3 3 5 1  
日深(にっしん) → 日深(にちじん;法諱・中正院、日蓮僧) C 3 3 5 3  
日深(にっしん) → 日深(にちじん;法諱・常在院、日蓮僧) C 3 3 5 4  
日深(にっしん→にちじん;法諱)→ 日導(にちどう;法諱・一妙院、日蓮僧) C 3 3 9 9  
日新館(にっしんかん) → 忠寛(ただひろ・大久保おおくぼ、一翁、幕臣) U 2 6 3 9  
日新斎(にっしんさい・島津)→ 忠良(ただよし・島津、戦国武将、いろは波歌) G 2 6 0 5  
日新斎(にっしんさい) → 光圀(みつくに・徳川/源、藩主/修史) 4 1 2 5  
日新斎(にっしんさい) → 文藻(あやも・小宅おやけ、商人/国学/画) F 1 0 1 6  
日新斎(にっしんさい) → 義和(よしまさ・佐竹、藩主/藩政改革) H 4 7 0 9  
日新亭(にっしんてい) → 殷政(しげまさ・市岡いちおか/源/北原、本陣/勤王) N 2 1 3 9  
日心亭(にっしんてい) → 貞寛(さだひろ・西村にしむら/藤原、藩士/歌) P 2 0 0 7  
日新亭金洞(にっしんていこんどう)→ 文哉(ぶんさい・福田/源、医者/画/歌人) F 3 8 2 8  
日新堂(にっしんどう) → 方明(まさあき・中井なかい、暦算家) B 4 0 0 3  
日新楼(にっしんろう) → 庸昌(つねまさ・小笠原おがさわら、儒医) D 2 9 7 5
- E3360 **日霽**(にっせい;法諱、関東管領足利氏満3男or堀河経家男)1349-140557 鎌倉の日蓮僧;  
1360妙顕寺2世大覚門;出家/師没後は3世朗源門、1378京妙顕寺4世を継嗣、  
しかし日誉・妙智・定巖らが日霽の公武外護の寺門経営に反発し別立、  
さらに1387叡山大衆による妙顕寺の破却:日霽は若狭小浜に逃亡;1393帰京、  
妙顕寺を再興;妙本寺に改名、「祈祷経奥書」「顕底鈔」著、  
1400「妙興寺住侶並檀那等可存知之事」「祈祷経奥書」著、  
[日霽(;法諱)の幼名/号]幼名;若君丸、号;竜華院
- E3361 **日栖**(にっせい;法諱、号;中道院、広橋国光男?)1502-8382 花山院家猶子/京日蓮宗本圀寺15世、  
在山4年;堀秀政から朝鮮の木材で建立した堂の寄進を受;公武と交流、大僧正、  
1575(天正3)京の十五本山和合(天正の盟約)に列席/1578後事を門弟日禎に譲渡;退隠、  
「本迹問答抄」「指要抄秘決」著
- E3362 **日整**(にっせい;法諱・琳琬;字、号;琳琬院)1503-157876歳 下総日蓮僧;身延久遠寺13世日伝門;  
出家、師没後・14世日鏡門・15世日叙門、1572久遠寺16世継嗣;在山7年、  
1578西谷定林坊に退隠;読書家;身延庫裡和尚と称される、  
1571「韻鏡」、「唯独抄」「法華助注集」著
- E3363 **日愷**(にっせい;法諱、号;仏乗院)1550-9849歳 備前福岡の日蓮僧;早く出家/京妙覚寺日典門、  
1581鎌倉本行院主/90(天正18)請われて池上本門寺12世就任;江戸の寺地を付与される;  
牛込善国寺など5か寺を開創、武蔵六郷本住寺開山、  
1597(慶長2)妙覚寺日奥と京諸山との融和のため上洛;失敗/帰途病を得て本住寺に没、  
1595「諸寺勸不受義」96「校訂註法華経」、「御祈禱経類聚抄」著
- E3364 **日晴**(にっせい;法諱、号;慈眼院)?-1664 武蔵碑文谷の日蓮宗法華経寺13世、  
1630上総小西檀林化主日領が身延派との対論に破れ流罪;31同檀林が身延に接收される、  
離散しかけた不受不派の学徒を上総山武郡大和村に養安寺檀林を開き収容;教育に尽力、  
「当門徒継図次第」「両山並平賀継図」「平賀本土寺継図次第」著
- E3365 **日精**(にっせい;法諱・了玄;字、号;了玄院)1600-8384歳 京日蓮僧;要法寺日瑤門;出家、  
富士大石寺16世日就門;宗義を修学/上総宮谷檀林・大沼田檀林に修学、  
1632江戸浅草法詔寺隠棲の日就从から宗義の相承を受く/1637富士大石寺17世;  
外護者の日詔尼と軋轢を生じ在山数年で退く/江戸下谷に常在寺を開創;閑居;  
布教と著作に専心、1633「随宜論」、62「家中問書鈔」「日興上人伝」、「家中鈔」「御書要文」著
- E3366 **日栖**(にっせい;法諱、堯辺;字、唯性院)1650-9849歳 上総日蓮宗小西檀林25世、  
上総茂原藻原寺26世、1691「二有交互記」/95「提婆什訳」著
- E3367 **日晴**(にっせい;法諱、春道;字、号;智運[雲]院)1652-172675 日蓮僧;身延久遠寺29世日筵門、

身延久遠寺の後住問題で師日筵が秋田藩お預け;配流に従い出羽久保田(秋田)住、  
秋田の久城寺11世;秋田で布教、藩主佐竹家の帰依を受ける、1701江戸住/22退隠、  
歌/書を嗜む、23「日筵上人御伝記」著、  
「矢橋不動庵日筵尊師御廟並庵室縁起」著

- E3368 **日精**(にっせい;法諱・修光;字・号;修光院) 1674-1739<sup>66</sup> 日蓮僧;智覚院日啓門/終生法嗣、  
師に従う、のち下総中村檀林52世/京妙頭寺27世/京頂妙寺21世/下総中山法華経寺58世、  
山城岡崎森草庵に没、「肝要義」「経論異説考」「二円同異論」「部教分別章」著
- E3369 **日精**(にっせい;法諱・玉純;字・号;天受院) 1777-1852<sup>76</sup> 日蓮僧;善勝寺31世/京妙満寺195世、  
「法華一毛記」著
- E3370 **日政**(にっせい;法諱・宣量;字・号;眞応院、俗姓;増田) 1804-66<sup>63</sup> 山城日蓮宗小栗栖檀林80世、  
京本隆寺44世;日眞門流教学樹立尽力、1851日東著作を日寿・日久と改訂;「改正文底義」
- H3328 **日制**(にっせい;法諱、通称;八郎・姓;八木) 1805-49<sup>45</sup> 肥後宇土の僧/大坂天満の蓮興寺22世
- E3371 **日政**(にっせい;法諱/初諱;致要、廉三;字・号;象門/浄命、俗姓加藤)?-1878 日蓮僧、1850「勝地論」、  
1851「師子膏」53「血脈正統鶴翼論」59「大石要法問答記」著
- |             |   |                         |           |
|-------------|---|-------------------------|-----------|
| 日晟(にっせい)    | → | 日晟(にちせい、垂水入道、連歌)        | 3 3 0 5   |
| 日政(にっせい・深草) | → | 元政(げんせい・日政、日蓮僧/詩歌)      | 1 8 2 3   |
| 日盛(にっせい)    | → | 天目(てんもく;法諱・浄法房、日蓮僧)     | E 3 0 3 8 |
| 日静(にっせい)    | → | 日静(にちじょう;法諱・妙竜院、日蓮僧)    | C 3 3 3 3 |
| 日静(にっせい)    | → | 日静(にちじょう;法諱・慈観、日蓮僧)     | C 3 3 4 2 |
| 日静(にっせい)    | → | 日静(にちじょう;法諱・歓喜院、日蓮僧)    | C 3 3 4 6 |
| 日誠(にっせい)    | → | 日誠(にちじょう;法諱・守玄院、日蓮僧)    | C 3 3 3 7 |
| 日誠(にっせい)    | → | 日誠(にちじょう;法諱・純孝院、日蓮僧)    | C 3 3 4 8 |
| 日成(にっせい)    | → | 日成(にちじょう;法諱、日蓮僧)        | C 3 3 3 4 |
| 日成(にっせい)    | → | 日成(にちじょう;法諱・智見院、日蓮僧)    | C 3 3 3 6 |
| 日成(にっせい)    | → | 日成(にちじょう;法諱・円成院、日蓮僧)    | C 3 3 4 3 |
| 日成(にっせい)    | → | 日成(にちじょう;法諱・眞行院、日蓮僧)    | C 3 3 4 5 |
| 日清(にっせい;法諱) | → | 流濟(りゅうさい・山内やまうち、武者/日蓮僧) | D 4 9 9 9 |
- E3372 **日暹**(にっせん;法諱、号;法性院)?-? 室町後期京の日蓮宗妙蓮寺の道輪寺学室学頭、  
1507「本尊相伝抄」著
- E3373 **日詮**(にっせん;法諱・恵俊;字・号;山光院) 1521-79<sup>59</sup> 壮年頃南都北嶺に遊学;唯識・天台を修学、  
天台園城寺僧;「四教儀詳解」著、のち堺日蓮宗妙国寺住;  
開山仏心院日珙・常光院日諦と道義を結び「法華文句」を3人輪番講義;三光無師会を開、  
「長恨歌抄」、「和漢朗詠集抄」(;円海房日巖にちごん筆)、「科註拾塵抄」「通用決伝抄」、  
「祈禱経聞書」「文句二卷聞書」「法華文句無師」「四教儀詳解」著
- E3374 **日暹**(にっせん;法諱/初諱日遜・隆恕;字、智見院、浦井宗府男) 1586-1648<sup>63</sup> 日蓮僧;久遠寺日遠門、  
出家/1623京本満寺11世/27山城鷹ヶ峰檀林講主/28身延久遠寺26世;身延派(受不施)、  
1630(寛永5)老中酒井忠世邸の不受不施の池上派と対論に列席し勝利/不受派を追放、  
日蓮宗法度の整備に専心、弁舌家;富楼那ふるな日暹と称さる、  
「暹樹対論記」「不受不施論」「拾芥要集」「妙法尼抄」「妙経訓点私抄」「義科論義」外著多数
- E3375 **日詮**(にっせん;法諱・回純;字・号;妙種院) 1612-78<sup>67</sup> 京日蓮宗要法寺23世、  
要法寺22世日祐発願の山城小栗栖檀林の整備に尽力/1666その開堂供養式を挙げる、  
「雑集」著
- E3376 **日選**(にっせん;法諱・文夙;字・号;本住院)?-1652 日蓮僧;身延久遠寺21世日乾門、漢学に長ず、  
法兄の熊本本妙寺3世日遙の招請で熊本蓮政寺3世/1634日遙の跡継嗣;本妙寺4世、  
儒学をもって藩主細川忠利の恩遇を得る、熊本に本行寺/妙体寺/東光寺/法蓮寺を開創、  
教育説法生涯4000座/授法千有余人、「別頭本尊抄解」著
- E3377 **日旋**(にっせん;道号・慧範えはん;法諱)?-? 江中期加賀曹洞僧;玉竜寺・勝明寺を開山、  
法嗣;梵光智价・心華徹明ら、1747「守源先師(曹源)老和尚行状」/54「曹源和尚三会録」編
- E3378 **日専**(にっせん;法諱/日選;初法諱・志円/志山;字・号;守眞院) 1724-89<sup>66</sup> 日蓮僧;京妙蓮寺37世、  
撰津尼崎本興寺54世、1769日秀・日随と回向成不論争;反駁書「本門法華宗回向通不抄」著、

撰津長栖大願寺に没、1771「開迹頭本宗要目録」著

- E3379 **日泉**(にっせん;法諱・前旭;字、甘露院)1739-91<sup>53</sup> 日蓮僧;身延久遠寺48世日源隨身役、山城東山檀林163世文能、江戸山谷正法寺15世、1772「当体義抄真偽辨」83「六欲箴解」84「玄覽権実義」90「法門入毛孔論」、「文句得解」著
- E3380 **日宣**(にっせん;法諱・智寛;字、号;英智院、俗姓;平木)1763-1846<sup>84</sup> 丹後加悦の日蓮僧;幼時に実相寺日要門;出家/山城鶏冠井かえでい/かいで檀林に修学、鶏冠井檀林253世化主、1793頃推薦され伏見本教寺17世/直経寺185世/晩年;実相寺退隱、のち全国布教に行脚;近畿北陸関東を巡り甲斐甲府で神道家30名と対論、播磨三木の本要寺で説法中急逝、1815「教訓抄」「四箇名言論」「実勝権劣抄」著、1829「住迹頭本抄」/32「神代評撰記」39「異体同心鈔」、「甲府神道問答記」外著多数、「日宣尊聖師御説法御控記」あり
- E3381 **日船**(にっせん;法諱・察問;字、号;隆冲院) ?-? 江後期山城日蓮宗東山檀林321世文能、1820「持経者要路」著
- E3382 **日瞻**(にっせん;法諱・快住;字、上妙院)1800-67<sup>68</sup> 下総日蓮宗中村檀林300世/京妙覚寺59世、1867(慶応3)京本圀寺43世、説教に長ず;説法13000座、1834「法華経音義改正」「法華経要品改正」、「末寺継目礼式古法」著
- 3307 **日扇**(にっせん;法諱、禅門清風、俗名;長松ながまつ清風せいふう)1817-90<sup>74</sup> 京蛸薬師室町の商家;大路家、父早世/祖父母・母に養育/国学・歌;城戸千楯門/家業を姉に譲り学問に専念;人生に懐疑、1842母没;仏教傾倒;家の浄土宗に不満;宗派転々/1845(弘化2)日蓮宗本能寺日雄と邂逅、日蓮宗八品派(本門法華宗)入信/本能寺貫首日肇の教化;1848淡路隆泉寺日耀門;出家、本能寺日紹から新義異流の徒と非難され1855還俗、57同志4人と仏立講(八品講)を結成;1869宥清寺を借り本門法華宗内の仏立講最初の寺院とす;ちの本門仏立宗の基礎を築く、独自の教義で既成の諸派を批判;非難され投獄も数度、京の商工業者を中心に多くの在家信者を結集/1890(明治23)大坂講席に行く途中、没後本門法華宗より日扇上人の諡号と権大僧正位を追贈/のち大僧正に列す、1856「真実出家論」「題目口唱信者成仏抄」/58「八品門疏要詩名和訓」「菩提の直路」、1866「諸宗墮獄抄」、「玄義教想見聞十五段抄」「初入真栞」「祖書要通」「二尼問答」外著多数、[日扇(;法諱)の姓/幼名/名/還俗名/字/通称/号]姓;大路/今大路、幼名;仙次郎、名;魚/延魚/延禎、還俗後名;禅門清風、字;士竜、通称;仙二郎/仙右衛門、号;長松堂/仙桂/三高、諡号;義天院
- E3383 **入楚**(にっそ・鈴木すずき、名;直由)1702-75 江中期伊勢の俳人;1766(明和3)神風館8世継承、1766「此あかつき」/70「ほととぎす」編/75「神風館歳旦集」、「秋のすさひ」編 [入楚(;号)の通称/別号]通称;三郎兵衛/三太夫、別号;藜翁/神風館8世
- E3384 **入素**(にっそ、桑谷山人) ? - ?1801頃没 三河岡崎の俳人;暁台門、1774「竜城江湖菴社中」編、1796「勸進帖」編、1774美角「ゑぼし桶」入、[山吹の咲きし家やに入いる小姫かな](ゑぼし桶;91)
- E3385 **日崇**(にっそう;法諱・伝了;字、号;信入院、俗姓;新屋)1615-89<sup>75</sup> 日蓮僧;京の日然門、日隆門流学僧;日承と並称、上総日蓮宗細草檀林3世/京妙蓮寺20世、1661「受不受興起抄」、「法華玄義釈籤私」「法華玄論条箇」「玄義崇抄」「文句崇記」外著多数
- E3386 **日相**(にっそう;法諱・是心;字、号;久成くじょう院、俗姓;進藤)1635-1718<sup>84</sup>歳 尾張葉栗郡の日蓮僧;1643(9歳)同地の法蓮寺日近門;出家/師没後は法兄日通門、山城山科檀林に修学、1656美濃岐阜の長照寺住職/60尾張法蓮寺13世;在山20年;黄檗宗潮音道海と法論、89退隱、退隱後;法華信仰の顕揚に尽力;著述活動、「隱中和歌」「墳墓記」、1673「己心北斗」著、1692「改古三重韻」/96「妙経改字」/98「玉篇画引条箇」「法華経音義補闕」著、[日相(;法諱)の初法諱]教円/日明
- E3387 **日宗**(にっそう;法諱・叡桓/睿桓;字、境妙院、俗姓山田)1644-1728<sup>85</sup> 江戸日蓮僧;久遠寺日境門、下総中村檀林30・41世/1693京妙顕寺21世、1708「円師行状」著
- E3388 **日相**(にっそう;法諱・光円;字、本有院、俗姓桐沢)1688-1756<sup>69</sup>歳 越後蒲原の日蓮僧;本成寺日延門、三沢檀林創設に尽力、1733越中黒瀬本法寺18世;氷見の真宗円満寺義教と度々論争、1741富山会一院の法話に信徒の信頼を失い寺を追放/のち越後稻荷岡に要行寺を開創、

同寺に没、日陣門流4哲の1、

「三光証明記」「決権実義」「撃大毒鼓論」「智愚問答記」「三日記」「真正記」外著多数

- E3389 **日莊**(にっしょう;法諱、舜廓院/三千院) ?-1800 石見太田日蓮宗妙光住職、1778「末法要行録」著
- E3390 **日琮**(にっそう;法諱・眞覚/眞学;字、不測院) 1734-1803 70歳 山城鶏冠井かえで檀林127世/  
下総中村檀林170世/山城深草宝塔寺29世/京妙覚寺50世、日住による本尊決疑論争に参加、  
1776「観機編」82「朝唱建築幢」97「会正策」1801「統津通」、「撰時抄等雑録」「金鏡篇」著
- E3391 **日藻**(にっそう;法諱・玄静;字、俗名;石橋大右衛門) 1736-84 49 下総岩部日蓮僧;鷹峰寺檀林173世、  
下総長栄寺42世、勅命で南北両総に教導/上総妙泉寺住職、「臨終用心記」「本尊文点相承」、  
俳人:日従[初世藻蘭]門、82「茜堀」/83「俳諧枕草子」/「俳諧古語」「藻玄集録」「俳諧鼓」、  
「桃華集」「古言考」「方言考」「俳諧錦繡段」「俳諧七部解」「俳諧指南車」著、追善集「名蓮花」、  
[日藻の号] 報寿院、百花坊/梅丸/茂来
- E3392 **日莊**(にっしょう;法諱・淳道;字、眞就しんじゆ院、玉川阿闍梨) 1773-1830 58 上総日蓮宗細草檀林82世/  
富士大石寺49世、「経中難問抄」著
- E3393 **日蒼**(にっそう;法諱、俗姓矢谷) 1776-1838 63 但馬豊岡の日蓮僧;1787(12歳)立正寺日要門;出家、  
1807備後常国寺住職/京妙伝寺の摂受接的姿势を批判/寺を追放、  
神戸久遠寺日韓の八品派に帰属;沼津日蓮本光寺28世継嗣、  
駿河北山本門寺重須談所21世寮主に就任;思想が対立;追放、江戸深川弘道庵創設;還俗、  
蘭医となり八品講を組織;講社60余、講員数千名の在家仏教団に育てる、  
1824「三難問書」、「顕本種子論」「応儒抄」「当家秘要録」「顕立正義録」「摧邪顕正論」外著多、  
[日蒼の号/通称] 舜竜院、通称;枢憲/忍難沙門/竜池堂/竜子温、還俗後;後藤竜斎
- H3329 **日宗**(にっそう;法諱、) 1793-1863 71 越中の日蓮僧、遠江浜名郡本興寺32世
- E3394 **日相**(にっそう;法諱、本妙院) 1805-74 江戸深川日蓮宗慈眼寺20世、1867「五百塵点記」  
日想坊(にっそうぼう) → 寂超(じやくちゆう・日想坊、大原三寂/歌) G 2 1 3 4
- E3395 **日尊**(にっそん;法諱・文甫;字、蓮成院、広橋国光男?) 1558-1603 46 京日蓮僧;弟の本圀寺日禪門、  
比叡山で天台を修学/同学の日統・日生と下総飯塚談所で講義/1580飯塚談所は飯高移転、  
1596(慶長元)飯高檀林と改称;その開祖となる、1598池上本門寺・鎌倉妙本寺両山13世、  
「集解要文」「開目鈔註釈」著  
日遜(にっそん) → 日暹(にっせん;法諱・智見院、日蓮僧) E 3 3 7 4
- E3396 **日泰**(にったい;法諱、心了院/円頓坊) 1432-1506 75 京の日蓮僧;京妙満寺10世日遵門、  
南都・叡山・高野に遊学、関東伝道を志す;上総士気城主酒井定隆の外護で下総本行寺再興、  
上総士気に本寿院を開創/定隆の命で領内全寺院を日蓮宗に改宗;上総七里法華と称さる、  
京妙満寺16世となる、  
連歌;1498「明応七年十一月四日宗祇日泰何木百韻」
- E3397 **日諦**(にったい;法諱、要法院、関白九条政忠男) ?-1505 京仁和寺相応院門主/改宗日蓮相;日住門、  
京立本寺8世/1503僧正、1504頃日建にちごん・日能・日耀らと日蓮遺文「録内御書」講述/集録;  
「御書鈔」編、1496「一体方記録」1505「開目抄講談」、「録内問答私記」著
- E3398 **日諦**(にったい;法諱・聡玄;字、慶隆院) 1471?-1558 88 京日蓮僧;本隆寺開山日眞門/本隆寺5世継嗣、  
日眞門流(本隆寺派)教学発展に尽力、1532頃上総東金本漸寺で日住門流を批判/争論、  
北陸で金剛院日承を折破/同門日映と法義上対立;義絶、福井本祐寺に没、  
1540「湧出品講談」、「自我偈講談」「天台円宗四教五時名目」著
- E3399 **日諦**(にったい;法諱、常光院) ?-1585 天台僧;南都北嶺で修学/美濃斎藤道三の帰依;犬山住、  
道三没後上京;改宗;日蓮僧;仏心院日珙・山光院日詮と三光無師会を開く;  
法華文句を講義、撰津梶原に結庵し止住、1579安土宗論で妙覚寺長老とし臨み敗れ処罰、  
1568「法華文句無師」76「六宗見聞」著
- F3300 **日速**(にっすく;法諱・仙陽;字、眞如院) 1595-1670 駿河日蓮僧;日陽門/駿河感応寺2世、  
1634下総法華経寺24世、「安国論私記」「塔婆銘書」「不受謗施記」
- F3301 **日諦**(にったい;法諱) ? - 1675 日蓮僧;駿河富士妙蓮寺17世、  
1668「日興聖人伝」、「富士門流得意抄」「本迹得意抄」「当体義抄見聞全篇記」著
- F3302 **日体**(にったい;法諱・学妙;字、号;十如院) 1668-1709 42 日蓮僧;下総飯高檀林56世玄能、

身延西谷檀林27世文能/上総妙覚寺33世、「当家看經十種方法」著

- F3303 **日諦**(にったい;法諱・隆察;字、觀具院)1674-1732<sup>59</sup> 下総日蓮僧;下総中村檀林24世日隆門、中村檀林58世化主/1809京妙頭寺28世、1814本圀寺日達に論駁「規矩準繩録」著、1815「窓燈塵壺」著
- F3304 **日体**(にったい;法諱、常照院)?-1733 京日蓮宗円教坊住僧/同法流の京要法寺日眷の造像説を批判、宗祖本仏論を主張;1702異端邪説として要法寺から追放、九条に住本寺開創;根本日蓮宗を開く、「根本日蓮宗雜門篇」「種脱本尊異目」著、「根本日蓮宗旨名目」(門弟日忍にちんの著)
- F3305 **日諦**(にったい;法諱・建立/貞順;字、円行院)?-1781 日蓮宗水戸三昧堂檀林42世、日蓮資料収集;祖伝作成;1779「本化高祖年譜」「祖書目次」「本化高祖年譜攷異」著  
新田郷阿闍梨(にったごうのあじり)→ 日目(にちもく・蓮蔵房、日蓮僧) D 3 3 2 7  
新田部皇子(にったべのみこ)→ 新田部皇子(にいたべのみこ) 3 3 0 0
- F3306 **日智**(にっち;法諱・桓叡;字、境本院日鎮男)1819-54<sup>36</sup> 駿河原の日蓮:伊豆玉沢妙法華寺日桓門;父と共に入門/下野中村檀林・水戸三昧堂檀林に修学/父の住した原の昌源寺に戻り住、1842加賀金沢日輝の薫陶を受ける;43玉沢妙法華寺覚林院住;法兄日能の山務に助力、学徒の教育に当る/1849京岡崎に藤樹庵結び退隠;著述活動/50下総中村浄妙寺住、1854伊豆玉沢に帰る;昌源寺に没、「桜陰漫筆」「講余紀談」「松陰紀話」「密室閑話」「護眞論」「金剛力士論」「文字論」「妙宗綱要」「妙宗綱要発蒙」「破邪頭正録」外著多数、[日智(;法諱)の初法諱/号/通称]初法諱;日果、初号;本智院/後号;通本院、通称;槐堂/愛嶽道人/湖殿閑人
- F3307 **日忠**(にっちゅう;法諱、十乗坊/常住院)1438-1503<sup>66</sup> 日学の弟/京天台;園城寺修学/日蓮僧;日隆門、日慶門;1473妙蓮寺道輪学室学頭/教育、日学と本能寺妙蓮寺の和睦に尽力、贈;妙蓮寺9世、「似玉抄」「法華直談抄」「観心本尊鈔見聞」「寿量品記」「与卜部兼俱書」「神力品御談」外著多
- F3308 **日中**(にっちゅう;法諱・省巳;字、正住院/正住院同広)1632-1701<sup>70</sup> 日蓮僧;身延南谷溪舌律院開、庵室不尽読誦堂を結;本化律の厳守/教化活動/詩賦、「本朝鐘銘集」「いろはの抄」著
- F3309 **日忠**(にっちゅう;法諱・通心;字、禅那院、俗姓佐野)?-1660 甲斐日蓮僧:日新・日遠門/京長妙寺6世、1620下総中山法華経寺20世/24飯高檀林9世、「帯現記」「西谷名目解」著  
日忠(にっちゅう;法諱字)→ 日芳(にっほう;初法諱、日蓮僧) F 3 3 6 0
- F3310 **日澄**(にっしょう;法諱・本乗坊/本乗阿闍梨、浜名時成男)1239-1326<sup>88</sup> 相模小田原日蓮僧:比叡山入、日昭門/日朗門/1263日蓮安房帰郷に日朗と随行;小松原法難の日蓮を天津真言寺で介抱、真言寺を折伏し日澄寺と改称;日澄寺2世となる、鎌倉大巧寺・池上本行寺を開創、さらに小田原蓮昌寺・尾張熱田本遠寺を開創、日澄寺に没、「与日像上人書」著
- F3311 **日頂**(にっしょう;法諱、号;伊予房、小林[橘]伊予守忠時男)1252-1317<sup>66</sup> 駿河重須村の天台僧、幼時に下総真間弘法寺に出家、改宗日蓮僧;日蓮門直参;日蓮門六老僧の1、1271(文永8)滝口法難以来佐渡流罪まで日蓮に随侍、身延入山後も常随給仕、母;日妙(忠時没後下総若宮領主富木常忍の後妻)、寂仙房日澄の兄、妹は乙御前(妙国)、のち養父常忍が改宗外護した真間弘法寺の開山となる;下総教団を主導;常忍と不和、父祖の地重須村に帰る;没、1308「観心本尊鈔得意鈔副書」「頂師御書」「良実状御返事」著、[日頂(;法諱)の通称]伊予阿闍梨
- F3312 **日澄**(にっしょう;法諱・号;寂仙房、小林[橘]忠時男、日頂の弟)1262-1310<sup>49</sup> 駿河重須村日蓮僧:身延の日向門/1300師日向にうと不和;身延を去り富士大石寺の日興にこう門、1304駿河重須談所の初世学頭、常林寺(小林寺)を開山、母;日妙(忠時没後下総若宮領主富木常忍の後妻)、伊予房日頂の弟、妹は乙御前(妙国)、「十宗立破」「本迹要文」「和漢次第」「内外所論」著、[日澄(;法諱)の通称]兵部阿闍梨
- F3313 **日朝**(にっしょう;法諱・照運;字、号;本果院/通称;青蓮阿闍梨)1394-1467<sup>74</sup> 甲斐休息の日蓮僧:甲斐立正寺日位門/駿河岡宮光長寺日賢門;のち同寺学頭、1410駿河湯船本蓮寺開創、駿河中丸蓮静寺・神山本国寺を開創/1419(応永26)甲斐立正寺7世、1435上京;本能寺日隆を訪問;師礼をとる、のち駿河長窪蓮華寺・伊豆宇佐美安立寺開創、晩年帰郷;立正寺に没、「台当異目深密鈔」/1453「西谷名目聞書」著

- F3314 **日朝**(にっちよう;法諱・鏡澄;字)1422-150079 伊豆宇佐美の日蓮僧;1429(8歳)三島本覚寺日出門、  
;出家、京の真如院日住門;宗学を修学/叡山・武蔵仙波談林で天台教学を修学、  
1462身延久遠寺11世/在山40年;伽藍造営・規模組織拡充・諸制度制定・日蓮遺文収集、  
日住の仲介で下総中山法華経寺日院と和議を結び両山の不和解決、学僧として著名、  
「立正会」「立正会問答」「元祖化導記」「合譬集」「補施集」「安国論輪私抄」「弘経要文集」、  
「法華十講」「法華大綱集」「本迹事」「本尊談」「律宗事」「立像仏事」「例講問答」外著多数、  
[日朝(;法諱)の号/通称]号;宝聚院/行学院、通称;加賀阿闍梨
- F3315 **日調**(にっちよう;法諱、通称;大運阿闍梨、狩野朗舜男)1428-150174 上総伊北の日蓮僧;  
幼時に常住院日隆門;出家、1452(25歳)武州池上本門寺・鎌倉妙本寺両山8世;在山50年、  
兄狩野行運・豪族の外護により山内を再建・諸末寺を復興、両山の繁栄を導く、  
1471「本門寺縁起」著(真如寺日住の勧めにより作成)、「開目鈔見聞」著
- F3316 **日澄**(にっちよう;啓運;字、号;円明[妙]院/通称;一如房)1441-151070 京日蓮僧;本圀寺日円門、  
鎌倉妙法寺住、鎌倉啓運寺・伊豆葦山本立寺を開創/一致派の学僧、身延久遠寺日朝と並称、  
駿河寺町安立寺に没、1474「助顕唱導文集」/93「法華経啓運鈔」「本迹決疑抄」、  
1509「夏中法談」、「嘉会宗義鈔」「啓運鈔」「日蓮上人註画讃」「日出台隠記」外著多数
- F3317 **日澄**(にっちよう;法諱、号;常住院)1546-161974歳 京日蓮宗妙蓮寺学頭、  
1606「妙蓮寺学頭記」「歴代祖師記」、「妙蓮寺祖師記」著
- F3318 **日長**(にっちよう;法諱、号;宣示院)1670-172859 美濃日蓮宗覚林寺11世、  
1727(享保12)「初学用心問答抄」著
- F3319 **日聰**(にっちよう;法諱・善明/禪明;字、号;善明[禪明]院)1671-173868 日蓮僧;一円院日脱門、  
駿河感応寺25世、下総飯高檀林55世/山城東山檀林33世文能、  
1727「妙法略要記」、「相對種私記」著
- F3320 **日潮**(にっちよう;法諱・海音/松;字、号;六牙院、青木元澄男)1674-174875歳 京の日蓮僧;  
1681(8歳)山城深草瑞光寺日灯門;出家/智寂院日省門/山城松ヶ崎・下総飯高檀林に修学、  
1709仙台孝勝寺に住/20下総飯高檀林52世文能/36孝勝寺23世/身延久遠寺36世、  
1744一円庵に退隠;以後著述に専念、「身延図経」「蒙古対治旗曼荼羅記」著、  
1718「本化宗牒感得記」20「本仏堂本尊記」28「布引祖像記」31「本化別頭仏祖統記」著、  
[日潮(;法諱)の通称] 瑞松堂/松岩
- F3321 **日長**(にっちよう;法諱・恵秀;字、号;正善院)1726-180984 武州池上日蓮宗正善庵の住僧、  
池上南谷檀林玄講32世/文講41世、鎌倉妙本寺38世/関東教学の代表的学匠;日道らと並称、  
1754「問寺茶話」66「正善論」70「法華訂正記」92「三道中心録」96「草山繩正録」著、  
1800「再折記」06「別頭統紀中難得意条々記」、「竜女成仏諸説考」「法華本迹正論」外著多数
- F3322 **日徴**(にっちよう;法諱・文貞;字、玄成院)1768?-183871 江戸谷中日蓮宗仏心寺14世、  
江戸牛込善国寺18世/下総飯高檀林258世文能、  
1830「三道興起」34「妙見大菩薩実境録」36「実境録硯海余滴」、「実境録余滴普潤」著  
日迢(にっちよう;日蓮僧) → 眞迢(しんちよう;法諱、日蓮・天台・念仏僧) 2 2 6 3  
日長(にっちよう;法諱/日蓮僧) → 隆達(りゅうたつ;字・高三たかさぶ、商家/音曲家) 4 9 1 0
- F3323 **日陳**(にっちん;法諱・隆光;字、号;隆光院)1679-174365 大阪日蓮宗正法寺9世、  
下総中山本行寺17世/京常照寺63世、山城鷹ヶ峰檀林77世玄能、1711「妙見縁起問答」著
- F3324 **日鎮**(にっちん;法諱・桓随;字、境本院)?-1846 駿河原の日蓮宗昌原寺住僧、  
伊豆妙法華寺覚林院24世、「再案集」「随筆漫録」著  
日珍(にっちん;初法諱) → 日遠(にちおん;法諱・堯順、日蓮僧) 3 3 7 4  
日陳(にっちん/にちん;法諱) → 日陣(にちじん;法諱、円光坊、日蓮僧) C 3 3 5 0
- F3325 **日通**(にっつう;法諱・功德院、油屋常金男)1551-160858 和泉堺の日蓮僧;仏心院日珽門、  
1588(天正16)京本法寺10世;本阿弥家や長谷川等伯の帰依を受け寺を小川に移転;  
諸堂を建立、画;長谷川等伯門、1601下総中山法華経寺14世;同寺所蔵日蓮遺文を模写、  
;後世の遺文研究に寄与、撰津塚原経王寺の開山、  
「画之説長谷川等伯物語」「三類符号集」「文義同類集」「盤究境録」「諸法実相抄」著
- F3326 **日通**(にっつう;法諱・玄海;字、号;寂遠じやくおん院、俗姓;松田)1614-7866歳 京日蓮僧;妙伝寺日勇門、  
山城鷹ヶ峰檀林に修学/1643山城山科檀林2世化主、55妙伝寺16世継嗣、

- 1661山城葛野に真如寺を開創/62下総飯高檀林15世化主/68池上本門寺20世、  
1672身延久遠寺30世;伽藍整備・門下育成に尽力;在山8年/江戸谷中瑞輪寺に退隱、  
1665「妙境籤条」、「指要抄解」「円頓者籤条」「通修不通修」「妙法蓮華經文句志述」著
- F3327 **日通**(にっつう;法諱・普明;字、境持院、加瀬十郎右衛門男)1702-7675 下総香取郡神崎の日蓮僧;  
幼時に伊豆玉沢妙法華寺25世日宗門;出家、下総中村檀林に修学/1755同檀林文句講主、  
1756伊豆妙法華寺33世;在山13年/鎌倉境妙庵に退隱;著述活動、  
1755「本化血脉図解」70「祖書目録」、「祖書証議論」「玉沢手鑑」「本迹弁正論」著
- F3328 **日通**(にっつう;法諱・智研;字、俗姓;山崎)?-1792 京の日蓮僧;名古屋法華寺に没、「智研遺草」
- F3329 **日通**(にっつう;法諱・英含[英喰];字、号;英含[英喰]院)?-? 江後期日蓮僧;英智院日宣門、  
道樹院日幹の法孫、「法蓮問答」「甲府神道問答記」著、  
真宗大谷派大靈の「問答抄裂網」に対し反駁;1822(文政5)「裂邪妄想論」著  
日通(にっつう;初法諱) → 日鶴(にちかく;法諱、日蓮僧) 3399
- F3330 **日暹**(にっせい;法諱、号;照幡院)?-1691 下総日蓮宗松崎檀林15世/檀林規則制定:中興の祖、  
佐渡一谷妙谷寺25世、1673「松崎檀林規則」著
- F3331 **日暹**(にっせい;法諱、号;東漸院)?-1692 下総浜野日蓮宗本行寺住僧/伊豆大島の配所に没、  
1670「本門増道損生論」79「法界回向記」、「末法燈明記」「教訓鈔」著
- F3332 **日貞**(にっせい;法諱・存首/練阿;字、善慧院/西山隱士)?-1712 伊豆初島日蓮僧;池上の日玄門、  
飯高檀林30年間修学/同檀林33世玄義講師/真間弘法寺17世、  
「指要抄解」「法華玄義徳宜抄」著
- F3333 **日貞**(にっせい;法諱・順我;字、号;本是院)1698?-176467 下総日蓮宗中村檀林95世、  
山城東山檀林67世/京本法寺33世/下総中山法華經寺70世、  
1755「正中山法華經寺縁起」、「祖書編輯」著
- F3334 **日底**(にっせい;法諱・遠成院)1766-181853歳 日蓮僧;悦可院日巧門か?、  
1801「本因妙抄不審」、「文底秘沈草案」著、丹後妙円寺日英の師  
日典(にってん・教典) → 日典(にちでん・実成院、日蓮僧) C3394  
日典(にってん・日宣門) → 日典(にちでん、日蓮僧) C3396  
日奠(にってん・義道) → 日奠(にちでん・妙心院、日蓮僧) C3395
- F3335 **日東**(にっとう;道号・韶春しょうしゅん;法諱)?-? 室町期応永1394-1428頃加賀の曹洞僧;  
能登宗円寺で出家/瑞巖韶麟門;法嗣、1423-24能登総持寺の輪番住寺/能登靈泉寺の開山、  
「瑞巖和尚語録」編
- F3336 **日統**(にっとう;法諱・要行;字、号;要行院)?-1579 下総飯塚日蓮僧;光福寺6世日泰門;出家、  
比叡山に修学/のち和泉堺頂源寺で弘經寺日健の「御書鈔(健抄)」を校合・注解;  
1566日健「御書抄(統抄)」編、光福寺に帰り学室飯塚談所を開設;門弟教育、  
飯塚談所を教蔵院日生が飯高妙福寺に移し飯高談所と改める(のち飯高檀林)、  
1566「御書抄自取要抄至地引書」、「薬王品講談」「護大部講談」著
- F3337 **日東**(にっとう;法諱・常然;字、号;蓮乘院)1581-164868 日蓮僧;日遠にちおん門、上総小西檀林化主、  
下総飯高檀林化主/上総茂原藻原寺18世、  
1630酒井忠世邸対論に身延派(受不施)で列席;幕府裁決;32池上日蓮宗本門寺17世、  
鎌倉妙本寺兼任管轄、「与頭山饒公書」著
- F3338 **日東**(にっとう;法諱・唯妙;字、号;大法院)1606-9085 京日蓮宗妙蓮寺17世、「要品義辨」著
- F3339 **日統**(にっとう;法諱・乾恕けんじょ;字、号;勇猛院)1630-7748歳 上総日蓮宗宮谷檀林17世、  
「玄義搜葉記」「撰塵集」「証拾記」「四教儀集解義結集」「条例各標」著
- F3340 **日灯**(にっとう;法諱/初諱智岸・慧明;字、号;波羅密、俗姓;恵藤)1642-171776 三河の僧;  
律宗僧慈任門;出家(;法諱智岸)、省我律師の紹介で1665山城深草日蓮宗瑞光寺元政門、  
改宗;日蓮僧(;法諱日灯)、1668元政の遺命で深草瑞光寺2世継嗣:遺風の継承に尽力、  
1717(享保2)元政50回忌法要を修す;没、1676「草山要路会註」77「如来秘蔵録抄」著、  
1692「無相隨縁集」1706「法華戒体論」09「草山集抄」、「草山清規」「隨聞記」「蒙童十訓考」著、  
1717「草山開山五十回忌供養詩歌」編、外編著多数
- F3341 **日透**(にっとう;法諱・初法諱恵照/堯弁;字、号;観如院、休節男)1653-171765 母;妙淵、京日蓮僧、  
1661(9歳)寂光寺日孝門;出家、山城小栗栖・上総小西・下総飯高の各檀林に修学、

- 1699(元禄12)飯高檀林46世玄能/1700日慧の跡継嗣;伊豆葦山本立寺22世、  
1701身延西谷檀林25世化主;法華文句を講ず、03会津藩主保科正容に招請され浄光寺住、  
1714会津閑居庵に退隠;著述に専念;同庵没、「指要抄籤」「指要抄籤講草」「方便品講草」著、  
「閑居慰草」、1711「自撰行状記」/17「寿量頭本義」「本門事一念三千義」「当家本尊義」外著多
- F3342 **日答**(にっとう;法諱・高通;字、号;広演院/随演院)1678-175073 日蓮僧;身延久遠寺31世日脱門、  
下総飯高檀林61世化主/甲斐休息立正寺27世、1750身延久遠寺38世;在山60余日で没、  
1739「法華初心略音義」著
- F3343 **日塔**(にっとう;法諱・禹遵うじゅん;字、号;心地院)1709-7668 山城山科日蓮宗檀林71世、  
下総飯高檀林130世/能登羽咋妙成寺27世、詩歌に長ず、  
妙性寺参詣の詠「中山心情」は盆踊歌として伝承、溪口庵に没、1743「獄業情法論」著、  
1762「伝燈余光」編、67「折解惑」、「一年三千台当異日」「七面大明神和讃」著
- F3344 **日東**(にっとう;法諱・善圀;字、号;称理院)1725-8460 上総日蓮宗宮谷檀林98世/京妙満寺130世、  
「元蒙雜記」「茶会谈」「神道見聞随筆」、1764「元祖御一代記」著
- F3345 **日透**(にっとう;法諱・弁竜;字、号;妙解院)?-1791 下総北場日蓮宗浄妙寺25世/中村檀林132世、  
江戸成子に没、1769「護法得宜論」著
- F3346 **日濤**(にっとう;法諱・海雄;字、智音院)?-1825 安房小湊日蓮宗誕生寺47世、1790「血脉明辨」著
- F3347 **日東**(にっとう;法諱/初諱日照・了道;字、号;唯妙院、俗姓;守口)1747-182478 播磨斑鳩村日蓮僧、  
播磨揖保郡竜野本行寺で出家/山城小栗栖檀林に修学/京要法寺31世日住門;合わず離る、  
京本隆寺日眞門/1792本隆寺30世/1795本尊改奠に関し要法寺と15諸寺間に争論発生;  
諸寺を代表し前師の日住と対論、小栗栖檀林58世/大阪久成寺に没、  
1783「文底義」、「改正文底義」「関東下向日記」「大蔵開」「茶談要路」「要品義弁」著
- F3348 **日答**(にっとう;法諱・観念;字、号;義天/義天院)1794?-185158 江戸谷中日蓮宗長明寺15世、  
駿河村松海長寺52世、「草山和歌集孤考」著(元政家集の注釈)、「塵囊抄」著
- F3349 **日騰**(にっとう;法諱・便妙;字、号;久遠院)1808-5548 富士日蓮宗大石寺34世学頭/日蓮書籍編集、  
「新定祖書編年目録」「続祖書文集」「祖書拾遺」「祖書正本」「祖書諸目録合輯」外著多数  
日頭庵(にっとうあん) → 金塚(きんらち・馬場/銭屋、狂歌) E 1 6 9 0  
入唐根本大師(にっとうこんぽんたい) → 常睦(じょうむく;法諱、真言・三論僧) I 2 2 0 5  
日東の李白(にっとうのりはく) → 丈山(じょうざん・石川、詩人) 2 1 8 0
- F3350 **日徳**(にっとう;法諱・学林;字、号;興林院、中川斎庵男)1624-6946 日蓮僧;山城松ヶ崎檀林日善門、  
下総中村檀林に修学、山城鷹ヶ峰檀林化主/京本法寺19世/下総中山法華経寺37世、  
能書家、山城深草瑞光寺元政と親交、「信施論」著
- F3351 **日富**(にっぶ;法諱・建竜院/眞浄院)1680-174970 伊勢桑名日蓮宗寿量寺22世、  
「霊山歩草」「教行余草」「嘉会抄」「唱導三十講」著
- F3352 **日富**(にっぶ/日遇;法諱/初諱日愚、見竜;字、号;福寿院)1778-184063 下総日蓮宗中村檀林238世、  
山城鶏冠井檀林195世/駿河沓谷蓮永寺28・29世、日行の計らいで京妙頭寺文書を臨写編纂、  
1811「房総紀行」13「諫曉謗罪」「松風集」26「三昧勝想録」29「講余漫筆」外著多数
- F3353 **日法**(にっぼう;法諱、俗名;徳永光長、芝田右近男)1259-134183歳 日蓮僧:日弁/日蓮;直参、  
法系は日興直列、日興の申次により日蓮より本尊の授与を受く、  
日興の身延離山前後;日弁と日興から離脱/駿河を中心に遊化;  
甲斐勝沼の真言胎蔵寺を日蓮宗立正寺に改造、駿河岡宮天台僧空存を教化;光長寺を開創、  
彫刻家;諸寺に日蓮木像を遺す、  
「持戒無戒抄」「本迹相違」「本迹相違要文」「連々御法門問書」「聖人之御法門聴聞分集」著、  
[日法(法諱)の幼名/通称]幼名;熊王丸、通称;和泉房/和泉阿闍梨/円性房
- F3354 **日峰**(にっぼう;道号・宗舜そうじゅん;法諱、俗姓藤原)1368-144881 京嵯峨の臨濟僧;  
天竜寺本源庵の岳雲周登門;出家/1496無因宗因門;法嗣、のち美濃尾張に隠棲、  
犬山瑞泉寺開山に招請/1432頃妙心寺住持に推挙;大内義弘の乱で荒廃から復興に尽力、  
1447(文安4)大徳寺36世に就任/妙心寺養源院に没、後土御門(てんのう)より禅師号、  
「日峰宗舜禅師語録」著、  
[日峰宗舜の幼名/号/諡号]幼名;菊夜叉、号;昌昕(しょうきん)、諡号;禅源大濟禅師
- F3355 **日芳**(にっぼう;法諱・竜華院)1472-153463歳 京日蓮僧:幼時に妙本寺日具門、

1486出家/1498妙本[妙頭]寺9世:比叡山の反対で不許可だった旧名妙頭寺を復活、  
備中妙本寺10世/僧正、1497「番神問答記」著

- F3356 **日芳**(にっぽう;法諱・号;妙心院)?-1640 甲斐勝沼日蓮宗立正寺15世、「八講」著
- F3357 **日豊**(にっぽう;法諱・唯遠;字、俗姓;大河原)1600-6970 能登七尾の日蓮僧:加賀蓮昌寺で出家、  
京の妙頭寺日饒門;天台学を修学/下総飯高檀林日忠の講義を修学、身延西谷檀林6世、  
下総中村檀林7世/京妙頭寺16世/池上本門寺19世、権大僧都、山城深草瑞光寺元政の師、  
「本迹要文」「笑禁断謗施論」「与深草元政書」著、  
[日豊(;法諱)の号] 僧那院/鷲峰、
- F3358 **日逢**(にっぽう;法諱・英勝;字、号;紫雲院)?-1719 下総日蓮宗松崎檀林21世、1687「法王山之記」著
- F3359 **日逢**(にっぽう;法諱・号;世雄せおう院)?-1719 駿河日蓮宗感応寺21世/下総銚子妙福寺に没、  
1697「滝泉寺申状後記」、「感応の記」著
- F3360 **日芳**(にっぽう;法諱/後法諱;日忠、文貞もんじょう/文啓;字)1687-174357 駿河富士日蓮宗妙蓮寺22世、  
富士大石寺30世、「廢邪立正論」「門中記」著
- F3361 **日芳**(にっぽう;法諱・博善;字、号;仁讓院)?-1749 越中高岡日蓮宗大法寺25世、真宗僧義教と宗論、  
1741「本迹微志録」46「訶責謗法鈔」、「旅窓記」「末世安心記」「受不受辨」著
- F3362 **日逢**(にっぽう;法諱・号;泰寿院)?-1786 甲府日蓮宗信立寺27世、  
「開目抄略談」「本尊抄略談」著
- F3363 **日峰**(にっぽう;法諱・円通;字、号;和光院)1759-183173 江戸谷中日蓮宗善性寺住職、  
「宗祖大士真実記」著
- F3364 **日峰**(にっぽう;法諱・文周;字)?- ? 江後期肥後日蓮僧、1814「三冬夜話」著
- F3365 **日鵬**(にっぽう;法諱・至玄院)?- ? 幕末期武州一之江日蓮宗城立寺住職、  
1851「詩文草稿」69「閑窓談」著
- 日峰(にっぽう) → 元政(げんせい、日政、日蓮僧/詩歌) 1 8 2 3  
日峰(にっぽう・田辺) → 日峰(にちほう;法諱・義斎;字、日蓮僧) H 3 3 1 2  
日峯軒(にっぽうけん) → 太賢(もとかた・浅利あさり、神道家) C 4 4 3 3  
日〇(にっ..) → 日〇(にち..)をも参照
- F3366 **日本左衛門**(にっぽんざえもん・本名;浜島庄兵衛)?-? 尾張の七里飛脚/1744-48頃盗賊の頭;  
遠州など東海を荒らした/のちに歌舞伎狂言などの五人男のモデル
- F3367 **二亭**(にてい) ? - ? 名古屋俳人;1693露川「流川集」入
- F3368 **二貞**(にてい) ? - ? 俳人;蕪村門?;1776-86(安永5-天明6)初懐紙入、  
1772几董「其雪影」73「明鳥」83維駒「五車反古」各1句入、  
[我わがかげの皆になるまで月見哉](其雪影;  
巻尾357/皆になるは無くなる意/夜明けまで月見)
- 二亭(にてい・黒羽) → 金埒(きんらち・銭屋、江戸狂歌) E 1 6 9 0
- G3391 **二笛**(にてき) ? - ? 備後福山俳人;1727木而「藪の井」入
- 二天居士(にてんこじ) → 武蔵(むさし・宮本/新免、武芸者/書画) 4 2 5 5  
二斗庵(にとあん) → 下物(かぶつ・山川、俳人) F 1 5 7 9  
二斗庵(2世にとあん) → 鶴十(かくじゅう、俳人;下物門) E 1 5 7 0  
二斗庵(にとあん) → 耒耜(らいし・中村なかむら、庄屋/俳人) 4 8 5 2  
二斗庵幸雄(にとあんゆきお) → 幸雄(ゆきお・二斗庵、洒落本作者) E 4 6 3 6  
二瞳庵(にとうあん) → 夢仏(むぶつ・枝桑庵、俳人) C 4 2 9 6  
二童齋(にとうさい) → 晩山(ばんざん・爪木、俳人) H 3 6 8 5  
二頭大夫(にとうたいふ) → 光定(みつただ・高向たかむこ、神職/連歌) D 4 1 4 3  
二徳亭(にとくてい) → 収月(3世しゅうげつ・二徳亭、俳人) H 2 1 2 1  
二南学人(になんがくし) → 遠影(とおかげ・丁野ちやうの、藩士/官吏/歌) V 3 1 7 5  
二南斎(になんさい) → 智角(知角ちかく・興柳堂、俳人/絵師) 2 8 8 4
- F3369 **邇邇芸命**(瓊瓊杵尊にぎのみこと、天忍穂耳あめのおしほみ命の男)?-? 記紀神話;天孫降臨の主人公/  
誕生間もなく三種神器を体し日向高千穂に降る/古代王権の大嘗祭即位の説話化
- 二宮(にのみや・近衛) → 信尋(のぶひろ・近衛このえ、関白/書/連歌) D 3 5 0 9  
二百斎(にひやくさい) → 立庵(りつあん・渡辺わたなべ、与力/茶人) B 4 9 5 6

- 二瓢庵(にひょうあん) → 一奎(いっけい・二瓢庵、俳人) G 1 1 9 7  
 二不軒(にふけん) → 完鷗(かんおう・鈴木、俳人) Q 1 5 0 0  
 F3370 **二步堂**(にぶどう、二步軒) ? - ? 江中期大坂竹本座浄瑠璃作者:半二・松洛らと合作、  
 1760「極彩色娘扇」-61「安倍清明倭言葉」「古戦場鐘懸の松」-62「花系凶都鑑」著  
 二步只取(にぶのただとり、狂歌) → 椿亭(ちんてい・鈴木・鈴・鱸、幕臣/儒者) K 2 8 9 1  
 仁平(にへい・中村) → 利満(としみつ・中村なかむら、藩士/彫刻/歌) V 3 1 9 2  
 仁平次(にへいじ・木脇) → 祐業(すけなり・木脇きのわき、啓四郎/藩士/絵師) C 2 3 6 9  
 二兵衛(にへえ・辻) → 珍之(ちんし・辻つじ、俳人) K 2 8 7 8  
 二兵衛(仁兵衛にへえ・小原) → 鉄心(てっしん・小原おはら、藩士/儒詩) C 3 0 4 8  
 仁兵衛(にへえ・和氣) → 遠舟(えんしゅう・和氣、俳人) B 1 3 0 3  
 仁兵衛(にへえ・今村) → 知商(ともあき・今村、和算家/農政) P 3 1 0 6  
 仁兵衛(にへえ・斎藤) → 全門(ぜんもん・斎藤さいとう、心学者) N 2 4 1 5  
 仁兵衛(にへえ・堀野屋) → 新六(しんろく・西宮、翫月堂、書肆) 2 2 9 7  
 仁兵衛(にへえ・堺屋) → 基定(もとさだ・辻本/源、書肆/図会刊) C 4 4 5 1  
 仁兵衛(にへえ・灰吹屋) → 宝水(ほうすい・鈴木、菓種商/俳人) B 3 9 9 3  
 仁兵衛(にへえ・播磨屋/室谷) → 賀世(よしつぐ・室谷むろたに、商家/国学者) E 4 7 6 9  
 仁兵衛(にへえ・室谷) → 賀親(よしちか・室谷、賀世男/商家/国学者) E 4 7 5 8  
 仁兵衛(にへえ・小森) → 俊経(としつね・小森、歌人) M 3 1 9 6  
 仁兵衛(にへえ・湯浅) → 明信(あきのぶ・湯浅ゆあさ、藩士/詩人) D 1 0 7 3  
 仁兵衛(にへえ・堀野屋) → 仁兵衛(じんべえ・堀野屋、書肆) P 2 2 8 2  
 仁兵衛(にへえ・井上) → 桐斎(とうさい・井上、里正/儒者/詩歌) E 3 1 2 9  
 仁兵衛(にへえ・永崎/長崎) → 一見(いっけん・永崎、俳人/狂歌) D 1 1 7 2  
 仁兵衛(にへえ・木島) → 源蔵(げんぞう;名・木島きじま、農家/機織) K 1 8 8 4  
 仁兵衛(にへえ・石上) → 鑿通(てるみち・石上いそのかみ、国学者) C 3 0 9 4  
 仁兵衛(にへえ・野原) → 正明(まさあき・野原のほら/桑原、商家/国学) R 4 0 4 9  
 仁兵衛(にへえ・太田) → 武種(たけたね・太田おた、国学者) W 2 6 2 3  
 仁兵衛(にへえ・薩摩屋/井辻) → 尚監(なおみ・井辻いつじ/比田ひだ、富商/歌人) C 3 2 5 1  
 仁兵衛(にへえ・室谷) → 賀弘(よしひろ・室谷むろたに、商家/詩歌/茶人) P 4 7 5 8  
 仁兵衛(にへえ・松尾) → 安信(やすのぶ・松尾まつお、和算家/測量) C 4 5 6 0  
 F3372 **二峰**(にほう・井口庵) ? - ? 江後期常陸の俳人、潮来の詩文収集刊行、  
 1839「潮来図志」編、「潮来細見」編  
 二峰(にほう/じほう・高林) → 信好(のぶよし・高林たかばやし、書家) G 3 5 7 8  
 二峯(にほう/じほう・水野) → 秋彦(あきひこ・水野みずの、藩士/神職/国学) L 1 0 5 6  
 二峯庵(にほうあん・藤田) → 天洋(てんよう・藤田、蘭医/詩文) E 3 0 5 1  
 二峯庵(にほうあん・赤沼) → 筋山(せつざん・赤沼あかぬま、漢学者) E 2 4 3 8  
 二方庵(にほうあん・楓井) → 保定(やすさだ・楓井かえい、藩士/医/国学) F 4 5 7 3  
 鳩浮巢翁(にほのうきすおう) → 眞激(まさもと・宍戸ししど/林、藩士/国事) H 4 0 9 6  
 鳩舎(にほのや) → 方升(まさのり・友部ともべ、藩士/国学/歌) G 4 0 1 7  
 丹穂舎(にほのや) → 芳充(よしみつ・吉田よしだ、庄屋/尊攘家) Q 4 7 0 6  
 H3311 **仁保布**(にほふ・榊原かきばら) ? - ? 1868頃没 江後期;越中砺波郡福田村の荒尾崎神官、歌人  
 日本(にほん・本屋) → 宗七(そうしち・本屋ほんや、歌舞伎作者) F 2 5 1 7  
 日本花園(にほんかえん) → 溟北(めいほく・円山/小池、藩士/儒者) 4 3 3 7  
 日本書堂(にほんしょどう) → 憲斎(けんさい・中川ながわ、書家) I 1 8 9 4  
 二品法親王(にほんほつしんのう) → 承覚法親王(しょうかくほつしんのう、天台座主/歌) F 2 2 8 8  
 二品法親王(にほんほつしんのう) → 尊胤法親王(そんいんほつしんのう、天台座主/歌・連歌) E 2 5 6 2  
 日本の扁鵲(にほんのうへんじゃく) → 雅忠(まさただ・丹波たんば、医/典薬頭) D 4 0 4 5  
 二品僧正(にほんのそうじょう) → 慈運(じうん;法諱、天台大僧正/歌・連歌) B 2 1 1 3  
 二本木田(にほんもくでん) → 重胤(しげたね・鈴木/穂積/源、国学/歌) 2 1 1 2  
 二萬翁(にまんおう/二萬堂) → 西鶴(さいかく・井原、俳人) 2 0 0 1  
 二矛(にむ・長島) → 英斎(えいさい・長島ながしま、書家/歌) C 1 3 7 9

- 二無為(にむい) → 仁山(にんざん・井元、詩人) G 3 3 4 1  
 二鳴(にめい) → 二鳴(じめい、俳人) P 2 1 3 9  
 二名嶋処士(にめいとうしよし) → 名洲(めいしゅう・近藤こんどう、心学者) 4 3 2 0  
 二夜庵(にやあん) → 關更(らんこう・高桑、俳人) 4 8 0 3  
 二夜庵(2世にやあん) → 貞松(ていしょう・遠藤、俳人) B 3 0 2 1  
 二夜庵(にやあん) → 黄年(おうねん・一慶、山伏/俳人) C 1 4 6 1  
 二夜庵(にやあん) → 景山(けいざん・大野、俳人) 1 8 5 8  
 若瀛(にやくえい;字) → 玄智(げんち:法諱、真宗僧大谷派僧) L 1 8 1 1  
 若英(にやくえい;法諱) → 超然(ちょうねん;法諱、真宗本願寺派僧) J 2 8 6 3  
 F3373 入阿(にゅうあ;法諱、法名;敬蓮社/入西) 1199-1281<sup>83</sup> 長門の浄土僧;幸西・弁長門、  
 一念義/鎮西義を修学、1228肥後往生院で授手印受領;宗門要義相伝、  
 「往生礼讃要略記」「観念法門要略記」著  
 F3374 入阿(にゅうあ、宜然) ? - 1779 京の時宗迎称寺37世、  
 歌人;武者小路実岳門、1775景範「蔵山集」入  
 入阿(にゅうあ;号) → 空寂(くうじやく;法諱・入阿、浄土僧) C 1 7 2 2  
 F3375 入安(にゅうあん) ? - ? 江前期和泉北庄の生/堺の狂歌作者、  
 「入安狂歌百首」著(中院通勝批点/1790(寛政2)刊)、  
 1666行風「古今夷曲集」32首入/72「後撰夷曲集」79「銀葉夷歌集」入、  
 [春来れば色も花香はながも別儀べちぎにて宿の大福おおぶくたつ霞哉](古今夷曲集;春7、入安百首、  
 花香は入れ立ての茶の香り/格別の意と茶の銘別儀べちぎを掛る/立つと点つを掛る、  
 新撰狂歌集6では宇治の茶大臣の母作と洒落て居る)  
 F3376 入安(にゅうあん) ? - ? 京の俳人;1687言水「京日記」/90言水「新撰都曲」2首入、  
 [また先に霞をみたる木樵きり哉](新撰都曲;下337/春霞を今年もまた最初に見る)  
 F3377 柔遠(にゅうおん;法諱、子婦;字/柳溪;号/快樂院;諡号) 1742-98<sup>57</sup> 越中高柳真宗明楽寺生;僧鎔門、  
 本願寺派明楽寺13世/空華学派;空華三師の1、門弟;印定/印持/巧便/令玄/行照/義諦ら  
 「往生要集略註」「浄土論随感録」「浄土論講録」「柳溪小部集」「宝章訓函」「三業五念」著  
 入我園主人(にゅうがえんしゆじん) → 入我亭我入(にゅうがていがにゅう、歌舞伎) F 3 3 7 8  
 乳嶽(にゅうがく・生方) → 寛(ひろし・生方うぶかた/源、書家) F 3 7 9 0  
 F3378 入我亭我入(にゅうがていがにゅう、入我園主人) ?-? 1801(享和元) 歌舞伎劇作法書「戯財録けざいろく」著;  
 上方歌舞伎;天地人3部構成;世界を縦筋・趣向を横筋とする作劇理論、  
 作者2説①一鳳軒の説 → 五瓶(初世ごへい・並木) 1 9 4 0  
 ②馬琴の説 → 正三(2世しょうざ・並木) S 2 2 2 5  
 入居(にゅうきよ・橘) → 入居(いりい・橘、奈良麻呂男/廷臣) I 1 1 3 7  
 F3379 入空(にゅうくう) ? - ? 浄土宗三福寺僧、  
 歌人;1443兼良「前撰政治家歌合」参加;堯孝らと、  
 [のどかなる池のこころの藤なみも昔にかへる宿の春風](前撰政治家歌合;40番後春)  
 F3380 入江(にゅうこう) ? - ? 俳人;1773几董「明鳥」1句入、  
 [入相いりあひにかねて覚悟や三井の秋](あけ鳥;229/覚悟していた晩鐘の侘びしさを実感)  
 入西(にゅうさい・敬蓮社) → 入阿(にゅうあ;法諱、浄土僧) F 3 3 7 3  
 入斎(にゅうさい・鳥山) → 芝軒(しげん・鳥山とりやま、書家/詩人) D 2 1 4 5  
 入正院(にゅうしょういん) → 昇道(しょうどう;法諱、真宗大谷派僧) L 2 2 2 0  
 乳緒子(にゅうしよし・芝原) → 乳緒子(ちおこ・芝原しばら、国学/歌人) M 2 8 6 7  
 入星賑園(にゅうせいしんえん) → 千郷(ちさと・武藤むとう/嶋原、国学/歌) N 2 8 6 4  
 入楚(にゅうそ) → 入楚(にっそ・鈴木、俳人) E 3 3 8 3  
 入素(にゅうそ) → 入素(にっそ・桑谷山人、俳人) E 3 3 8 4  
 入中(にゅうちゅう) → 梅隣(ばいりん・平元、医/詩歌/俳) C 3 6 2 6  
 乳寶(にゅうとう;初道号) → 鉄面(てつめん;道号・寂鍊;法諱、黄檗僧) C 3 0 6 3  
 入道右大臣(にゅうどううだいじん;続拾) → 定雅(さだまさ・花山院/藤原、歌) C 2 0 4 3  
 入道右大臣(にゅうどううだいじん;家集) → 頼宗(よりむね・藤原、堀河右大臣) J 4 7 8 1  
 入道関白前左大臣(にゅうどうかんぱくさきのさだいじん;新続古) → 師嗣(もろつぐ・二条、歌人) H 4 4 4 4

入道九宮(にゅうどうくのみや)→ 昭平親王(しょうへいしんのう、天台僧/歌) B 2 2 4 4  
 二酉堂亭(にゅうどうてい) → 関月(かんげつ・薮しとみ/柳原、絵師) D 1 5 5 8  
 入道前右大臣(にゅうどうさきのうだいじん; 続古)→ 定雅(さだまさ・花山院/藤原) C 2 0 4 3  
 入道前右大臣(にゅうどうさきのうだいじん; 続後拾)→ 家定(いえさだ・花山院/藤原) 1 1 3 5  
 入道前大おほいまうち君(にゅうどうさきのおほいまうちぎみ)→ 師長(もろなが・藤原) H 4 4 6 1  
 入道前関白左大臣(にゅうどうさきのかんぱくさだいじん; 風雅集)→ 道教(みちのり・九条) C 4 1 2 4  
 入道前関白左大臣(にゅうどうさきのかんぱくさだいじん; 新後撰)→ 師忠(もろただ・二条) H 4 4 3 7  
 入道前関白左大臣(にゅうどうさきのかんぱくさだいじん; 新続古)→ 師良(もろよし・二条、是心院/歌) I 4 4 1 2  
 入道前関白太政大臣(にゅうどうさきのかんぱくだいじょうだいじん; 千載)→ 基房(もとふさ・藤原) E 4 4 2 0  
 入道前関白太政大臣(にゅうどうさきのかんぱくだいじょうだいじん; 新古)→ 兼実(かねざね・九条) 1 5 2 9  
 入道前関白太政大臣(にゅうどうさきのかんぱくだいじょうだいじん; 連歌)→ 持通(もちみち・二条) B 4 4 7 1  
 入道前左大臣(にゅうどうさきさだいじん; 玉葉)→ 公衡(きんひら・西園寺さいおんじ/藤原) E 1 6 6 1  
 入道前摂政左大臣(にゅうどうさきせつしょうさだいじん; 続後撰)→ 道家(みちいえ・九条、光明峯寺殿) B 4 1 1 7  
 入道帥の上(にゅうどうのそちのうえ)→ 前典侍(さきのすけ、源経頼女/資仲室) G 2 0 4 7

入道前太政大臣(にゅうどうさきのだいじょうだいじん; 後拾/詞花)→ 道長(みちなが・藤原) 4 1 1 3  
 入道前太政大臣(にゅうどうさきのだいじょうだいじん; 千載)→ 師長(もろなが・藤原) H 4 4 6 1  
 入道前太政大臣(にゅうどうさきのだいじょうだいじん; 新勅)→ 公経(きんつね・西園寺) E 1 6 3 5  
 入道前太政大臣(にゅうどうさきのだいじょうだいじん; 続古)→ 実氏(さねうじ・西園寺) 2 0 3 2  
 入道前太政大臣(にゅうどうさきのだいじょうだいじん; 新後撰/玉葉/続千)→ 実兼(さねかね・西園寺) 2 0 3 7  
 入道前太政大臣(にゅうどうさきのだいじょうだいじん; 続後拾)→ 実重(さねしげ・三条) D 2 0 0 5  
 入道前太政大臣(にゅうどうさきのだいじょうだいじん; 新千載)→ 公賢(きんかた・洞院とういん) 1 6 5 9  
 入道前太政大臣女(にゅうどうさきのだいじょうだいじんのむすめ)→ 公守女(きんもりのむすめ・洞院) E 1 6 8 0  
 入道前太政大臣女(にゅうどうさきのだいじょうだいじんのむすめ)→ 実兼女(さねかねのむすめ・西園寺) C 2 0 9 8  
 入道前内大臣(にゅうどうさきのないだいじん; 新千)→ 公秀(きんひで・三条/正親町三条) E 1 6 5 8  
 入道前内大臣(にゅうどうさきのないだいじん; 新拾)→ 公重(きんしげ・西園寺さいおんじ) E 1 6 1 0  
 入道前内大臣(にゅうどうさきのないだいじん; 新続古)→ 満季(みつすえ・洞院/藤原) D 4 1 6 0  
 入道左大臣(にゅうどうさだいじん; 続古)→ 実房(さねふさ・藤原・三条; 転法輪) 2 0 4 5  
 入道摂政(にゅうどうせつしょう; 後拾遺)→ 兼家(かねいえ・藤原) 1 5 5 9  
 入道内大臣(にゅうどうないだいじん; 続拾)→ 通成(みちなり・中院なかのいん/源) C 4 1 1 2  
 入道内大臣(にゅうどうないだいじん; 新千)→ 公秀(きんひで・三条/正親町三条) E 1 6 5 8  
 入道帥の上(にゅうどうのそちのうえ)→ 前典侍(さきのすけ、源経頼女/資仲室) G 2 0 4 7  
 入道兵部卿(にゅうどうひょうぶきょう)→ 昭平親王(しょうへいしんのう、天台僧/歌) B 2 2 4 4

- F3381 丹生王(にゅうのおおきみ) ? - ? 奈良中期万葉二期歌人/長歌反歌420-22: 挽歌を詠、  
 [逆言およづれの狂言たはこととかも高山の巖の上に君が臥こやせる](万葉; 3421、  
 石田王いはたのおほきみの没後に作る歌/逆言狂言は人の訃報に驚く時の用法/420は長歌)、  
 丹生女王と同一? → 丹生女王(にゅうのおおきみ) 3 3 0 6  
 3306 丹生女王(にゅうのおおきみ) ? - ? 739従四上/50正四上、万葉二期歌人3首:  
 553/554/1610(これらは728大宰帥赴任後の旅人に贈る歌)、  
 旅人の806/807は丹生女王宛の贈歌/808/809は丹生女王の返歌と考えられる、  
 [古人の飲たまへしめたる吉備の酒病まずすべなし貫實ぬくす賜たばらむ](万葉; 554、  
 折角昔馴染みが下さったお酒で吐逆すると困るので用心に貫實を下さい、戯れの歌)、  
 丹生王(にゅうのおおきみ)と同一? → 丹生王(にゅうのおおきみ) F 3 3 8 1  
 丹生の屋(にゅうのや) → 静野(清野しずの・荒井、国学者/教育) U 2 1 0 5  
 乳父子(にゅうふし) → 維舟(いしゅう・松江まつえ重頼、俳人) 1 1 9 2  
 入仏(にゅうぶつ; 字) → 明遍(みょうへん; 法諱、信西男/真言僧) G 4 1 6 8  
 乳熊道人(にゅうゆうどうじん)→ 悟心(ごしん; 道号・元明; 法諱、黄檗僧) D 1 9 0 2  
 如意庵(にょいあん) → 一阿(いちあ・立川、俳人) F 1 1 9 3

- 如意庵(にょいあん;号) → 行願(ぎょうがん;法諱、真言僧) N 1 6 7 1  
 如意庵(にょいあん) → 去何(きよか・渡辺わたなべ、国学者/俳人) H 1 6 1 0  
 如意園(にょいえん) → 隆正(たかまさ・大国/山本/野之口/今井、国学/歌) 2 6 1 7  
 如意金剛(にょいこんごう) → 宥性(ゆうしょう;法諱・智友、真言僧) C 4 6 5 8  
 如意斎(にょいさい) → 千風(ちかぜ・佐野さの/藤原、神職/国学) M 2 8 6 1  
 如意山人(にょいさんじん) → 隆正(たかまさ・大国/山本/野之口/今井、国学/歌) 2 6 1 7  
 如意寺(にょいじ) → 隆弁(りゅうべん;法諱、天台大僧正/歌人) F 4 9 5 6  
 如意寺僧正(にょいじそうじょう) → 道瑜(どうゆ、天台大僧正/歌人) H 3 1 5 7  
 如意寺満意(にょいじまんい) → 満意(まんい;法諱、門跡/大僧正/歌人) K 4 0 3 6  
 如意珠院(にょいしゅいん;法号) → 里之(さとゆき・柳沢やなぎさわ、藩主/俳人) K 2 0 5 7  
 如意太郎(にょいたろう・杉浦) → 盛樹(しげき・杉浦さざうら、陪臣/歌人) Z 2 1 0 1  
 如一(にょいつ;法諱) → 如空(にょくう;法諱/上人、浄土僧) F 3 3 8 8  
 如一(にょいつ;法諱) → 即非(そくひ;道号・如一、黄檗僧) D 2 5 5 6  
 如一(にょいつ・長谷川) → 延年(えんねん・長谷川、剣術/篆刻家) B 1 3 3 1  
 如意堂(にょいどう) → 淙庵(そうあん・津村/円、商家/随筆/歌) 2 5 4 7  
 如意老(にょいろう) → 鸞太(らんたい・中村なかむら、俳人) C 4 8 8 9  
 二葉(にょう) → 二葉(ふたば、俳人) H 3 8 5 9  
 女院の大式(にょういんのだいに) → 大式(だいに・二条太皇太后宮) B 2 6 9 9  
 女護島(にょごがしま) → 華陽(かよう・高橋たかはし/修姓高、儒者) H 1 5 5 3  
 二葉子(にょうし) → 二葉子(じょうし・神田、俳人) N 2 1 1 6  
 繞指道人(にょうしどうじん) → 鉄石(てつせき・藤本、勤王/天誅組) C 3 0 5 1
- F3382 如雲(にょうん;号・小嶋こじま)? - ? 京の俳人:如泉門、信徳/重徳と交遊、  
 1684「五百韻三哥仙ならひよゝし」編  
 如雲(にょうん・) → 如雲(じょうん、歌人、隠者) V 2 2 4 7  
 如慧(にょえ→にょけい;法諱) → 忍仙(にんせん;道号・如慧、黄檗僧) G 3 3 6 1
- F3383 如円(にょえん;法諱・眞空;字、如信男or善鸞男)?-? 鎌倉期真宗深草寺僧、歌;「人家集」入、  
 「秋山集」「新修桑門集」撰(ともに散佚)、  
 勅撰4首;続拾遺492/新後撰1559/風雅1831/新拾遺861、  
 [吹き送る嵐を花の匂ひにて霞にかをる山桜かな](続拾;雑春492)  
 如円(にょえん) → 実定(さねさだ・後徳大寺/藤原、左大臣/歌) 2 0 3 8  
 如縁(にょえん;字) → 阿一(あいち;法諱・如縁、真言律僧/歌) 1 0 5 2
- F3384 如回(にょかい) ? - ? 摂津俳人;1692「合類」編、1702轍士「花見車」入、  
 [鬼百合は仏のつけし名なるべし](花見車;166)
- F3385 如海(にょかい;法諱・性寂;字) 1672-1735 64歳 河内丹南郡東野村の真言僧;摂津妙法寺契沖門、  
 出家/のち延命寺浄厳門、1681安祥寺流伝法灌頂の阿闍梨の位/妙法寺住持、  
 1664「諸儀軌訣影」1709「秘密儀軌随聞記」著、「諸儀軌口授目録」「大疏伝受聞記」著  
 [如海(;法諱)の号] 頭陀/遊六乞士/持宝
- F3386 如海(にょかい;法諱) ? - 1749 越前時宗長崎道場称念寺僧:玄秀門、山形光明寺32世、  
 1713「時宗要義集」著  
 如海(にょかい;初法諱) → 海如(かいにょ;法諱・興雲、真言僧) J 1 5 0 4  
 如海(にょかい) → 日妙(にちみょう;法諱・大円院、日蓮僧) D 3 3 2 4  
 如蟹(にょかい・藤栄軒) → 如蟹(じょかい・藤栄軒、歌人/紀行) M 2 2 1 9  
 如覚(にょかく;法諱・多武峯少将入道) → 高光(たかみつ・藤原、歌人) 2 6 1 8  
 如格(にょかく;法諱) → 超宗(ちょうしゅう;道号・如格、臨済/黄檗僧) I 2 8 6 8
- F3387 如環(にょかん;法諱・無端;字、中村甚左衛門男) 1695-1761 67 武州多摩郡秋留郷の真言僧:  
 1705同郷大光寺了盛門;出家、1732大悲願寺住職/木活字で論疏を印行、  
 「僧尼服忌決疑篇」「年忌月忌等追服回向本説論」「新画大涅槃像記」著、  
 「和国葬礼奠法属积由来」著  
 如観(にょかん) → 如是観(によぜかん・雲窓、真宗僧/国学) G 3 3 0 3  
 如環(にょかん・華文軒) → 如環(じょかん・華文軒、読本作者) C 2 2 2 6

- 如閑(によかん・喜多見) → 如閑(じよかん・喜多見、読本作者) C 2 2 2 7  
 如閑(によかん・じよかん・永原) → 孝治(たかはる・永原/赤座、藩士/連歌) M 2 6 9 0  
 如環(によかん・じよかん・中西) → 敬房(たかふさ・中西、書肆/暦算) N 2 6 1 3  
 如願(によがん;法名) → 秀能(ひでとう・藤原、武家/廷臣/歌人) 3 7 0 9  
 女几山(によきさん) → 采菊(さいきく・小宅おやけ、藩士/儒者) G 2 0 6 2  
 如鏡上人(によきょうしやうにん) → 祖円(そえん・規庵、臨濟宗僧) D 2 5 3 6  
 如吼(によく;) → 獅岩(しうがん;道号・如吼、黄檗僧) P 2 1 8 8  
 如愚(によぐ) → 朴庵(ぼくあん・佐藤、独笑庵、詩/俳人) C 3 9 8 6
- F3388 如空(によくう;法諱/別法諱;如一、上人、大江家光男)1262-132160 初め南禅寺で儒典を修学、  
 父没後;浄土僧;知恩院道意門;出家/良空/良忠門、伏見・後伏見・後醍醐天皇に招聘;参内、  
 知恩院6世/8世、1320花園上皇に選挙本願念仏集を講義、上人/歌人:  
 勅撰4首;続千載(1022)風雅(2097)新千載(886)新後拾遺(1467)、  
 [かねて思ふ迎への雲のあらましも心にうかぶ西の山の端](続千;釈教1022)、  
 [如空(;法諱)の幼名/号]幼名;法喜丸、号;仏元眞応智慧如一国師
- 如空(によくう;号) → 英心(えいしん;法諱・如空、真言律僧) D 1 3 0 3  
 如空(によくう;法名) → 基孝(もとたか・持明院/藤原、廷臣/書/連歌) C 4 4 7 8  
 如空(によくう・長蓮社観音浄業) → 祐崇(ゆうそう;法諱、浄土僧) D 4 6 3 1  
 如空居士(によくうこじ) → 晁斎(ぎやうさい・河鍋かわなべ、絵師) N 1 6 8 5  
 女蔵人内匠(によくろうどのたくみ) → 内匠(たくみ、木工蔵人、歌人) O 2 6 1 7  
 女蔵人兵庫(によくろうどのひやうご) → 兵庫(ひやうご・兵庫蔵人、歌人) F 3 7 2 1  
 女蔵人参河(によくろうどのみかわ) → 三河(みかわ、平安中期女蔵人、歌人) 4 1 6 2  
 如慧(によけい・忍仙) → 忍仙(にんせん・如慧、黄檗僧) G 3 3 6 1  
 如卿(によけい;法名) → 秀賢(ひでかた・大屋おおや/藤原、廷臣/歌) C 3 7 9 3  
 如恵(によけい;法名) → 秀経(ひでつね・大屋おおや/藤原、廷臣/歌) D 3 7 2 6
- F3389 如月(によげつ;法諱) ? - ? 僧;法師/歌人:1384成立新後拾遺集1504、  
 [法の道いるべき門はかはれどもつひには同じ悟りとぞ聞く](新後拾;釈教1504)
- 如月(によげつ→じよげつ;道号) → 壽印(じゆいん;法諱・如月、臨濟僧) G 2 1 6 7
- F3390 如幻(によげん;法諱・明春;字、往還老人;号、俗姓;宇都宮)1634-9461 撰津茨木の真宗僧、  
 大坂天満の本泉寺に出家/1660以降伊勢専修寺で宗祖の真蹟の謄写に専念、  
 1685上京;仏光寺で講説/長泉寺住、門弟の請寺に甥寺各地に布教、  
 「近世往生伝」「大論輯要」「安心詮要鈔」「勸化撮要」「新発意用心集」「人倫亀鏡」外著多数
- F3391 如幻(によげん;道号・夢庵むあん;法諱、脱空妙解禅師)1660-173980 陸中気仙郡吉浜の臨濟僧:  
 瑞巖寺3世東搏鵬雲門、のち瑞巖寺6世、のち五養庵を開き退隱、  
 1716「松島諸勝記」、「開山洞水和尚伝」「松島三代開山伝」著
- 如元(によげん;法諱・太山) → 太山(たいざん;道号・如元、曹洞僧) K 2 6 0 2  
 如幻(によげん;字・道空) → 道空(どうくう;法諱・如幻、真言僧) C 3 1 9 6  
 如幻(によげん;号) → 巨海(こかい;道号・宗如;法諱、臨濟僧) L 1 9 8 2  
 如幻閣(によげんかく;号) → 性海(しょうかい;法諱、本願寺派僧) H 2 2 6 0  
 如幻斎(によげんさい) → 箕山(きざん・藤本、俳/古筆家) 1 6 1 3  
 如吼(によこう→によく;法諱) → 獅岩(しうがん;道号・如吼、黄檗僧) P 2 1 8 8  
 女好庵主人(によこうあんしゅじん) → 金水(きんすい・松亭、人情/読本) 1 6 6 3  
 女高山(によこうざん) → 千代(ちよ・松下まつた/亀割、商家/宗教) N 2 8 5 3  
 如杉(によざん・宮尾) → 如杉(じよざん/によざん・宮尾、俳人) Q 2 2 4 3
- F3392 如自(によじ・石井いし、名;忠俊、正純男)1635-170167 肥前佐賀藩主鍋島家の御歌書役、  
 俳人:西山宗因門、初期佐賀俳壇の中心、「一時雨」編、1676西鶴「俳諧師手鑑」入、  
 [けふぞ秋のまなこの玉に光あり](手鑑)、  
 [如自(;号)の通称/別号]通称:又右衛門、別号:朝鷓子/嘲鷓子
- F3393 如実(によじつ;法諱/初法諱;慈念・空観;字、通称;加茂[賀茂]空観)?-? 鎌倉前期真言僧:  
 真言宗醍醐寺実賢門、伝法灌頂受、山城賀茂神光院住/立法;加茂流、  
 「知袋鈔」「灌頂記」「如実上人秘記」著

- 如実(によじつ;法名) → 兼家(かねいえ・藤原、摂政/歌人) 1 5 5 9  
 如実(によじつ;字) → 亮海(りょうかい;法諱・如実、真言僧) G 4 9 7 7  
 如実庵(によじつあん) → 義彦(ぎりゅう;法諱、真宗僧) Q 1 6 5 1  
 F3394 如寂(によじやく;法諱) ? - ? 平安後期真言僧;河内法界寺の僧、  
 1184-5「高野山往生伝」著;  
 序文;元暦元1184高野山参詣時に山内往生者から逸話を聞き38名の伝記を編纂、  
 日野資長(1119-95、1181出家)と同一説あり、  
 → 資長(すけなが・日野/藤原、如寂、廷臣) C 2 3 6 2  
 F3395 如寂(によじやく;法諱、俗名;藤原秀弘、秀茂男)?-? 1251存 母;進藤光澄女、鎌倉期廷臣;左衛門尉、  
 出家;僧/歌、夫木和歌抄入、新拾遺591(障子歌;実は秀弘の祖父秀能の歌の誤入)  
 如寂(によじやく) → 資長(すけなが・日野/藤原、廷臣、「高野山往生伝」の如寂か?) C 2 3 6 2  
 如寂房(によじやくぼう) → 日満(にちまん;法諱・興円、日蓮僧) D 3 3 2 2  
 F3396 如珠(によじゆ;法諱・竜堂りょうどう;道号) 1641-1715 日向の黄檗僧;初め1650(10歳)真言寺院入;出家、  
 1664(24歳)宇治万福寺の隠元隆琦門;黄檗宗に改宗;冲虚道卓と称す、  
 1677鉄牛道機門;法嗣;竜堂元珠と称す、駿河不動院・光明寺を開山、京の浄住寺3世、  
 「竜堂禅師語録」著、  
 [竜堂如珠の初法諱/通称]初法諱;珠光/珠孝(;真言僧名)/元珠、通称;冲虚道卓  
 F3397 如宗(によじゅう;道号・了派;法諱)?-1765 但馬豊岡曹洞宗養源寺住持;雪心白癡門、  
 益堂雲甫の法嗣?、「禅戒伝耳録」編/「如宗了派和尚詩偈」「宏智禅師頌古解説」著  
 如舜(によじゆん;法名) → 具親(ともちか・源、歌人) P 3 1 7 5  
 如笑(によじょう;号) → 円猷(えんゆう;法諱、真宗高田派僧) F 1 3 4 1  
 F3398 如浄(によじょう;法諱) ? - ? 僧;法師/歌人;1346成立「風雅集」1481、  
 [風吹けばまさらぬ水も岩越えてたきつ川瀬は花の白浪](風雅;雑1481)  
 F3399 如信(によしん;法諱、善鸞男/親鸞の孫) 1235-1300 66 真宗僧;幼時より祖父親鸞門、  
 青年期;父に従い関東に下る/1280本願寺法灯継承;本願寺2世・錦織寺2世、  
 宗恵に寺務を委ね岩代大綱の庵(のちの願入寺)に隠棲、法印/権大僧都、  
 1287(弘安10)京大谷で宗恵・宗昭父子に真宗要義を伝授、常陸金沢に移住;没、如円の父、  
 「善巧撰化集」「唯信鈔議」「大原問答詞」「二十四輩帳」「本願寺成就聞書」著  
 G3300 如心(によしん・栗原くりはら、名;珍銚ちんか/通称;与右衛門) 1789-1861 73歳 広島藩船手役頭取、  
 石門心学:来応門、1851諸国総教授;53安藝歎心舎3世;広島に心学普及/57致仕;剃髪、  
 1849「秋の寝覚」「昔嘶シ」著  
 如心(によしん;法名) → 隆章(たかあき・藤原ふじわら、絵師) C 2 6 4 6  
 如心(によしん;法諱) → 如心(じよしん;法諱・法師/連歌作者) M 2 2 4 7  
 如心(によしん;道号) → 如心(じよしん;道号・中恕;法諱、臨濟僧) M 2 2 4 8  
 如心(によしん・亀田) → 如心(じよしん・亀田かめだ、神職) M 2 2 4 9  
 G3301 如水(によすい・鷲水亭りすいてい、別号;瀝蛙ちよあ)?-? 元禄1688-1704頃京の雑俳点者;雲鼓系、  
 1700「住吉御田植」編、1702「俳諧口三味線」編、  
 瀝蛙(ちよあ・華洛)と同一? → 瀝蛙(ちよあ、華洛、雑俳) H 2 8 0 5  
 如水(によすい)上記以外すべて → 如水(じよすい)  
 如須弥斎(によすやさい) → 雪象(せつぞう・公鮮、真宗本願寺派僧) L 2 4 1 7  
 如是(によぜ・伊佐) → 岑満(みねみつ・伊佐、幕臣/考証学/歌) F 4 1 5 5  
 如是(によぜ;号) → 伽陵(かりょう;字、禅僧/国学者) U 1 5 0 9  
 如是(によぜ・林) → 真人(まひと・まこと・林はやし/原、藩士/歌) R 4 0 9 0  
 如是庵(によぜあん) → 西順(さいじゆん、学僧/連歌作者) 2 0 8 3  
 如是庵(によぜあん) → 弗隠(ふつゐん;号・善寧、真言僧/歌人) D 3 8 2 5  
 如是庵(によぜあん) → 素丸(そまる・長谷川馬光、俳人) 2 5 2 9  
 如是庵(によぜあん) → 理然(りぜん・紙屋かみや、商家/俳人) B 4 9 4 1  
 如是庵(によぜあん) → 卓袋(たくたい・貝増かいます、商家/俳人) E 2 6 2 6  
 如是庵(によぜあん) → 徳布(とくふ・横山、絢堂3世/俳人) L 3 1 3 1  
 G3302 如晴(によせい;法諱、大谷派本願寺14世琢如[光瑛]7男) 1651-1722 72 近江赤野井御坊大恩寺に住、

のち常陸大網願入寺に移住、宗学に精通；初期学寮に屢々講筵を開く、  
常陸の親鸞旧跡の再興に尽力、1675「浄土論註十念私考」89「如晴筆記」著、  
「恵明院様御法語聞書」「改悔文科鈔」「円窓軒家集」「弾斥異解」「歎徳文科鈔」外著多数、  
[如晴(；法諱)の幼名/名/号]幼名；盈丸、名；瑛順/瑛旬/瑛兼、号；恵明院/円窓軒

如説院(にょぜいん) → 恵剣(えけん；法諱、真宗大谷派僧号) D 1 3 8 1

如是院(にょぜいん；号) → 大円(だいえん；法諱、真宗大谷派学僧) J 2 6 2 9

如是縁斎(にょぜえんさい) → 広通(ひろみち；石野/中原、幕臣/歌人) H 3 7 2 7

G3303 如是観(にょぜかん/如観；法諱、俗姓笹原)1762?-1832 70余歳 越後真宗円明寺の生、  
笹原家の養嗣；秋田本誓寺13世、国学/茶/陶芸/画/蹴鞠に通ず、秋田藩主歌会に参加、  
1832(天保3)没；70余歳、  
1826「和訓考」、「しらでやは」「かむりをさへ」著、蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858成立)入、  
[たが門か知らねど入りてみはやさんをりにあふちの花のゆかりに]、  
(大江戸倭歌；夏486/樗あふち誰家、見栄みやす；見てほめる)、

[如是観(；法諱)の号] 雲窓うんそう/三省堂/新々館/究章院

如是観院(にょぜかんいん；法号) → 家久(いえひさ；近衛、撰関/記録) E 1 1 9 7

如是軒(にょぜけん) → 卓袋(たくたい；貝増かいます、商家/俳人) E 2 6 2 6

如是室(にょぜしつ；号) → 雄禅(ゆうぜん；道号・宗虎；法諱、臨濟僧) D 4 6 2 8

如是住道人(にょぜじゅうどうじん) → 此山(しざん；道号・妙在；法諱、臨濟僧) T 2 1 5 3

如是仙(にょぜせん) → 可兮(かげい；蔭山かげやま、俳人) K 1 5 7 0

如是相(にょぜそう) → 山雲子(さんうんし、坂内直頼、国学/歌) E 2 0 1 2

如是弗隠(にょぜふつゐん) → 弗隠(ふつゐん；号・善寧、真言僧/歌人) D 3 8 2 5

G3304 如泉(にょせん/じよせん・斎藤さいとう、旧姓；香山)1644-1715 72歳 和泉堺住/京の俳人；梅盛門；貞門派、  
転向し談林派；1679高政門；79高政「誹諧中庸姿つねのすがた」連中、四条道場内に結庵；真珠庵、  
1680自悦「洛陽集」入1681信徳「誹諧七百五十韻」参加、元禄期京俳壇の実力者、  
雑俳点者/漢和俳諧にも活動、1682如扶「三ヶ津さんかのつ」/85風瀑「一楼賦」入、  
1689作法書「手斧屑ておのくず」(；季寄)、「誹諧番匠童」著/90「誹諧柱立」「俳諧世話字」著、  
1692「すり火うち」/1700「松はやし謡漢和」03「祇園奉納一万句」04「滝まふて」編  
1707「三ツ物」編、「重宝記」「池水亭」「狂歌句式」著、外編著多、1700笑種「続古今誹手鑑」入、  
[卯の花や草紙読まるゝ夜の窓](続古今誹手鑑/初夏の夜窓辺で草紙を読むは若い女か)、  
[如泉(；号)の名/通称/別号]名；朝三ちようさん、通称；甚吉、別号；真珠庵

如仙(にょせん・じよせん・渡辺) → 広輝(ひろてる；渡辺わたなべ、絵師) G 3 7 4 8

如禅(にょぜん) → 如禅道人(にょぜんどうじん・賢雄) G 3 3 0 5

G3305 如禅道人(にょぜんどうじん；号、俗名；加藤太一/猪吉)1770-? 1821存 尾張春日井の浄土僧、  
江戸芝増上寺に修学、1794尾張の阿弥陀寺住職/書・詩歌に通ず、諸国遊歴、  
1817「印法正伝譜附如禅道人略伝」、1821「知己詩囊初編」編、  
「印法正伝」「古法筆道心画秘伝附説」著、

[如禅道人の別号/法諱/字/法名]別号；瞻阿せんあ、法諱；賢雄、字；観覚、法名；曜蓮社明誉みょうよ

如沢(にょたく；法諱) → 霖竜(りんりゅう；道号・如沢、黄檗僧) K 4 9 8 4

G3306 如達(にょたつ・鏡花坊) ? - ? 能登の僧；儒/本草家、俳人、  
1765俳論「華月一夜論」著(；綾足に反駁)、

真宗僧智洞と同一人か → 智洞(ちどう；能登菅原明専寺住職、真宗唱導家) E 2 8 9 3

如達(にょたつ・鏡花坊；号) → 智洞(ちどう；法諱、本願寺派僧/唱導本) E 2 8 9 3

如竹(にょちく) すべて → 如竹(じよちく)

如仲(にょちゅう；道号) → 如仲(じよちゅう；道号・天閻；法諱、曹洞僧) M 2 2 6 9

如亭(にょてい) すべて → 如亭(じよてい)

如泥(にょでい・小林) → 如泥(じよでい・小林、指物師) M 2 2 7 0

如鉄(にょてつ・脇田) → 如鉄(じよてつ・よちよる・脇田わきた、藩士/歌) M 2 2 7 2

如鉄(にょてつ；号) → 皎然(こうぜん；法諱、天台僧/国学者) Q 1 9 8 3

如電(にょでん・大槻) → 如電(じよでん・にょでん・大槻おおつき、漢学者) U 2 2 7 2

如稻(にょとう) → 如稻(じよとう、俳人) C 2 2 8 7

- 如桃(にょとう) → 如桃(じょう、俳人) M 2 2 7 3
- G3307 如道(如導にょどう;法諱・空如くうにょ;号、平たいら康敏男/康頼の曾孫) 1253-1340<sup>88</sup> 真宗僧、  
1255(3歳);親鸞門;剃髪、1282三河兼照寺円善門;真宗教義を修学、三門徒派専照寺2世、  
1285越前に布教、93足羽の町に専修寺を創建、1311本願寺3世宗昭より教行信証を伝受、  
のち秘事法門を唱え本山から破門、門下;如覚・道性・祖海ら、  
「真問真答鈔」「愚問記返礼」著、  
[如道(如導;法諱)の幼名/通称]幼名;珠千代丸、通称;大町如道
- 如道(にょどう;法名) → 景家(かげいえ・藤原/高野[小田]、武家/歌人) B 1 5 8 3
- G3308 如得(にょとく;法諱・竜水りゅうすい;道号)?-1787 曹洞僧;天桂伝尊門、下野光眞寺19世、  
岩代長祿寺22世/紀伊高松寺10世/摂津陽松庵3世、1786「老婆禪」、「竜水和尚仮名法語」著
- 如日(にょにち;法諱・照空) → 空阿(くうあ;号、真言僧/俳/歌) 1 7 3 2
- 如々(にょにょ) → 鮮妙(せんみょう;法諱・利井かがい、真宗僧) N 2 4 1 4
- 如々(にょにょ) → 義敬(ぎけい;法諱、天台僧/歌人) U 1 6 0 8
- 如々庵仏白(にょにょあんぶつぱく) → 霞夫(かふ・芦田、醸造業/俳人) D 1 5 1 9
- 如々院(にょにょいん) → 光映(こうえい;法諱・竹林坊、天台僧) H 1 9 5 7
- 如々子(にょにょし;号) → 光天(こうてん;法諱・義彦;字、真言僧) K 1 9 7 4
- 如々房(にょにょぼう;号) → 明胤(みょういん;法諱、天台僧) G 4 1 1 4
- 如忍(にょにん;初法諱・慈仙) → 忍仙(にんせん;道号・如慧、黄檗僧) G 3 3 6 1
- 如濃(如濃にょのう・刑部) → 如濃(じょのう・刑部おさかべ、家士/記録) M 2 2 7 5
- 如篋(にょはく・須藤) → 如篋(じょはく・須藤すどう、俳人) M 2 2 7 6
- 如白(にょはく・塩川) → 如白(じょはく・塩川しおかわ、俳人) C 2 2 9 0
- 如帆(にょはん) → 如帆(じょはん、俳人) M 2 2 7 8
- 如畔(にょはん) → 如畔(じょはん、俳人) C 2 2 9 1
- F3371 如風(にょふう) ? - ? 江前期京の俳人;季吟門、のち談林の如泉にょせん門、  
談林の高政と連句興行;1677「後集絵合千百韻」79「誹諧中庸姿つねのすがた」に一座、  
ただし1680以降の歳旦で湖春(季吟男)と三つ物(;季吟門から離脱はしていない)、  
1681「誹諧七百五十韻」入(;江戸桜の巻脇句)、  
[東叡山の麓なる春](江戸桜脇句/発句;信徳[江戸桜志賀の都はあれにけり])
- 如風(にょふう;号) → 如風(じょふう、文英和尚、僧/俳人) C 2 2 9 3
- 如風(にょふう;号) → 韶舜(しやうしゆん;法諱・薫契、天台僧) 2 2 6 5
- 如風尼(にょふうに) → 如風尼(じょふうに、尼僧/狂歌) D 2 2 7 2
- 如嘿(にょく;法諱) → 無為庵(むいあん;道号、臨濟僧/陽明学) 4 2 0 0
- 如髮(にょはつ・谷口) → 田女(でんじょ・谷口、俳人) D 3 0 8 1
- G3309 如瓶(にょへい・三好みよし) ? - ? 江中期大阪俳人;才鷹門、1768「明和五年歳旦」編  
女別当(にょべつとう・皇后宮) → 別当(べつとう・二条太皇太后宮、歌人/物語) B 2 7 0 3
- G3310 如寶(にょほう;法諱・富春ふしゆん/豊春;字)?-? 江中期元文-宝暦1736-64頃真言僧;  
大和長谷寺の学僧/一藤まで進む;異義を唱え追放、大念仏寺に逃亡、のち僧正、  
1747「大日経住心品疏専心鈔」51「大日経住心品疏講録」、「六合釈懸談」外著多数
- 如宝(にょほう;法諱) → 楚州(そしゅう;道号・如宝;法諱、黄檗僧) J 2 5 8 4
- 如法壽院(にょほうじゆいん) → 政嗣(まさつぐ・二条にじゅう/藤原、関白) D 4 0 8 3
- G3311 如雄(にょゆう;法諱、俗名;尾藤資広/本姓;藤原)?-? 南北期武士;弾正左衛門尉、  
1359以前に出家(法師)、歌;続現葉集入、「資広百首詠歌」著、新千載778/新拾遺1136、  
[東路の関はいかなるとぞしにてまた古郷にかへらざるらむ](新千;羈旅778)
- 如来山人(にょらいさんじん) → 平洲(へいしゅう・細井、儒者) 3 9 0 2
- G3323 如備子(にょいし、斎藤さいとう、名;親盛、盛広の長男) 1603?-74<sup>72</sup> 出羽山形藩主最上家親の家臣、  
若年より主君の側近に出仕/1617家親急死;藩主相続問題で藩中紛擾;1622改易、父と浪人、  
祖父出身地越後へ;父没/諸方遊歴;江戸で一時出仕;続かず再び浪人/出仕を断念、  
江戸品川町裏河岸の鍋町住;医を業とし母・妻子眷属10余人を養う、  
仮名草子:1628-36「可笑記」成稿(1642刊)で評判、大名旗本の諸家に招かれ歌・見聞を講釈  
1644頃参禅/1655「百人町記」著、息子秋盛ときりの陸奥二本松藩出仕に伴い一家二本松移住、

1680「酔玉集」、「百人一首鈔」著、晩年は重頼門下の二本松の俳人たちと交流、  
 [人の口は一切善悪のいで入りする門戸也](可笑記)、  
 [如儺子(；号)の通称/別号]通称;清三郎、別号;以伝/意伝/雪朝庵/土峰、  
 法号;武心土峰居士

如理(にょり;法名) → 家平(いへひら・近衛、関白/歌人/連歌) 1 1 5 8  
 如隆(にょりゅう;法諱) → 良忠(りょうちゅう;道号・如隆、黄檗僧) I 4 9 8 9  
 如輪上人(にょりんしょうにん) → 義空(ぎくう;法諱、天台/のち真言僧) K 1 6 0 0  
 如輪上人(如琳にょりんしょうにん) → 澄空(ちようくう;法諱、真言僧/歌人) N 2 8 9 2  
 如連(如蓮にょれん) → 北鼎(ほくてい;号、絵師) F 3 9 9 0  
 如蓮華道人(にょれんげどうじん) → 御杖(みつえ・富士谷、成章男、国学/歌) 4 1 2 3

G3312 如露(にょろ) ? - ? 江中期江戸雑俳点者、1758刊「如露評万句合」、  
 1762「風丈如露評万句合評」編

二楽(にらく・山本) → 雪亭(せつてい・山本やまと、棋士;碁) L 2 4 2 5  
 二楽軒(にらくけん、二楽院、書家) → 雅康(まさやす・飛鳥井/藤原、歌学/蹴鞠) 4 0 2 2  
 二楽亭(にらくてい) → 弘斎(こうさい・本郷ほんごう、藩士/書) I 1 9 8 4  
 蒜園(にらその) → 広道(ひろみち・萩原、国学者) 3 7 2 8  
 二栗(にりつ・久野) → 二栗(じりつ・久野くの、篆刻家) M 2 2 9 7  
 二柳(にりゅう) → 二柳(じりゅう・勝見、俳人) D 2 2 2 0  
 二流(にりゅう) → 二流(じりゅう・鶴亭/稻舎、俳人) Q 2 2 4 1  
 二流間主(にりゅうかんしゅ) → 東随舎(とうずいしゃ、戯作者/狂歌) F 3 1 8 6  
 二竜窟(にりゅうくつ) → 乙語(おつご・佐方さかた、藩士/俳人) D 1 4 1 7  
 二柳斎(にりゅうさい/二柳亭) → 吉信(よしのぶ・紀き/藤井ふじい、絵師) F 4 7 6 3  
 二良(にりょう・藤) → 珍彦(うずひこ・藤とう/藤原/鍋島、神職) E 1 2 7 9  
 楡園(にれぞの・古山) → 千丈(ちたけ・古山こやま、藩士/国学/歌) M 2 8 4 9  
 楡堂(にれどう/ゆどう・竹村) → 悔斎(かいさい・竹村たけむら、藩士/儒者) E 1 5 3 8  
 二露庵(にろあん) → 文兆(ぶんちよう・岩下、俳人) G 3 8 2 1  
 二六庵(初世にろくあん) → 竹阿(ちくあ・北窓庵、俳人) C 2 8 4 5  
 二六庵(2世にろくあん) → 一茶(いっさ・小林、俳人) 1 1 2 1  
 二六庵(にろくあん) → 竹外(ちくがい・深沢、俳人) C 2 8 7 6  
 庭五郎(にわごろう・井伊) → 直中(なおなか・井伊い、藩主/歌人) B 3 2 9 1

G3384 庭桃丸(にわのももまる) ? - ? 狂歌作者;1785「後万載集」1首入;  
 [諸共にあはれと思へお月さま国のなじみはおまへばかりじゃ]

庭麻呂(にわまる・飯田/橋) → 守部(もりべ・橋、国学者/歌人) 4 4 2 8

H3335 庭能(にわよし・横浜よこはま、別名;庭慶/清)?-1830 陸奥盛岡の国学者、歌人;盛岡藩士の三輪秀福門

任(にん・中村) → 牛荘(ぎゅうそう・中村、藩士/儒者) M 1 6 7 7  
 任(にん・山内) → 致亭(ちてい・山内やまうち、儒者/詩) E 2 8 8 0  
 任(にん・館/巻) → 菱湖(りょうこ・巻まき/館/池田/小山、書家) H 4 9 4 2  
 任(にん・林/亀田) → 商斎(しょうさい・亀田/林、商家/詩歌) J 2 2 0 0  
 任(にん・立原) → 杏所(きょうしょ・立原たちばら、藩士/絵師) C 1 6 5 8  
 任(にん・奥村) → 六石(りくせき・奥村おくむら、藩士/儒者) 4 9 7 7  
 任(にん・興野) → 成信(なりのぶ・興野おきの、藩士/歌人) L 3 2 5 1  
 忍(にん・林/北向) → 雲竹(うんちく・北向きたむき/野田、書家) D 1 2 9 5  
 忍(にん・志賀) → 理斎(りさい・志賀しが、幕臣/漢学/狂歌) B 4 9 0 8

G3313 任阿(にんあ) ? - ? 南北期僧/連歌作者;、

1385良基「至徳二年石山百韻」参加(賦何船連歌;6句)、

[すててわが心とや身を忘るらん](石山百韻;初裏1

世を捨てた心に身のさびしきをも忘れ得るか/前句;刈田ののちの山ぞさびしき)

G3314 任阿(にんあ) ? - ? 江中期大阪生玉浄土宗九応寺住僧、

1764「浄業修行次第」65「念仏勤行略廻向同修百万遍之式」67「浄業修行次第附録」著

H3368 忍阿(にんあ;法諱、) ? - ? 江中期;京の隠士/歌人;宮川松堅門、

1722松堅[倭譚五十人一首]入、  
[けふの日もはや入りあひとときく鐘に急がれ出づる山の端の月]、  
(倭譚五十人一首;23/月出山)

- G3315 **忍阿**(にんあ;法諱・常寂;字、号;玄亀/悦浄院)1787-185872歳 伊勢河芸郡真宗高田派金光寺住職、  
初め華嚴天台等を修学/のち伊勢磯山専照寺の法定門;宗学を修学、1833専照寺講師職、  
国学;富樫広蔭門、歌人;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
「浄土和讃聞記」「愚禿鈔聞記」「略書随聞記」「論註随聞記」「御書講義」外著多数、  
[夜もすがら嵐にさえし在明の月の行方に鳴く千鳥かな](大江戸倭歌;冬1204/暁千鳥)  
忍阿(にんあ・即蓮社) → 的門(てきもん;法諱・法嚴、浄土僧) C 3 0 0 8  
仁庵(にんあん) → 愚谷(ぐこく・吉田よしだ、儒者) C 1 7 3 7  
仁庵(にんあん・吉岡) → 恕翁(じょう・吉岡よしおか、藩医) M 2 2 1 8
- G3316 **忍市**(にんいち) ? - ? 俳人;1690北枝「卯辰集」入、  
[菽見つゝゆけば此の野の祭哉](卯辰集;三342/里人の秋祭りの景)  
任運子(にんうんし;号) → 江雲(かうん;道号・宗竜;法諱、臨濟僧) H 1 9 4 2  
仁恵(にんえ→にんけい;法諱) → 岩坊(いわのぼう;号・仁恵、真言僧/連歌) I 1 1 4 5
- H3367 **忍永**(にんえい;法諱、) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、  
歌人;1237刊素俊撰[檜葉集]3首入、  
[承安三(1173)年の歌合に花の心を、  
山もりよ花みる人にめかれすな我なればこそをりてかへらね](檜葉;春53)
- G3317 **仁英**(にんえい;道号・省輔(せいほ)皓輔;法諱)?-1537 戦国期;臨濟僧;月溪省心門;法嗣、  
1533円覚寺150世(151世?)、「雪玉集」「仁英和尚語録」著  
仁焉子(にんえんし・向井) → 元端(げんたん・向井、去来の兄/医者) F 1 8 0 2  
仁応(にんおう→にんのう;法諱) → 大徹(だいてつ;道号・仁応、曹洞僧) K 2 6 7 1  
仁翁(にんおう・北尾) → 辰宣(ときのぶ・北尾、絵師) J 3 1 7 2  
仁翁(にんおう・鈴木) → 義準(ぎじゆん・鈴木すげき、浄土僧/国学) U 1 6 5 3  
忍翁(にんおう・吉川) → 従安(よりやす・吉川よしかわ、幕臣/神道) L 4 7 4 3
- G3318 **仁海**(にんかい/千心;法諱、宮道惟平男)954?-104693 母;藤原惟岳女、和泉真言僧/高野山;雅真門、  
上洛;延命院元杲(げんこう)門;990伝法灌頂/山城小野曼荼羅寺開/祈雨法効験、1033東寺一長者、  
1038僧正/43神泉苑で150日余の干天に降雨;雨僧正、「祈雨日記」「大明集」「小野大鈔」外著多、  
[仁海の通称] 小野僧正/雨僧正/雨海僧正/人水僧正/あめの僧都
- G3319 **忍海**(にんかい;法諱・曇譽/海雲;法名)1696-176166 江戸芝浄土宗増上寺宝松院9世、歌/画に長ず、  
関通「和字絵入選集」の画図担当、「当麻変相私記」著、1741「浄土仏祖図録」画、  
1748「阿弥陀経随聞録」編/59「一枚起請親聞録」、「梵網菩薩戒品精義」「有山堂画譜」著  
忍介(にんかい;法諱) → 月照(げつしょう;字、法相僧/尊攘活動) B 1 8 0 6
- G3320 **忍鑑**(にんがい;法諱・恵南;字、空華庵/空華子)1670-175283歳 京の僧侶/香道家/歌;風早実積門、  
「詠寝覚和歌」「深緑」「香道余談」「空華香道余談併翰要」、1725「十種香暗部山」著
- C3358 **忍鑑**(にんがい;法諱) 1675 - 174773歳 天台僧;叡山竜城院住;記家役、志賀院留守居役、  
のち関東下向;武蔵仙波喜多院35世、智嚴の法友、1718「八幡宮縁起」著、  
1721「開祖大師九百年忌法会記」/23「山窓雑記」、「三大師百籤和解」外著多数  
忍鑑(にんがい;法諱) → 月照(げつしょう;字、法相僧/尊攘活動) B 1 8 0 6
- G3321 **仁覚**(にんかく;法諱・一乗坊、右大臣源師房男)1045-110258 母;藤原道長女の尊子、平安後期僧、  
1074天台園城寺平等院執行、慶範・明快・惟範・経暹門、源俊房/顕房の弟、  
1093(寛治7)天台座主37世、96大僧正/98法成寺座主、1100(康和2)仏眼院を供養、  
権大僧都相覚の師、歌;金葉II 594(III 584)、  
[あはればむと思ふ心は広けれどはぐくむ袖のせばくもあるかな](金葉;雑594、  
大原の行蓮聖人[作者の門弟か?]の許へ小袖を贈る歌/慈心は広いが小袖は粗末;謙遜)
- G3322 **任覚**(にんかく;法諱/初諱;覚賢、大蔵卿源行宗男)1108?-8174歳 真言僧;信証門、  
1137伝法灌頂を受/56権律師/59東寺二長者/62大僧都/63法印、64禁中で大北斗法を修す、  
1174神泉苑で請雨法を修し効験、「印義訣」「人見抄」「理玉抄」著、  
[任覚(;法諱)の通称] 大夫法印/西院法印

- G3324 **仁廓**(にんかく;法諱、俗姓;中島/のち藤田)1799-1835 肥前佐賀真宗本願寺派願正寺で出家、  
同地長専寺住職/1819本山学林に入/和泉堺の性海門;宗学を修学研鑽、  
漢学;松尾舞山門、故郷長専寺で子弟教育、上京中に客死、「観経和讃聴記」著  
人角(にんかく・じんかく・佐尾)→ 道瑞(どうずい・有岡ありおか、茶人/俳人) F 3 1 8 5  
仁岳(にんがく;字) → 元宜(げんぎ;法諱・仁岳、僧/歌人) I 1 8 3 9  
[良矩(;名)の幼名/号]幼名;思亀、号;仁嶽  
仁嶽(にんがく;号) → 良矩(りょうく・与那原よなばる、琉球廷臣/歌人)H 4 9 1 0
- G3325 **仁寛**(任寛にんかん/蓮念;法諱、左大臣源俊房男)?-? 1114存 兄の醍醐三宝院勝覚について出家、  
真言醍醐寺僧;1101無量光院で定海門;伝法灌頂を受、輔仁親王の護持僧となる、  
1113(永久元)鳥羽天皇暗殺計画に連座;伊豆に配流、  
「諸流大事鈔」「十種行法記」「立河目六」「四卷鈔」「東密才二卷鈔」著、  
[仁寛の通称] 左大臣阿闍梨/大夫阿闍梨/伊豆阿闍梨/東院阿闍梨、
- G3326 **忍基**(にんき) ? - ? 奈良期唐招提寺僧;鑑真[688-763]門、  
鑑真遷化直前に「鑑真像」制作
- G3327 **仁教**(にんきょう/-ぎょう;法諱、仁敦にんこう、俗名;藤原永房、数守or在淵男)875-94975 法相宗興福寺僧、  
927維摩会講師、938法務/948(天曆2)権大僧都、歌;後撰集1377、  
[脇足けうそくを抑をさへてまさへ万代よびよに花の盛りを心静かに](後撰;慶賀1377)  
(左大臣藤原実頼に脇息を贈る時添えた歌/まさへはいらっしゃい;ます+継続ふ命令形)
- G3328 **仁慶**(にんきょう;法諱・恵隆;字、俗姓栗山)?-1818? 武州井草村真言僧;目白新長谷寺卓栄門、  
安永1772-81頃大和長谷寺で顕密を修学/1811常陸真壁郡楽法寺23世、  
「因明正軌」「簠簋(ほき)要録」「六积八転」「妙玄端辞」「論義私記」「俱舍論玄談」外著多数  
仁郷(にんきょう・橋村) → 正衛(まさえ・橋村/度会、神職/書) B 4 0 3 5  
忍鏡(にんきょう;法諱) → 月照(げつしょう;字、法相僧/尊攘活動) B 1 8 0 6
- G3329 **忍空**(にんくう;法諱) ? - ? 平安後期天台叡山僧、1154「観心往生論」著
- G3330 **忍鏗**(にんくう・宜美庵) ? - ? 俳人;貞恕門/1772貞恕「謡曲拾葉抄」補完・刊  
仁空(にんくう;字/初め天台僧)→ 実導(じつどう;法諱、浄土宗西山派僧) V 2 1 0 0
- G3331 **忍継**(にんけい;法諱・号;光聚房)?-? 1847存 江後期天台僧、1842「妙法院宮御再任座主宣下記」、  
1843「慧星出現中堂御修法記」「無動寺明王堂等焼失一件記」、「自在心院宮墓去一件記」著  
忍継(にんけい・法名) → 実淳(さねあつ・徳大寺、歌人) C 2 0 8 6  
仁慶(にんけい) → 仁慶(にんきょう;法諱・恵隆、真言僧) G 3 3 2 8  
仁恵(にんけい;法諱) → 岩坊(いわのぼり;号・仁恵、真言僧/連歌) I 1 1 4 5  
仁卿(にんけい・岡田) → 寒泉(かんせん・岡田おかだ、幕府儒官) E 1 5 0 6  
仁卿(にんけい・行徳) → 玉江(ぎょくこう・行徳ぎょうとく、絵師/篆刻) O 1 6 9 2  
仁卿(にんけい・田中) → 修道(しゅうどう・田中、藩医/儒者/詩) Y 2 1 1 2  
仁卿(にんけい・脇屋) → 恕亭(じよてい・脇屋わきや、儒者) M 2 2 7 1  
仁卿(にんけい・橋村) → 正衛(まさえ・橋村/度会、神職/書) B 4 0 3 5  
任卿(にんけい・長坂/白井) → 重勝(しげかつ・白井/源/長坂、藩士/儒者) Q 2 1 8 2  
仁傑(にんけつ・百々) → 俊道(しゅんどう・百々どど、医者/本草家) L 2 1 5 9  
忍軒(にんけん) → 広城(こうじょう・ひろき・大野、幕臣/故実) B 1 9 3 8
- G3332 **仁源**(にんげん;法諱・号;理智房、藤原師実男)1058-110952 母;源則成女、天台僧;明快・仁覚門、  
長宴・経暹門;灌頂を受、1081平等院権別当、法印/1093法性寺座主/1104法成寺別当、  
1105天台座主40世/僧正、1107鳥羽天皇護持僧/08大阿闍梨、  
1081「愛染王私記」「星供私記谷」/88「文殊私記」著
- G3333 **任源**(にんげん;法名、俗名;竹中隼人)?-? 戦国期周防山口の大内家家臣、  
連歌作者;1534(天文3)大内義隆発句「山河百韻」参加  
人間世盧(にんげんせいろ) → 見外(けんがい・小林こばやし、俳人) B 1 8 3 7
- G3334 **仁杲**(にんこう・法印) ? - ? 鎌倉期真言僧/歌;新続古今1687、  
[なく蟬の端山はやますずしき夕暮にいでてもうすき月の影かな](新続古今十七雑上1687)  
仁杲は 2名存在 ①1170乗海門  
②1262親杲門

- G3335 仁翹(にんこう;法諱) ? - ? 僧侶;法師/連歌:1356成立菟玖波集3句入、  
[山の裾野の草のしたもえ](菟玖;雑1041/前句;富士の峯の煙けりはいつか霞むらん)
- G3336 任口(にんこう/如羊じょう;号、法名;宝誉/光阿/歴我)1606-8681 山城伏見の真宗大谷派西岸寺3世、  
律師、連歌;里村昌程門/俳人;松江重頼[維舟]門、  
1641ころより伏見移住の西山宗因と交流;談林風となる、  
1660重頼「懐子ふところ」76重頼「武蔵野」入、76西鶴「古今俳諧師手鑑」入、  
1677風虎「六百番俳諧発句合」判者、  
1678「五百番自句合」判、1678西鶴「物種集」入、80「阿蘭陀丸二番船」82風黒「高名集」入、  
没後;87其角「続虚栗」89「あら野」入、昌程と連歌;伏見千句参加、  
[草ぼうぼう刈らぬも荷なふ花野哉](あら野;卷四)
- G3337 任行(にんこう・金森?) ? - ? 伊勢桑名の舟運業/俳人;木因門、  
1698「続猿蓑」入/1701支考「桜山伏」「其暁」入、  
[濡れいろや大かはらけの初日影](続猿蓑;卷下/年頭の膳の土器類は水にまず浸す)
- 仁敷(にんこう) → 仁教(にんきょう/にんぎょう、法相僧/歌人) G 3 3 2 7  
 仁浩(にんこう;法諱) → 無涯(むがい;道号・仁浩、入元臨濟僧) 4 2 2 4  
 任口(にんこう) → 高通(たかみち・藤堂、藩主/歌・俳人) D 2 6 8 2  
 任好(にんこう・渡部) → 琴溪(きんけい・渡部/渡辺、藩士/儒者) Q 1 6 8 3  
 忍光(にんこう;号) → 融観(ゆうかん;法諱、;融通念仏僧) B 4 6 0 6  
 忍向(にんこう;法諱) → 月照(げつしょう;字、法相僧/尊攘活動) B 1 8 0 6  
 忍綱(にんこう;字) → 貞紀(ていき;法諱・忍綱、真言僧) 3 0 5 4  
 忍甲(にんこう;字) → 円如(えんにょ;法名・馬嶋まじま、眼科医) F 1 3 2 7
- G3338 仁孝天皇(にんこうてんのう、名;恵仁あやひと、光格天皇第6皇子)1800-4647 母;東京極院藤婧子;  
勸修寺経逸女、1807親王宣下/09立太子/1817即位;在位30年、古儀の復興・学問奨励;  
堂上学問所(のちの学習院)建設を決定、歌人、光格天皇より古今伝授を受、  
1827「文政十年八月廿四日月次御会」32「賜柳宮御賀和歌」、「当吟仙洞御製」著  
人左(にんざ) → 吏登(りと・桜井、俳人) 4 9 0 4
- G3339 忍齋(にんさい・宮川/宮腰/宮越、秀政男)1647-1716 若狭小浜藩士/大納戸役/兵学、  
長沼流兵学;長沼澹齋門、1684久留米藩士/開塾/92頃眼疾失明のち筑前黒田家仕;兵学講義、  
;「黒田藩譜」編参、軍記作者、1689「勇巧記」90「関原軍記大成」編、「肥前島原有馬勇巧記」、  
[忍齋(;号)の名/別号/通称]名;秀興/尚古なおひさ、別号;歴齋/何求/向永/民入、  
通称;仁右衛門/民部
- G3340 忍齋(にんさい・谷たに、名;通統/通称;久右衛門、善徳男)?-1744 和泉堺の和漢学者、  
故実;壺井義知門/香道・花道に通ず、  
「香木長月の記」著/「糺太神宮御神宝」編/「香木誰が袖の記」著  
谷忍々齋と同一? → 忍々齋(にんにんさい・谷、「熟惟記」作者) G 3 3 7 3  
 忍齋(にんさい・石橋) → 生庵(せいあん・石橋いしばし、医者) H 2 4 1 5  
 忍齋(にんさい・谷) → 通統(みちむね・谷たに、故実家/香・花道) J 4 1 7 1  
 忍齋(にんさい・宮重) → 信義(のぶよし・宮重、儒/国学者) D 3 5 8 6  
 忍齋(にんさい・河地) → 信房(のぶふさ・河地かわち、商家/俳・歌人) I 3 5 0 2  
 忍齋(にんさい・山岡/高橋) → 泥舟(でいしゅう・高橋、幕臣/槍術家) B 3 0 1 2  
 忍齋(にんさい・小笠原) → 長遠(ながとお・小笠原おがさわら/源、幕臣) K 3 2 3 4  
 忍齋(にんさい・木村) → 政信(まさのぶ・木村きむら、神道/国学) P 4 0 1 9  
 忍齋(にんさい・名倉) → 千金(ちかね・名倉なくら、国学者) N 2 8 1 0  
 仁濟(にんさい;法諱) → 仁濟(にんせい;法諱・地藏房、真言僧) G 3 3 5 6  
 任齋(にんさい・富田) → 高慶(たかよし・富田とみた、藩家老/農政) E 2 6 0 8  
 任齋(にんさい・吉村/東里) → 翠山(すいざん・東里/吉村、藩士/儒者) 2 3 6 2  
 任齋(にんさい・並河) → 尚美(ひさよし・並河なみかわ/平、医者/歌) K 3 7 4 8  
 仁三郎(にんざぶろう) → 仁三郎(にざぶろう)  
 仁左衛門(にんざえもん・小泉) → 安定(やすさだ・小泉こいずみ、藩士/歌人) B 4 5 3 8

- G3341 **仁山**(にんざん・井元いもと、名;行/通称;啓一郎、別号;二無為)?-? 江末期江戸の儒者/詩・書に長ず、1859詩文「賢乎已けんこし」著
- H3331 **任山**(にんざん;法諱) ? - 1815 信濃伊那郡曹洞宗大永寺8世、歌人;桃沢夢宅(1738-1810)門、3次の災厄に遭う;伊那・筑摩を行脚し信施を得て寺を再建、歌「箕輪十景」著  
 仁山(にんざん・井伊) → 仁山(じんざん・井伊、藩士/詩人) O 2 2 6 5  
 仁山(にんざん・柳河) → 春三(しゅんさん・柳河/西村/栗本、洋学者) K 2 1 2 1  
 仁山(にんざん・加賀山) → 潜彦(せんりゅう・加賀山かがやま、藩蘭医) N 2 4 3 1  
 任子(にんし・藤原) → 宜秋門院(ぎしゅうもんいん、後白河天皇中宮) S 1 6 6 6
- G3342 **人似**(にんじ) ? - ? 江前期俳人;1666一雪「阿波千句」百韻参加  
 任只斎(にんじさい) → 一清(いっせい・伊東[藤]、商人/俳人) H 1 1 4 4
- G3343 **任守**(にんしゅ;法諱) ? - ? 鎌倉期建治-弘安1275-88頃の天台僧、善峰寺蓮華寿院住僧、弥陀院の移住、1275「胎蔵界略次第」著  
 仁寿庵(にんじゅあん) → 壽安(じゅあん・北山きたやま/馬、医者) W 2 1 4 2
- G3344 **仁岫**(にんしゅう;道号・宗寿そうじゅ;法諱)?-?1532-55頃没 臨濟僧;独秀乾才門/法嗣、美濃長良の崇福寺2世/美濃山県郡大桑に南泉寺を開創、のち妙心寺27世に昇住、崇福寺に没、「屋愚集」、「仁岫語録」著
- G3389 **仁秀**(にんしゅう;法諱) ? - ? 戦国期天台僧;叡山西谷西楽院住僧/法印、1539「新成頭本私秘」、「法華經二十八品大意」、「番論議」著
- G3345 **忍袖**(にんしゅう;法諱) ? - ? 1802存 天台宗叡山光聚坊に住僧、1800「中宮御産御修法記」、「愛宕山焼失ニ付天下泰平御御修法記」、「日吉祭祀」外記録著多数  
 仁重(にんじゅう・広瀬) → 蒙斎(もうさい・広瀬、儒者/藩政参与) 4 4 5 3  
 任重(にんじゅう・浜地) → 庸山(ようざん・浜地はまじ、庄屋/詩/画) B 4 7 0 5  
 任重(にんじゅう・加藤) → 任重(ただしげ・加藤かとう、藩士/勤王家) B 2 6 7 2  
 任重(にんじゅう・中里) → 常守(つねもり・中里なかざと、国学者/地誌) E 2 9 0 2  
 任重(にんじゅう・岩井) → 重遠(しげとお・岩井/巖井/岳井/祝い、和算) R 2 1 6 4  
 仁住亭(にんじゅうてい) → 宋閑(そうかん・滝原たきはら、医者/歌人) G 2 5 7 3  
 仁十郎(にんじゅうろう・松井) → 隆暢(たかのぶ・松井まつい、里正) Z 2 6 5 3  
 仁寿斎(にんじゅさい) → 秀石(しゅうせき・渡辺/岩川、絵師/唐絵目利) H 2 1 8 8
- G3346 **仁俊**(にんしゅん;法諱、通称;世尊寺阿闍梨、藤原通俊男)?-? 平安後期天台宗園城寺の阿闍梨/法師、1147-48(久安3-4)頃宮中で如意輪護摩の祈禱を務める(台記)/十訓・古今著聞集に説話、歌;万代集入、続後拾遺(1343)、  
 [あはれとは神々ならば思ふらん人こそ人をなきになすとも](続後拾;神祇1343、鳥羽天皇在位頃のこと;なき事を女に言いつけられて北野社に籠り詠む)
- G3347 **忍舜**(にんしゅん;法諱・号;善法院)?-? 江前期天台宗園城寺の住僧;大僧都、1698(元禄11)寺社奉行米倉丹後守が上洛の時に園城寺の案内を著す、「園城寺堂舎便覧」、1701「新羅倍増記」著  
 任準(にんじゅん・高杉/田上) → 字平太(うへいた・田上たがみ、藩士/蘭学) D 1 2 3 0  
 任順(にんじゅん・片桐) → 源一(げんいち・片桐かたぎり、歌人) H 1 8 7 0
- G3397 **仁恕**(にんじょ/じんじよ/じんじよ;道号・集堯しゅうぎょう;法諱、俗姓;井上) 1483-1574長寿92歳 信濃の臨濟僧、幼時に相国寺随春庵に修業/諸国に参禅/龜泉集証門;嗣法、1544(天文13)相国寺91世、1547南禅寺住持、1560三度目の相国寺鹿苑院住寺;14年間同僧祿職を務める、1574(天正2/92歳)かつて相国寺内に開いた靈泉軒に退隱;没、詩文;天隱竜沢門、「鑊氷集」「蒲室集抄」「蒲梢」「古文眞宝抄」「仁和寺和尚玉唾」「後安養院諡号撰文」著、聯句;1556(73歳)三条西公条「大覚寺和漢千句」参加、66照高院宮と和漢聯句、1570(88歳)梵祥と和漢聯句/寿筠と和漢聯句、  
 [仁恕集堯の号] 睡足/雲間野衲/靈泉斎
- G3348 **仁昭**(にんしょう;法諱、織部正平親仲男)?-? 平安後期僧;法師/阿闍梨?、歌人;後葉集(579)入、1071-82頃「多武峯往生院千世君ちよきみ歌合」左方入(紀伊入道判)、千載集672、続詞花集入、

[世をいとふはしと思ひし通ひ道ちにあやなく人を恋ひわたるかな](千載;恋672)、  
(横川麓の山寺参籠中稚児に恋し遣わす歌/端緒と橋を掛る/橋・通ひ道・渡るは縁語)  
[破れける草の庵いほりをいかにして露かりそめと思はざりけん](後葉;579、  
法華経信解品の心を詠)

G3349 仁聖(にんしょう;法諱、通称;小坂仁聖/月蔵房/大夫律師)?-? 天台宗台密穴太流の異端小坂流の僧、  
「月蔵抄」著

G3350 忍性(にんしょう;法諱・良観;字、伴貞行男)1217-130387歳 大和城下郡屏風里の真言律僧:  
東大寺に受戒、西大寺叡尊/覚盛門、1252関東常陸清涼院住/61鎌倉光泉寺を開創、  
1267極楽寺開山に招聘、極楽寺に長老として止住、1293東大寺大勧進/94四天王寺別当、  
慈善施設設置/道路修築/架橋事業など多くの社会事業を行う、1298「東征絵伝」著、  
没後;後醍醐天皇より菩薩号、  
[忍性の通称/号]通称;医王如来/生身如来、諡号;忍性菩薩

H3300 任笑(にんしょう) ? - ? 江前期上方の俳人、  
1673西鶴「生玉万句」第七渡鳥発句入、  
[色鳥や唯ただ一ひとさしとの御所望也](生玉万句;渡鳥発句/色鳥;秋の渡鳥、  
舞一差しと鳥一刺しを掛る/謡曲船弁慶;ただ一さしと勸むればその時静は立ち上り)

仁性(にんしょう) → 仁性(にんせい、真言僧/権律師) G 3 3 5 5

忍昭(にんしょう・永園寺) → 宣時(のぶとき・大佛おさらぎ/平忠時、武将/歌) C 3 5 2 6

G3351 仁上(にんじょう;法諱) ? - ? 平安後期僧侶/歌人;千載1168、  
[何となくものぞかなしき秋風の身にしむ夜半の旅の寝覚めは](千載;折句歌1168、  
なもあみだの五字を上かみに置きて旅の心を詠む)

忍定院(にんじょういん) → 日憲(にちけん;法諱・智賢、日蓮僧) B 3 3 5 7

仁讓院(にんじょういん) → 日芳(にっほう;法諱・博善、日蓮僧) F 3 3 6 1

人情翁(にんじょうおう) → 春水(初世しゅんすい・為永、人情本作者) 2 1 6 1

忍照尼(にんしょうに) → 愛子(あいこ・跡部あとべ、正偏後妻/歌人) G 1 0 5 4

G3352 任助親王(にんじょしんのう、伏見宮貞敦親王男)1525-8460 母;太政大臣三条実香女、  
1539真言仁和寺入;尊海門/伝法灌頂受/仁和寺20世/1572一品、安藝厳島西方院住/同地没、  
「仁和寺御伝」補、

[任助親王の法諱/通称] 法諱;寛法/任助、通称;厳島御室いっきしまのおむろ

忍成房(にんじょうぼう) → 環中(かんちゅう;法諱・道枢、真宗本願寺派僧) R 1 5 3 6

忍性菩薩(にんしょうぼさつ) → 忍性(にんしょう;法諱・良観、真言律僧) G 3 3 5 0

忍辱舎(にんにんじょくのや) → 広城(こうじょう・ひろき・大野、幕臣/故実) B 1 9 3 8

仁四郎(にんしろう・松井) → 安雄(やすお・松井まつい、里正/和学) G 4 5 6 6

G3353 忍水(にんすい) ? - ? 播磨姫路の俳人;1692才磨「椎の葉」1句入、  
[紅菊にぎくのうつりうれしき此の身かな](椎の葉;147/紅色が我身に映えて嬉しい)

G3354 忍随(にんずい;法諱) ? - ? 江後期天台宗浄林院僧、  
1859「自在心院宮17回忌御法事記」著

H3332 忍介(にんすけ/おしすけ・野村のむら、折田清太夫2男/本姓;加世田)1846-8843 薩摩鹿児島郡西田村の生、  
母の実家の野村家の養嗣;藩士、剣術;大山後角右衛門門/1860(15歳)真影流;深見休八門、  
薬丸流剣術;薬丸半左衛門門、天山流砲術;青山愚痴門、書・歌;是枝生胤門、  
歌人;香川景恒・八田知紀門、戊辰戦争;城下四番小隊分隊長で鳥羽・伏見参戦、  
四番小隊小隊長で白河攻防戦参戦/棚倉に転戦/会津若松城包囲戦に参戦;軍功、  
1869鹿児島常備隊小隊長/71西郷隆盛に従い上京;近衛陸軍大尉;錯乱者による鼻負傷、  
伊予大洲県判事;1872致仕;帰郷/75鹿児島県四等警部;警察署長、  
西南戦争に参戦;転戦後に西郷軍奇兵隊の隊長/延岡・豊後攻略;激戦後敗戦、  
転戦後に城山到着;政府軍の城山総攻撃で陥落;降伏投降;懲役10年/1881特赦、  
鹿児島新聞社や鹿児島学校を設立/共同運輸役員、1888(明治21)鹿児島で病没、  
[忍介(:名)の別名/通称/号]別名;朝雄/盛業/是之、通称;亀次郎(幼名)/十郎太/斉蔵、  
号;梅廼舎/南陽

仁助(にんすけ→にすけ・堀田) → 仁助(にすけ・堀田ほった/藤原、曆算家) 3 3 3 3

- G3355 **仁性**(にんせい/にんしょう;法諱、中納言藤原家成男)1146-? 真言僧;威徳寺実任門;剃髪、1165権律師、1168覚性法親王より伝法灌頂を受、仁和寺学講を務る、「紫金台寺御室御説」著、  
[仁性(;法諱)の幼名/通称]幼名;祇徳、通称;左衛門律師
- G3356 **仁濟**(にんせい;法諱・初諱;尊海、字;地藏房、美濃守源中高男)?-1204 京真言僧;勸修寺寛信門/高野山眞別所地藏院に隠遁、「地藏房口伝抄」「仁濟鈔」「秘密決疑抄」「神鏡」著、  
[仁濟の通称] 大納言阿闍梨
- G3357 **任誓**(にんせい、大庄屋与兵衛男)1658-1724獄死67 加賀能美郡二曲の真宗僧;初め本願寺の下僕、惠空に従学/1681帰郷、十一ヶ村十二日講を組織;村民の尊敬を集める;  
大谷派から異端視され訴えられる;一旦は本願寺派光海に認められる;1716頃再度非難、藩からも徘徊留処分;活動を続けたため捕縛される;獄死、  
「十一ヶ村御書録記」「農民鑑」「聞名歓喜讚」「尊号記」著
- G3382 **仁清**(にんせい・野々村のむら)?- ? 江前期寛文1661-73頃丹波桑田郡野々村の陶工、若い頃は栗田口や瀬戸で陶芸の修業/正保(1644-48)頃京の仁和寺門前に築窯、御室窯おむろがまと称し京焼色絵陶器を完成;金を加えた色絵茶壺を制作;「仁清」の印を捺す、「色絵月梅図茶壺」「色絵雉香炉」「色絵雉香炉」「色絵藤花図茶壺」「色絵梅花図茶壺」外多数、「色絵雉香炉」「法螺貝形香炉」など彫塑的な作品もある、  
[仁清(;号)の通称]壺屋清右衛門/清兵衛
- G3358 **忍誓**(にんせい/にんせい・顕証院)?- ? 1457存 京歌/連歌;正徹門/1433北野万句/49小鴨千句参、1449二条西洞院顕証院の自坊で「広柏ひろがしわ千句»;筒井時述じじゅうの催、筑紫/東国行脚、1452「宝徳千句」参、57「忍誓百首(健保年中名所題百首和歌)」、宗砌らと百韻数度、新菟入東国下向後に消息不明、  
[春に色かる松の一しほ](享徳二年1453宗砌と賦何路連歌;脇句/からまる藤で色取り、発句;咲く藤の裏葉は浪の玉藻哉;宗砌)
- 忍性(にんせい;法諱) → 忍性(にんしょう;法諱・忍性菩薩、真言律僧) G 3 3 5 0  
忍性(にんせい・虎岩) → 道説(どうせつ・虎岩とらいわ、医者/侍医) G 3 1 0 7  
仁静(にんせい・荘田) → 豊城(ほうじょう・荘田しょうだ、藩士/儒者) B 3 9 7 6
- G3359 **忍雪**(にんせつ・其独亭) ? - ? 江後期近江粟太郡辻村の俳人、1816「蕪村翁文集」(京の書肆菊屋太兵衛其成と共編/序)
- G3360 **任節**(にんせつ・富小路とみのこうじ、字;惟寅、任亮男)1822-64牢死43 日吉社坊官(10歳剃髪);法橋、医/易に通ず、国事に奔走/1860水戸藩へ密勅持参;帰京中幕吏に捕縛;入牢中に没、「海防意見書」「正法大王年譜」著、  
[任節の通称/号/変名] 通称;貞丸/中将/希哲、号;星嶽/巴山子、変名;橘貞庵/殿良啓
- G3361 **忍仙**(にんせん;道号・如慧によけい;法諱/初め;慈仙[僊]如忍)1757-182165 和泉大津の黄檗僧;義堂衍勇門;出家/1769(13歳)嗣法/大坂住、1779伊勢三重郡四日市不動寺看坊/1812住寺、1819江戸白金瑞聖寺26世;1821同寺方丈に没、画に通ず;山水・墨梅に長ず、菊舎尼の師、「瑞聖忍僊和尚語録」著、木村兼葭堂・田野村竹田・月僊と交流
- G3362 **仁然**(にんぜん;法諱・順眞;字)1238-131881歳 真言宗高野山僧;賢定門/南院隆恵門、中院流心南院方を興す、「高野山心南院中院」「中院流灌頂」「理趣积私」著
- G3363 **忍善**(にんぜん;法諱) ? - ? 江後期天台宗光照寺僧、1810「円戒国師法語直解」  
仁善子(にんぜんし・藤原) → 仁善子(よし・藤原ふじわら、時平女) D 4 7 2 7  
仁祖(にんそ/じんそ・水落) → 梅圃(ばいかん・水落みずおち、医者/詩) 3 6 9 2
- G3364 **忍宗**(にんそう;法諱) ? - ? 1310存 天台宗叡山僧;尊賢/行宣門/声明、「法華懺法」著  
仁蔵(にんぞう・堀江) → 惺斎(せいさい・堀江ほりえ、儒者/藩儒) I 2 4 2 2  
仁蔵(にんぞう・堀江) → 半峯(はんぼう・堀江ほりえ、惺斎男/藩儒) I 3 6 5 3  
任蔵(にんぞう・原) → 伍軒(ごけん・原はら、藩士/儒者/幕臣) G 1 9 5 1  
任佗(にんた;俳名) → 慶安(けいあん・青地/源、歌、俳) D 1 8 3 4  
任佗坊(にんたぼう・牧野) → 成信(なりのおぶ・牧野、紀行文) H 3 2 9 3
- G3365 **忍達**(にんたつ;法諱/初諱;眞賀・字;善源、号;心浄坊、俗姓宮川)1693-178088 上州甘楽郡小幡の生、天台僧;1704(12歳)剃髪;1711叡山竜城院忍鎧門;諱を忍達の改名/師を継嗣;竜城院主、のち竹林院・慧心院に転住/1750(寛延3)楞嚴院別当兼吉野山学頭となる・大僧正、探題、

- 晩年は等覚院に退隱;没、1731「輪王寺宮御上洛日次記」「輪門様御上洛在洛中谷入用帳」著
- G3366 任他(にんた・正田しょうだ) ? - ? 尾張名古屋の俳人;1677兼頼「熱田宮雀」入、1689「あら野」入、  
[峠たうげ迄硯すずり抱えて月見かな](あら野;巻一、  
意気込んで登って来たが月に圧倒され句作出来ず硯はお荷物)
- 任他庵(にんたあん) → 月居(げつきよ・江森、俳人) 1 8 0 7  
 仁太夫(にんだゆう・本木) → 良永(りょうえい・本木もとき/西、通詞/翻訳) G 4 9 4 7  
 任太郎(にんたろう・立原) → 杏所(きょうしょ・立原たちばら、藩士/絵師) C 1 6 5 8  
 任他庵(にんたあん) → 月居(げつきよ・江森、俳人) 1 8 0 7  
 任地斎(にんちさい) → 朝伍(朝五ちようご・熊代/姫路屋、俳人) I 2 8 1 9
- G3367 仁忠(にんちゆう/じんちゆう;法諱、一乗忠?)?-? 824存 平安前期天台僧:823(弘仁14)一乗止観院で出家、比叡山延暦寺で最澄門、初期延暦寺教団の形成に尽力;同門の義真・光定と対立、820「面授口訣末後」、「三身義私記」「延暦寺禁制式」著、823最澄の最も基本的伝記「叡山大師伝」(一乗忠編;仁忠と同一説/異論もある;真忠説)
- G3368 仁朝(にんちよう;法諱) ? - ? 835存 僧:勝道(;日光開山)門;法嗣、別当、「日光山記」「補陀落山建立修行日記」著
- G3369 仁澄(仁澁にんちよう;法諱、7代將軍惟康親王男)?-1318 天台僧:源恵門/1308日光山28世座主、1316天台座主106世/大僧正、歌人:  
勅撰9首;玉葉(5首271/433/973/1961/2038)続千(4首509/898/1312/2018)、  
[花は散り鳥はまれなる比こころにしも咲く山吹は心ありけり](玉葉;春271/暮山の心を)
- G3370 忍澁(仁澁にんちよう;法諱、二見恒貞男)1645-1711 67 江戸浄土僧:1665増上寺最勝院直伝門;出家、1669山城八幡正法寺住/神道研究専念、76和泉吾孫子浄福寺で八斎戒・菩薩戒を自誓自受、1678堺宗仲寺を再興;法行寺と改創;不断念仏の道場とす、80京鹿ヶ谷に法然院創建;捨世の律院とす、大蔵経を対校/宗書会本の改刻、玄阿・澄隠・潭月・信問らの師、「鎮西宗要辨」「円光大師御伝縁起」「浄業課誦」「已墮未墮辨」「三昧八誓和解」外著多数、[忍澁(;法諱)の初法諱/法名/号]初諱;伝貞、法名;白蓮社宣譽信阿、号;葵翁/金毛老人
- G3371 忍澄(にんちよう;法諱) ? - ? 江後期美濃海津郡鹿野の真宗緑林寺住職/和算家、1818(文政元)「弧矢弦叩底」著
- 任長(にんちよう・東坊城) → 任長(ただなが・東坊城ひがしほうじよう、廷臣/日記) Q 2 6 3 4  
 忍澄(にんちよう・吉川) → 従門(よりかど・吉川よしかわ、幕臣/神道) L 4 7 4 4  
 仁智楼(にんちろう) → 浚新(しゅんしん・青地あおち、藩士/儒者) K 2 1 0 0  
 忍亭(にんてい・小宮山) → 桂軒(けいけん・小宮山、儒者/農政) E 1 8 6 5  
 仁貞(にんてい・釈) → 仁貞(じんてい・釈、渤海の使者/詩人) O 2 2 6 6  
 忍定院(にんていいん→にんじよういん) → 日憲(にちけん;法諱・智賢、日蓮僧) B 3 3 5 7  
 仁堂(にんどう) → 喜斎(きさい・桑野くわの、医者/詩歌) K 1 6 4 8  
 仁堂(にんどう・桑野) → 公克(きみかつ・桑野くわの、国学/歌人) U 1 6 2 9  
 忍冬庵(にんどうあん) → 林谷(りんこく・細川ほそかわ/広瀬、篆刻家/詩人) K 4 9 2 7
- G3372 仁徳天皇(にんとく-、大雀命おおさざきのみこと/大鷦鷯尊、応神天皇皇子)?-399? 83 母;仲姫命なかつひめのみこと、16代天皇、難波高津宮に都/異母弟菟道稚郎子うじのわきいらつこと皇位を譲り合った、  
記紀歌謡:記11首/紀13首、新古今707(906日本紀竟宴の時平の歌が原型)
- 仁和寺一宮(にんなじいちのみや) → 重仁親王(しげひとしんのう、崇徳天皇第1皇子) a 2 1 5 2  
 仁和寺一宮母(にんなじいちのみやはは) → 兵衛佐(ひょうえのすけ・崇徳院、女房/歌) F 3 7 0 8  
 仁和寺眞乗院千手王(にんなじしんじよういんのせんじようおう) → 千手王(せんじようおう・仁和寺/童/歌) O 2 4 8 6  
 仁和寺眞乗院薬師(にんなじしんじよういんのやくし) → 薬師(やくし・仁和寺/童/歌) H 4 5 0 8  
 仁和寺眞乗院松若(にんなじしんじよういんのまつわか) → 松若(まつわか・仁和寺/童/歌) U 4 0 1 3  
 仁和寺阿闍梨(にんなじのあじやり) → 覚延(かくえん、真言僧/歌人) B 1 5 3 5  
 仁和寺僧正(にんなじのそうじよう) → 済信(さいしん;法諱、真言大僧正) G 2 0 7 7  
 仁和寺後入道法親王(にんなじのちのにゅうどうほつしんのう) → 覚性法親王(かくしやうほつしんのう) 1 5 6 2  
 仁和寺法王(にんなじのほうおう) → 宇多天皇(うだてんのう) 1 2 6 8  
 仁和寺宮(にんなじのみや) → 敦実親王(あつみしんのう、宇多皇子、歌/音曲) B 1 0 3 8

- 仁和寺宮(にんなじのみや) → 覚性法親王(かくしょうほっしんのう、門跡/歌人) 1 5 6 2  
仁和寺宮(にんなじのみや) → 守覚法親王(しゅかくほっしんのう、經典/歌人) 2 1 5 1  
仁和帝(にんなのみかど) → 光孝天皇(こうこうてんのう) 1 9 1 0  
忍南(にんなん・高橋) → 祐雄(すけお・高橋たかはし、藩士/代官/儒) G 2 3 1 1  
忍難沙門(にんなんしゃもん) → 日蒼(にっそう、後藤竜齋、日蓮僧/還俗仏教) E 3 3 9 3
- G3373 忍々齋(にんにんさい・谷たに慎)?- ? 江中期享保1716-36頃和泉堺の文筆家、  
1725「熟惟記」著  
谷忍齋と同一? → 忍齋(にんさい・谷、和漢学/故実/香道) G 3 3 4 0  
仁応(にんのう;法諱) → 大徹(だいてつ;道号・仁応、曹洞僧) K 2 6 7 1
- G3374 仁範(にんぱん;法諱) ? - 1054 紀伊の天台宗粉川寺の勸進僧;  
1054「粉川寺大卒都波建立縁起」著  
任夫(にんぶ・鈴木/亀田) → 鶯谷(おうこく・亀田かめだ/鈴木、儒者) C 1 4 1 3  
任夫(にんぶ・中山) → 和清(かずきよ・中山なかやま、藩士/兵学者) M 1 5 1 7  
仁風舍(にんふうしゃ) → 吾扇(ごせん・中野なかの、俳人) D 1 9 1 7
- G3375 仁弁(にんべん;法諱) ? - ? 鎌倉期僧侶/法印、  
歌;1312成立「玉葉集」(1166)、  
[越えきてもなほ末遠し東路の奥とはいはじ白川の関](玉葉;旅歌1166)  
仁甫(にんぼ・中山) → 愛親(なるちか・中山、大納言) I 3 2 4 5  
仁甫(にんぼ;道号) → 仁甫(じんぼ;道号・聖寿;法諱、臨濟僧) P 2 2 8 7  
任甫(にんぼ・佐藤/小松) → 愚山(ぐざん・小松こまつ、藩士/漢学) C 1 7 4 1
- G3390 仁峰(にんぼう;道号・元善;法諱、俗姓松田) 1658-1730 73歳 黄檗僧;1682出家/万福寺高泉/了翁門、  
万福寺天真院2世伏見仏国寺10世/鹿谷如意寺住持、  
「禅余集」「宝蓮物語」「了翁禅師語録」編
- G3376 仁明天皇(にんみょうてんのう、正良まさら、承和の帝/深草帝、嵯峨天皇第2皇子) 810-850 41 母;橘嘉智子、  
即位833-850、經史/医/書/音韻に通ず、遣唐使人中心に賜姓多数、詩:經国入、新拾遺1499、  
[いつのまにいとふ心をおみつみつ蓮はあすにお(を)るはわが身なるらん]、  
(新拾遺;釈教1499)  
忍やまの山人(にんやまのさんじん) → 忍やまの山人(おしやまのやまひと、俳人) B 1 4 4 9
- G3377 仁祐(にんゆう;法諱、藤原通宗男[作者部類]or家実男[尊卑分脈])?-? 平安後期;天台比叡山僧、  
律師、歌人:行尊(1055-1135)大僧正と贈答;詞花259(後葉集404)、  
[鶯は木伝こたふ花の枝にても谷の古巢を思ひ忘するな](詞花;恋259、  
いとほしくしていた童わらはが大僧正行尊の許に行ったので贈歌)、  
560童に代わり行尊の返歌;鶯は花の都も旅なれば谷の古巢を忘れ矢はする)  
参照 → 行尊(ぎょうそん・平等院大僧正/歌人) 1 6 3 5  
忍熊王(にんゆうおう) → 忍熊王(おしくまのみこ、仲哀天皇皇子/謀反/歌謡) 1 4 8 3  
任有亭(にんゆうけいん) → 玄如(げんによ;法諱、浄土僧/歌人) C 1 8 8 8  
仁誉(にんよ・東蓮社) → 性激(しょうちやく;法諱・靈潭、浄土僧) K 2 2 9 0  
忍誉(にんよ・澄蓮社) → 信培(しんばい;法諱・湛慧、浄土僧) P 2 2 6 1  
忍誉(にんよ・青蓮社) → 亮徹(りょうてつ;法諱、浄土僧) L 4 9 5 5  
忍誉(にんよ・梵蓮社) → 音激(おんちやく;法諱、浄土僧) D 1 4 4 9
- G3378 仁誉親王(にんよしんのう、常磐井宮恒明親王男) 1341-? 母;洞院実泰女、1356聖護院覚誉親王門、  
1360(正平15)園城寺長吏/その後南朝に帰す;二品、歌:1375五百番歌合参加、  
新葉(13首106/312/358/477/481/542/621/1029/1086/1096/1143/1166/1337)、  
[芳野山峰の岩かど踏みならし花のためにも身をば惜しまず](新葉;春106、  
五百番歌合に)  
仁里(にんり・宮内) → 嘉長(よしなが・宮内/清原/永井、神職/和漢学) F 4 7 3 1  
任里(にんり・山下) → 直温(なおほる・山下、藩士/儒) C 3 2 1 5  
忍律法師(にんりつぼうし) → 浄業(じょうごう;法諱、律僧/戒律宣揚) I 2 2 8 3
- G3379 仁隆(にんりゅう;法諱、上乘院法印/亮法印、藤原成隆男) 1144-1205 62 真言仁和寺僧;守覚親王門;  
1184伝法灌頂受/91権大僧都/1200法印/東寺長者、

- 1182「観音院恒例結縁灌頂記」/1203「伝法灌頂教授用意」著
- H3308 **仁竜**(にんりゅう;法諱・大沢おおさわ、通称;靈鳳) 1825-1910<sup>86</sup> 近江甲賀郡三雲村柑子袋の愍念寺住職、  
真宗大谷派僧/歌人;鳩のうみ入  
仁竜房(にんりゅうぼう) → 快辨(かいべん;法諱・仁竜房、真言僧) J 1 5 0 6
- G3380 **忍了**(にんりょう;法諱・謙誉;法名)?-1745 下総結城浄土宗弘経寺26世/駿河府中宝台院住職、  
「了秀行業記」「化他五重儀式」/1714「選択本願念仏集玄談」著
- G3381 **忍梁**(にんりょう;法諱) ? - ? 江後期嘉永1848-54頃真宗大谷派の浄雲寺住職、  
「願々鈔義紀聞」著  
仁亮院(にんりょういん) → 正令(まさのり・戸沢とざわ、藩主/国学/歌) G 4 0 2 4  
仁良斎(にんりょうさい) → 在満(ありまる・荷田かだ、歌学/故実) 1 0 3 4
- G3383 **忍廬**(にんろ・友部熙正) 1818- 1868<sup>51歳</sup> 常陸儒者/1843水戸藩儒、  
「開国勲将事略」「停雲楼舒嘯」著  
任弄斎(にんろうさい・大庭おおば) → 宗分(そうぶん・大庭、武将/歌/連歌) C 2 5 8 6